取扱書

よくお読みになってご使用ください。

取扱書は車の中に保管しましょう。

このたびは Porte をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は**ポルテ**の取り扱いについてドライバーの動作にそって説明しています。
安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。

・運転は交通ルール・マナーを守り、自然環境保護にも気をくばりましょう。
・トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。
・装備については販売店でカタログをご請求ください。
・ご不明な点は担当営業スタッフにおたずねください。

●保証および点検整備については「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。
●トヨタ販売店の所在地および連絡先は、サービス網／お客様相談テレホン網として「メンテナンスノート」に記載しています。
●取扱書はいつでも見られるように、メンテナンスノートと共に車に大切に保管してください。
●車をゆずられるときは、次のユーザーのためにこの取扱書およびメンテナンスノートを車に付けておいてください。

車の仕様などの変更により、本書の内容が車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

本書の構成

本書は次の9章から構成されています。
とくに第1章の「安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと」は重要です。しっかりとお読みください。

第1章：安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので必ずお読みください。

第2章：基本操作早わかり

はじめてこの車にお乗りいただく方のために、基本操作を簡単に説明しています。

第3章：運転をする前に

ドアの開閉、シート、シートベルトなどの取り扱いを説明しています。

第4章：運転をするときに

エンジンのかけ方、シフトレバー、メーター、スイッチなどの取り扱いを説明しています。

第5章：室内装備の取り扱い

エアコン、オーディオ、室内装備品（室内灯、カップホルダーなど）の取り扱いを説明しています。

第6章：安全・快適装備の解説と注意

ＳＲＳエアバッグ、ＡＢＳなど安全・快適装備についての機能説明と取り扱い上の注意を説明しています。

第7章：車との上手な付き合い方

季節による取り扱い、環境に配慮した経済的な運転方法などについて説明しています。

第8章：メンテナンス

車の手入れのしかたと日常点検について説明しています。

第9章：万一のとき

故障やパンクしたときなど、万一のときに必要な処置方法について説明しています。

表示について

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」や「車両の故障や破損につながるおそれがあること」と、その回避方法を下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、必ず読んで遵守してください。

	記載事項をお守りいただかないと、重大な傷害や事故・車両火災におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあること
	記載事項をお守りいただかないと、傷害、車両の故障や破損につながるおそれがあること

その他の表示

「知っておくと便利なこと」、「知っておいていただきたいこと」を下記の表示で記載しています。

	知っておくと便利なこと 知っておいていただきたいこと

トヨタ販売店にご連絡・ご相談していただきたい場合や、点検整備を行っていただきたい場合を下記のマークで記載しています。

	トヨタ販売店にご連絡・ご相談していただきたいとき トヨタ販売店で点検整備を行っていただきたいとき

イラストのマークについて

してはならない行為を示すイラストには下記のマークが記載されています。

	してはならない行為

操作説明（3～9章）の見方

操作説明（3～9章）の基本的な読み方について説明しています。

タイトル
階層により区別してあります。

★
グレード等により装着の有無が異なることをお知らせします。

ヘッダー
ページの内容を案内しています。

ツメタイトル
各章のタイトルを案内しています。

警告
前ページ参照

注意
前ページ参照

（トヨタマーク）
前ページ参照

知識
前ページ参照

操作要領
操作要領が書かれています。

■本書では新計量法の施行に伴い国際単位系（略称ＳＩ単位）を基本に記載し、従来単位を｛　｝内に記載してあります。

※このページはサンプルですので記載内容は実際の車とは異なります。

検索方法について

本書ではお客様が知りたいことを素早くお読みいただけるよう、次のような工夫がしてあります。

タイトルからさがす

6ページ

- 「目次」
- 「ツメタイトル」
- 「各章のはじめの目次」

取り付け位置からさがす

8ページ

- 「イラスト目次」

名称からさがす

444ページ

- 「五十音さくいん」

警告灯からさがす

454ページ

- 「警告灯さくいん」

症状からさがす

444ページ

- 「五十音さくいん」
（色付き文字の項目）

目次

CONTENTS

イラスト目次

インストルメントパネル

※装備のちがい、注文装備も含んでいます。

※装備のちがい、注文装備も含んでいます。

イラスト目次

室　　内

※装備のちがい、注文装備も含んでいます。

イラスト目次

車　両　外　観

※装備のちがい、注文装備も含んでいます。

1 安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので必ずお読みください。

1.点検整備実施のお願い

**点検整備を必ず実施してください。
実施していただかないと、重大な車両故障につながるおそれがあり危険です。**

①点検整備を必ず実施してください。

●日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。
日常点検（➡387ページ参照）や定期点検など、点検整備の詳細については「メンテナンスノート」をお読みください。

販売店	定期点検は、安全の確保、公害防止の観点から、定期的に実施する点検です。 定期点検整備は、専用の整備機器、指定の油脂類、交換された部品・油脂類の適切な処理などが必要なため、トヨタ販売店にご相談ください。

●点検整備は自動車の健康診断です。
定期的な点検を行い、その結果必要となった整備や部品交換を実施することが末永く車と付き合っていくうえで最も大切なことです。
●点検整備を実施しないと、例えばエンジンオイルの不足・劣化によりエンジン内部が焼き付きなどを起こすおそれがあります。また、ブレーキパッドやブレーキディスクなど、その役割を果たすと共に摩耗していく部品については、使用限度（摩耗限度）をこえての使用は故障を引き起こすばかりか、事故に結びつくおそれもあります。

販売店	日常点検で異常があったり、車の調子が悪い場合には、トヨタ販売店にご相談ください。

お出かけ前に、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①窓ごしなど車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。

●思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。

②低水温表示灯が青く点灯している間は、極端にアクセルペダルをあおらないでください。

●暖機不足の状態では、触媒装置が未燃焼ガスにより異常燃焼を起こし、損傷するおそれがあります。
●暖機は低水温表示灯（青色）が消灯すれば十分です。

③走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

●ドアが確実に閉まっていないと走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。なお、いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていないときは、半ドア警告灯（➡247ページ参照）が点灯します。

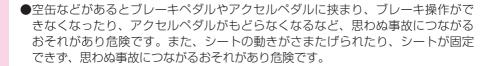
④フロントガラス前部の外気取り入れ口に雪、落ち葉などが付いているときは取り除いてください。

●外気が導入できず、車内の換気が十分できなくなり、雨天時など車内の湿度が上がり、ガラスが曇ったりして視界が悪くなるおそれがあります。

⑤停車中にハンドル位置を調整したときは、確実に固定されていることを確認してください。

●ハンドルの固定が不十分だと、走行中にハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥運転席足元、運転席下にものを置かないでください。

●空缶などがあるとブレーキペダルやアクセルペダルに挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルがもどらなくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、シートの動きがさまたげられたり、シートが固定できず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑦フロアマットはお車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定して使用してください。

●運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

・トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。

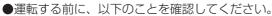
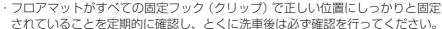
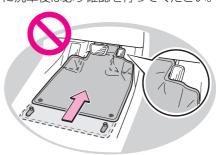
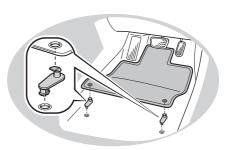
・運転席専用のフロアマットを使用してください。

・付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。カーペットの穴は、トヨタ純正フロアマットのずれを防止するために使用する固定クリップ取り付け用です。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をお読みください。

・他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。

・フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。

●運転する前に、以下のことを確認してください。

・フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認を行ってください。

・エンジン停止およびシフトレバーがⓅの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

⑧助手席や後席に荷物を積み重ねないでください。

●急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員にあたったり、荷物を損傷したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●荷物はラゲージルームに安定した状態（例えば、ラゲージルーム前方に均等に）で置いてください。

⑨燃料が入った容器やスプレー缶などは積まないでください。

●万一のとき引火し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑩ボンネットを開けて作業などをしたときは、走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

●ロックせずに走行するとボンネットが開いて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- ●いつもと違う音や臭いや振動がするとき
- ●ハンドル操作に異常を感じたとき
- ●ブレーキ液が不足しているとき
- ●地面に油のもれたあとが残っているとき
- ●メーター・表示灯・警告灯、ランプ類に異常があるとき

⑫お酒を飲んでの運転は絶対にしないでください。

- ●飲酒運転は法律で禁止されています。
- ●飲酒運転は非常に危険で、ごく少量のアルコールでも判断力・視力・注意力に影響をおよぼし、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

⑬エンジンルーム内および車体床下に、ネコやネズミなどの小動物がいないことを確認してください。

- ●エンジン始動時、ファンやベルトなどに小動物が巻き込まれたりして、機能不具合の原因となるおそれがあります。

燃料を補給するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①指定以外の燃料を使用しないでください。

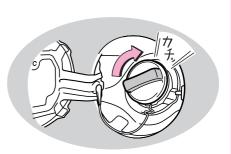
●指定燃料は無鉛レギュラーガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
●指定以外の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使うとエンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

②燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、燃料に引火してやけどなどの重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●エンジンは必ず停止してください。
●車のドア、窓は閉めてください。
●タバコなど火気を近付けないでください。
●フューエルリッド・フューエルキャップを開けるときなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分にふれて体の静電気除去を行ってください。体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。

●フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。
気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
フューエルキャップを少しゆるめたときに“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。
その音が止まってからゆっくりと開けてください。

ツマミ部分

●給油中、再び車内のシートにもどったり、帯電している人やものにふれないでください。（再帯電することがあります）
●給油口には静電気除去を行った方以外を近付けないでください。
●給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
●給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と一度音がするまで右にまわしてください。手を離すと若干もどります。
●車に合った、トヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
●その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

③給油時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。

●燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますのでご注意ください。

4.走行するときの注意

走行するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①走行中はエンジンを停止しないでください。

●エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

②走行中はハンドル位置やミラー、運転席シートの調整はしないでください。

●調整中に運転を誤ったり、シートが突然動くなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

③ドアミラーを倒したまま走行しないでください。

●ドアミラーによる後方確認ができず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④ブレーキペダルに足を乗せたり、パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。

●ブレーキパッドが早く摩耗したり、ブレーキが過熱しブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤下り坂ではエンジンブレーキを併用してください。

●ブレーキペダルを踏み続けると、過熱によりブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。

⑥車を少し移動させるときでも、必ずエンジンを始動してください。

●エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑦ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●オイルの温度が上がりすぎたり潤滑不良を起こし、パワーステアリング装置を損傷するおそれがあります。

⑧ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者は運転中に使用しないでください。

- ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 電話をかけるときや、電話がかかってきたときに、注意が電話機に向いてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が使用するときは安全な場所に停車してから使用してください。

⑨大きな段差がある場所では慎重に走行してください。

- 次のような場所を走行するときは、バンパーを損傷するおそれがありますので、スピードをおとして慎重に走行してください。
  - ・駐車場の出入り口などの段差のある場所を通過するとき
  - ・立体駐車場のスロープなど勾配が急な場所を走行するとき
  - ・輪止めなどのある場所や、路肩に沿って駐停車するとき
  - ・凹凸やわだちのある道を走行するとき
  - ・くぼみ（穴）などを通過するとき
  - ・平坦な道から上り坂・下り坂に進入するとき、または上り坂・下り坂から平坦な道に進入するとき

⑩ぬれた路面や積雪路、凍結路などのすべりやすい路面では、とくに慎重に走行してください。

●すべりやすい路面での急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車を制御できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●シフトアップ、シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●寒いとき、橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。
●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため慎重に走行してください。

⑪冠水した道路は走行しないでください。

販売店

冠水した道路を走行するとエンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。
万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。
●ブレーキの効き具合
●エンジン、トランスミッション、トランスファー（4WD車）、ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますのでオイルの交換が必要です）
●プロペラシャフト（4WD車）、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

⑫湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、オートエアコン装着車では、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。マニュアルエアコン装着車では、吹き出し口切りかえダイヤルを にしないでください。

●外気とウインドゥの温度差でウインドゥ外側表面が曇り、視界をさまたげる場合があります。

⑬スタック※したときは

※ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。

●スタックからの脱出をこころみるときは、必ず周囲の安全を十分に確認してください。脱出の勢いで、ものを損傷させたり、人身事故を引き起こすおそれがあり危険です。
●タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品（ディファレンシャルギヤなど）が異常過熱により、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●スタックからの脱出のために、やむを得ず前進・後退を繰り返すときは、トランスミッションやディファレンシャルギヤなどに損傷を与えるおそれがあるため、次のことに注意してください。
・シフトレバーを🅓または🅡に確実に入れてから、アクセルペダルを軽く踏んでください。また、シフトレバー操作中は絶対にアクセルペダルを踏まないでください。
・過度の空ぶかしやタイヤの空転をさせないでください。
・過度にタイヤが空転した場合には、エンジン回転が低くなってからブレーキ操作をしてください。
・数回行っても脱出できないときは、本操作を中止してください。
●スタック脱出には、次の方法が有効です。
・タイヤ前後の土や雪を取り除く
・タイヤの下に木や石などをあてがう

販売店

けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。無理にけん引せず、トヨタ販売店やＪＡＦなどに依頼してください。

⑭洗車後や水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

●ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

⑮走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体が飛ばされ、頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑯窓から手や顔を出さないでください。

●走行中、手や顔を出していると、車外のものなどにあたったり、急ブレーキ時に頭を窓枠にぶつけたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑰走行中はドアレバーを引かないでください。

●走行中はドアレバーを引かないでください。ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

⑱ドアガラスを開けるときや閉めるときは、他の人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込まないように注意してください。

●ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑲収納ボックス（➡304ページ参照）のフタや、4WD車ではデッキボード（➡310ページ参照）を開けたまま走行しないでください。

●急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑳収納ポケット（➡305ページ参照）、マルチボックス（➡306ページ参照）に転がりやすいものや凹面より高さのあるものを収納しないでください。

●急ブレーキ、急旋回したときなどに収納物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

㉑ウインドゥガラスにアクセサリーを取り付けたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上にものを置いたまま走行しないでください。

●運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に安全運転のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

㉒車内の床に転がりやすいものを置かないでください。

●フラットフロアになっているため、転がりやすいものを車内の床に置くと、急ブレーキ、急旋回したときなどに運転席まで転がり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

走行中、異常に気付いたら、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①警告灯が点灯・点滅したら、安全な場所に停車し、ただちに処置してください。

●点灯・点滅したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。警告灯の内容を確認し、適切な処置をしてください。（➲234ページ参照）

②ブレーキ警告灯が点灯したまま走行し続けないでください。

販売店

警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。
●エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき
この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときはブレーキペダルを強く踏んでください。
●ブレーキ警告灯がＡＢＳ ＆ ブレーキアシスト警告灯、またはＡＢＳ警告灯と同時に点灯したままのとき
この場合、ＡＢＳまたはブレーキアシスト（ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車）に異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

③エンストしたときは、落ち着いて操作してください。

●エンストしたときは、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。
この場合は、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れて操作し、周囲の安全を確かめ、路肩に寄せて停車してください。

④走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）しても、あわてず対応してください。

●ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキや急ハンドルは車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
●次のようなときは、パンクやバーストが考えられます。
・ハンドルがとられるとき
・異常な振動があるとき
・車両が異常に傾いたとき
●パンクしたまま走行しないでください。
パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイールやサスペンション、車体に損傷を与えるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。

⑤車体床下やタイヤ・ディスクホイールに強い衝撃を受けたら、ただちに安全な場所に車を止めて、下まわりを点検してください。

●ブレーキ液や燃料がもれたり、サスペンション部品、タイヤ・ディスクホイール、駆動系部品などの変形や損傷の可能性があるため、そのままの状態で使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

もれや損傷が見つかった場合は、そのまま使用せずトヨタ販売店にご相談ください。

⑥走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキのパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

販売店

警告音は、ブレーキパッドウェアインジケーターによるもので、走行中に警告音（“キーキー”という金属音）を発生させ、ブレーキパッドが使用限度に近付いたことを運転者に知らせます。
警告音が発生したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

⑦走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、次のことをお守りください。

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、キーは絶対に抜かないでください。キーを抜くとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

6.駐停車するときの注意

駐停車するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、必ずエンジンを停止し、施錠してください。

●車から離れるときは、必ずエンジンを停止して、施錠することが法律で義務付けられています。また車両盗難や車内のものを盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。
●車から離れるときは、以下のことを守ってください。お守りいただかないと、車が無人で動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
・シフトレバーをⓅにする
・パーキングブレーキをかける
・エンジンを停止する
・ドアを施錠する

②可燃物付近に車を止めないでください。

●車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると、火災につながるおそれがあり危険です。
●木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を十分離して止めてください。すき間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災につながるおそれがあり危険です。
●枯れ草や紙くずなど燃えやすいものの上を走行したり、車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

③寒冷時、パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。(➡350ページ参照)

●輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④停車中に空ぶかしをしないでください。

●排気管が過熱し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤炎天下で駐車するときは、メガネ、ライター、スプレー缶、炭酸飲料の缶などを車内に放置したままにしないでください。

●車内が大変高温になるため、ライターやスプレー缶のガスが自然にもれたり、破裂したりして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●炭酸飲料の缶が破裂したりして室内を汚したり、電気部品のショートの原因となるおそれがあります。
●車内が大変高温になるため、プラスチックレンズやプラスチック素材のメガネの変形、ひび割れを起こすことがあります。

⑥仮眠するときは、必ずエンジンを停止してください。

●エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車の急発進による事故や、エンジンの異常過熱による車両火災につながるおそれがあり危険です。
また、排気管が損傷していたり、風通しの悪い場所では、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（ＣＯ）が含まれています。
誤って排気ガスを吸い込まないようにするため、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①換気が悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。

●車庫内など囲まれた場所では、排気ガスが充満し排気ガスに含まれる一酸化炭素（ＣＯ）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

②雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。

●エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

③排気管はときどき点検してください。

排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

④バックドアを開けたまま走行しないでください。

●開けたまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行する前に、必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

⑤車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら、次の処置をしてください。

●すべての窓を全開にして新鮮な外気を車内に入れてください。

販売店	すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま放置すると、排気ガスにより、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

8.お子さまを乗せるときの注意

お子さまを乗せるときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①お子さまはリヤシートに座らせてください。

●助手席ではお子さまの動作が気になり運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置にふれて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

②お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。

●ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●リヤシートでも必ずシートベルトを着用してください。（➡190ページ参照）

●シートベルトの肩部ベルトが首やあごにあたったり、腰部ベルトが腰骨にかからないような小さなお子さまには、お子さまの体に合った子供専用シートをご使用ください。子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。

③お子さまがラゲージルームに入らないように注意してください。

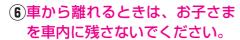
●ボディの突起にあたるなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

④お子さまをシートベルトで絶対に遊ばせないでください。

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

⑤ドア、ドアガラスなどは、お子さまに操作させないでください。

●お子さまが操作すると、閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●ウインドゥロックスイッチ（➡153ページ参照）を使用して、お子さまが誤って操作しないようにしてください。また、ドアガラスを開けるときや閉めるときは、他の人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込まないように注意して操作してください。

⑥車から離れるときは、お子さまを車内に残さないでください。

●炎天下の車内は大変高温となり、お子さまを残しておくと、熱射病や脱水症状となり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまを残しておくと、マッチ・ライター・発炎筒の火遊びによる車両火災につながるおそれがあり危険です。
●エンジン スイッチにキーを付けたまま車内にお子さまを残しておくと、パワーウインドゥのスイッチを操作し、誤って手・頭・首などを挟み、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、運転装置を動かして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。絶対にキーを付けたままお子さまを車内に残さないでください。

1.シートについての注意

シートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①シートは正しい運転姿勢がとれるように位置を調整してください。

●正しい運転姿勢をとらないと、運転操作を誤り思わぬ事故につながるだけでなく、シートベルト、ＳＲＳエアバッグ、ヘッドレストなどの効果が発揮されず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
正しい運転姿勢については➡162ページをお読みください。

②シートの調整、またはシートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。

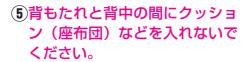
●固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③走行中はシートの調整、またはシートアレンジをしないでください。

●ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

④背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。

●必要以上に背もたれを倒していると、衝突または追突されたとき、腰部ベルトが腰骨からずれ、体がシートベルトの下にもぐり込み、強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑤背もたれと背中の間にクッション（座布団）などを入れないでください。

●正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したときシートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑥ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

●衝突したときなどに首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
フロントシートのヘッドレストは、ヘッドレストの中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
リヤシート左右席のヘッドレストは、ヘッドレストの中央が耳の後方になるように高さを調整してください。リヤシート中央席のヘッドレストは、ヘッドレストを必ず上げた状態で使用してください。

⑦ヘッドレストは、それぞれのシート専用です。取り付けるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。

●ヘッドレストを間違って取り付けると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑧助手席シートにこの車専用のトヨタ純正品（シートカバーなど）以外のものを取り付けないでください。

●この車専用のトヨタ純正品以外のものを取り付けると、助手席シートベルトの正常な作動のさまたげとなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取り付けてください。

⑨走行中は助手席レバーを使用しないでください。

●急ブレーキをかけたときや、車が旋回しているときなどにシートが急に動き、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑩背もたれをもどすときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。

●シートベルトが傷付くおそれがあり、傷付いたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑪シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でシフトレバーをⓅに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。

●シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でシフトレバーをⓅに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。不整地や傾斜地では操作中に不意にシートが動き、手足などを挟まれ生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●走行中はシートアレンジ操作をしないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑫リヤシートへ乗り降りしたあとは、必ず助手席を固定させてください。

●固定させていないと急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートが動き、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑬倒した背もたれの上やラゲージルーム、またシートアレンジなどにより広げたスペースに人を乗せて走行しないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑭運転席をフラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。

●ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑮走行中は、テーブルとして使用しないでください。

●ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑯ラゲージスペースを拡大するときは、次のことをお守りください。

●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●リヤシートを前倒ししたときは、お子さまがラゲージルームに入らないように注意してください。ボディの突起にあたるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●背もたれをもどすときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷付くおそれがあり、傷付いたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑰シートの下にものを置かないでください。

●ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因となります。

子供専用シートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①車のシートベルトが正しく着用できない小さなお子さまには、体に合った子供専用シートに座らせてください。

●乳児は、頭や首を含め完全な安全保護サポート（ベビーシート）が必要です。乳児の首は安定していなくて、また頭は他の部分に比べてきわめて重いからです。
乳児は、必ず適切なベビーシートに座らせてください。
●幼児の体形は、シートベルトの設計対象となっている大人とは異なっています。幼児の骨盤は小さく、通常のシートベルトでは骨盤の低い位置にとどまらず、腹部にかかってしまいます。衝突した場合、シートベルトによって腹部に強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
幼児は必ず適切な子供専用シートに座らせてください。

②ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカー専用のベース部をご使用になるときは、必ず商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってご使用ください。

●使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、子供専用シートが正しく機能せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●子供専用シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。

ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカー専用のベース部については、トヨタ販売店にご相談ください。

③子供専用シートは確実に固定できるように取り付けてください。

子供専用シートは、取り付け位置や取り付け方向に注意をして確実に取り付けてください。取り付けが不適切な場合、急ブレーキや衝突したときなどに、子供専用シートが正しく機能せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■子供専用シートはリヤシートに取り付けてください。

●リヤシートには子供専用シートの取り付け装置が装備されています。(➡193ページ参照)

●運転席側リヤシートで、運転席の位置により安全に取り付けられる十分なスペースが確保できない場合は、子供専用シートを無理に取り付けず、助手席側に取り付けてください。

⚠ 警　告　　助手席SRSエアバッグ

このシートに、ベビーシートを取り付けたり
後向きのチャイルドシートを取り付けないでください。
また、絶対にお子さまを前席の前に立たせたり
膝の上に抱いたりしないでください。

エアバッグの衝撃により、死亡または重大な傷害に
至るおそれがあります。

■助手席には、子供専用シートをうしろ向きに絶対に取り付けないでください。

●うしろ向きに取り付けた場合、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。併せてご覧ください。

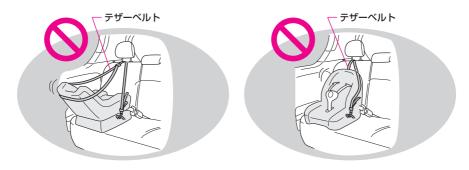
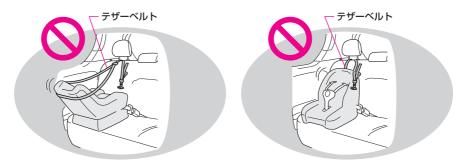
●やむを得ず助手席に前向きに子供専用シートを取り付ける場合には、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの衝撃を少しでも緩和させるため、助手席シートの前後位置調整をいちばんうしろにして取り付けてください。
お守りいただかないと、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、お子さまに強い衝撃が加わり危険です。

■ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカーで固定する子供専用シートを取り付けるときは、固定専用バーおよびアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。

●異物やシートベルトなどをかみ込むと子供専用シートが固定されず、衝突したときなどに飛ばされて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

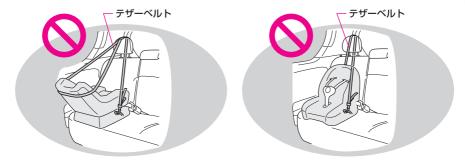
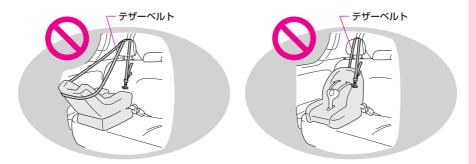
■子供専用シートを取り付けるときは、必ずテザーベルトがピンと張るまで張力をかけてください。

●テザーベルトが正しく張っていないと、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ＦＦ車

4WD車

■テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。

●ヘッドレストの上にかけると、子供専用シートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ＦＦ車

4WD車

④子供専用シートを車両に搭載するときは、以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。

●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

シートベルトについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①車に乗るときは、全員がシートベルトを正しく着用してください。

シートベルトを着用しなかったり、正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体がシートに保持されず、体をぶつけたり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。また、車外に投げ出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトの着用は法律で義務付けられています。運転者は乗員全員が次の使用方法に従って、シートベルトを正しく着用しているかを確認してから走行してください。

●背もたれを調整し、上体を起こし深く腰かけて座ること

肩部ベルト
●肩に十分かけること
（首にかかったり肩からはずれないこと）

腰部ベルト
●必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること

●ねじれていないこと

〈正しい着用のしかた〉

■シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰かけた状態で着用してください。

正しい姿勢については、➡162ページを参照してください。

■肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。

●シートベルトの肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるように着用してください。
●ベルトを通す位置が間違っていると、衝突時に、腹部などに強い圧迫を受け危険です。

■運転席では、アジャスタブルショルダーベルトアンカーを確実に調整してください。（➡191ページ参照）

●シートベルトが首にあたらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。
●調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

■シートベルトの腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。

●シートベルトの腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したとき、腹部などに強い圧迫を受け危険です。

■シートベルトは必ず１人で１本のベルトを着用してください。

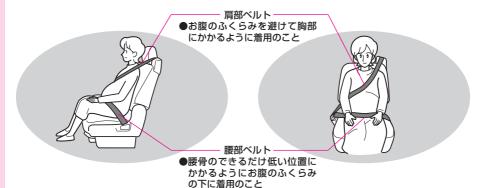
●2人以上で1本のシートベルトを着用すると、シートベルトが衝撃を分散できないばかりか、2人がぶつかり合うなどして危険です。

②助手席シートうしろのベルト穴にごみや異物などを入れないでください。

●ごみや異物などが入ると衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

●妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
また、肩部ベルトは確実に肩を通しお腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
●ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

④疾患のある方も必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

⑤シートベルトは、ねじれやゆるみがなく確実にロックされた状態で着用してください。

正しい運転姿勢でもシートベルトがねじれていたり、ゆるんでいたり、確実にロックをしていない場合には、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができず危険です。

販売店

ベルトがねじれている場合は、正しく装着できるようほどいてください。ねじれがうまくほどけない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■リヤシート左右席の3点式シートベルトを使用するときは、シートベルトハンガーにシートベルトがかかっていないことを確認してください。

●シートベルトハンガーにシートベルトがかかっていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■洗濯ばさみやクリップなどでシートベルトにたるみを付けて使用しないでください。

●肩部ベルトがゆるすぎると、衝突の際、ベルトで体が拘束されるまでの移動量が大きくなり、ベルトが胸部などを圧迫して危険です。また、頭をハンドルにぶつけたり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

■**プレートをバックルに挿し込むときは、プレートとバックルが“カチッ”と音がして確実にかみ合っていることを確認してください。**

●異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトがはずれて危険です。

⑥シートベルトを損傷させたり、損傷したシートベルトは使用しないでください。

損傷したシートベルトをそのまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトやプレートを、シートやドアに挟まないようにしてください。挟まると傷が付くおそれがあり、そのまま使用すると危険です。

■**ほつれ、すり切れができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐに交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷付いたシートベルトは使用しないでください。衝突したときなどに本来の機能が十分発揮できなくなります。**

●このまま使用すると、衝突のときなどに衝撃によりベルトが切れる可能性があります。また、正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。

●シートベルトが正常に機能しない場合は、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。

■シートベルトの改造や分解・取り付け・取りはずしなどをしないでください。

販売店

衝突したときなどにシートベルトが正常に作動しなくなります。
シートベルトの取り付け、取りはずし、交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

■プリテンショナー付シートベルトの改造や分解・取り付け・取りはずしなどはしないでください。

販売店

プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがありますので、修理は必ずトヨタ販売店で行ってください。

■プリテンショナー付シートベルトが作動した場合は再使用しないでください。

販売店

プリテンショナー付シートベルトが作動するとSRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。強度が低下します。

●シートベルトの性能が低下し、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。
●清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

⑦シートベルトが背もたれやシートクッションに挟まれていないことを確認してください。

●シートベルトが背もたれやシートクッションに挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑧助手席シートうしろのベルト穴付近に足などを乗せないでください。

●プリテンショナー付シートベルトが作動したとき、やけどをするおそれがあり危険です。

ＳＲＳエアバッグについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

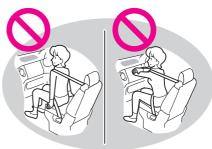
①ＳＲＳエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトにかわるものではありません。

正しい姿勢でシートに座り、シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときなどにＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させることができないばかりでなく、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
シートベルトの正しい着用については、➡186ページをお読みください。

■シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中を付けた正しい姿勢でシートに座ってください。

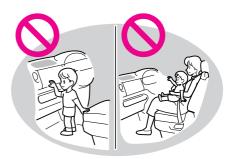
●ＳＲＳエアバッグの展開部に覆いかぶさったり、近付きすぎた姿勢で乗車していると、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

《運転者の方は》
運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近付きすぎないようにして座ってください。

《助手席乗員の方は》
助手席ＳＲＳエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シート前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。
シートの調整、正しい姿勢については➡162ページをお読みください。

■ひざの上にものをかかえるなど乗員とＳＲＳエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに、ものが飛ばされ顔にあたったり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動がさまたげられ危険です。

■お子さまを助手席ＳＲＳエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

②車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

販売店

ＳＲＳエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取り付け・分解・修理などをするときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。
不適切な作業を行うと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ危険です。

●サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわるとＳＲＳエアバッグが誤作動し危険です。

販売店

車両前部または車両客室部の修理をするときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
不適切な修理を行うと、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなり危険です。

③カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

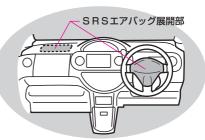
●ＳＲＳエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどで覆わないでください。ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。

●インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに飛ばされるなどして危険です。

販売店

●無線機の電波などは、ＳＲＳエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあり、ＳＲＳエアバッグが誤作動するなどして危険です。無線機などを取り付けるときは、トヨタ販売店にご相談ください。

●車両前部にグリルガードやウインチなどを装着する場合は、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をするとＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが誤作動するなどして危険です。

④ＳＲＳエアバッグ展開部を、強くたたかないでください。

●ステアリングパッド（運転席ＳＲＳエアバッグ）、インストルメントパネル上部（助手席ＳＲＳエアバッグ）などのＳＲＳエアバッグ展開部を強くたたくなど、過度の力を加えないでください。ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑤ＳＲＳエアバッグがふくらんだ直後は、ＳＲＳエアバッグ構成部品にふれないでください。

●構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ＡＢＳ ＆ ブレーキアシストについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①ＡＢＳ ＆ ブレーキアシストを過信しないでください。

●ＡＢＳやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
ＡＢＳ ＆ ブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分に取って安全運転に心がけてください。
・ＡＢＳはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象※が起こった場合は効果を発揮できません。

※雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

●ＡＢＳは制動距離を短くするための装置ではありません。
次の場合などは、ＡＢＳの付いていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。
・砂利道、新雪路を走行しているとき
・タイヤチェーンを装着しているとき
・道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき
・凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき

●ブレーキアシストはブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。

ＶＳＣ ＆ ＴＲＣについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①ＶＳＣを過信しないでください。

●ＶＳＣが作動した状態でも、車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転を心がけ、ＶＳＣ作動警告ブザー（断続音）が鳴ったり、スリップ表示灯（➡233ページ参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

②ＴＲＣを過信しないでください。

●ＴＲＣが作動した状態でも、車両の方向安定性の確保には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転を心がけ、スリップ表示灯（➡233ページ参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

オートマチック車については、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

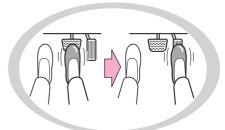
①オートマチック車の特性

■クリープ現象

エンジンがかかっているとき、シフトレバーがⓅ、Ⓝ以外にあると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象をクリープ現象といいます。

■キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切りかわり、エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。
これをキックダウンといいます。

②運転するときはブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。

●アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
●車を少し移動させるときでも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

③ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。

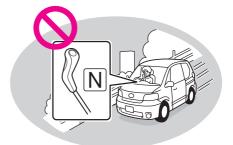
●左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④エンジンをかけるときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、エンジンをかけてください。

●安全のためシフトレバーはⓅに入れ、ブレーキペダルをしっかり踏みエンジンをかけてください。

⑤発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。

●とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などはクリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
●レバー操作は絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥走行中はシフトレバーをⓃに入れないでください。

●Ⓝにすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●Ⓝにしたまま長時間走行すると、オートマチックトランスミッション内のオイルの潤滑が悪くなり、故障するおそれがあります。

⑦走行中はシフトレバーをⓅに入れないでください。

●オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧前進で走行中はシフトレバーをⓇに入れないでください。

●車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。

⑨停車中は空ぶかしをしないでください。

●シフトレバーがⓅ、Ⓝ以外にあると、車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩駐車するときはシフトレバーをⓅに入れてください。

●Ⓟ以外にある場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪坂道などでは、シフトレバーをⒹ（または❷、Ⓛ）に入れたまま惰性で後退することは絶対にしないでください。

●同様にシフトレバーをⓇに入れたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

⑫その他にも、以下の点に注意してください。

●少し後退したあとなどは、シフトレバーがⓇにあることを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐⓃにもどすよう習慣付けましょう。
●切り返しなどでシフトレバーをⒹからⓇ、ⓇからⒹと何度もレバー操作をするときは、そのつどブレーキペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。またシフトレバーの位置も忘れずに確認してください。

4WD車については、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①無理な運転は禁物です。

●この車の4WD（フレックスフルタイム4WD）は、オンロード専用です。
オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での走行安定性の確保を目的とした4WDですので無理な運転はしないでください。

②すべりやすい路面での走行は慎重に行ってください。

●4WD車といっても万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転を心がけてください。

③脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。

●前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●タイヤが空転中に急激なブレーキ操作をしないでください。

④渡河などの水中走行はしないでください。

●渡河などの水中走行をするとエンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。

販売店

万一、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目を点検してください。
●ブレーキの効き具合
●エンジン、トランスミッション、トランスファー、ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますのでオイルの交換が必要です）
●プロペラシャフト、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

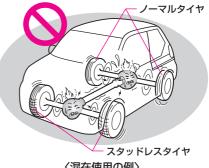
⑤タイヤはすべて、必ず指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。

●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。

●タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼き付きなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

〈混在使用の例〉

●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるのでタイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
・4輪の空気圧の差が著しいとき
・空気圧が指定値からはずれているとき
●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（➡365ページ参照）
●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（➡405ページ参照）

1.点検・手入れ時の注意

点検・手入れ時は、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
点検整備の詳細については「メンテナンスノート」をお読みください。

①エンジンルームを点検するときは、必ずエンジンを停止してください。また、火気を近付けないでください。

●エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分にふれたり近付いたりすると、手や衣服、工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジンが停止していても、冷却水温が高いときは、冷却ファンが急にまわり出すことがありますので注意してください。なお、火気をバッテリーや燃料配管に近付けないでください。爆発し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

②エンジン停止直後はエンジン、排気管、ラジエーターなど高温部にはふれないでください。

●やけどをするおそれがあります。なお、オイルやその他の液体も高温になっているときがありますのでご注意ください。

③エンジンルーム内に水をかけないでください。

●エンジンルーム内に水をかけると、電装品がショートしたりして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

④車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。

●オーディオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。

●ブレーキ装置内に水が入ると凍結して、ブレーキの効きが悪くなったり、さびてブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。

⑥ヒューズを交換するときは、規定容量以外のヒューズを使用しないでください。

●配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

⑦エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。

●ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⑧ブレーキフルードの量を点検してください。

●ブレーキフルードが不足しているとブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑨エンジンルームを点検したあとは、エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

●点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

2.タイヤについての注意

**タイヤについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①日常点検として必ずタイヤの点検を行ってください。

●タイヤの点検は、法律で義務付けられています。
●タイヤは以下の点について点検してください。
- ・タイヤの空気圧
- ・タイヤの亀裂・損傷の有無
- ・タイヤの溝の深さ
- ・タイヤの異常な摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗している・摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）

タイヤの点検方法は、「メンテナンスノート」をお読みください。

②タイヤ空気圧は必ずタイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整してください。

●指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、または➡405ページの表で正しい空気圧を確認のうえ調整してください。
指定空気圧より低いと車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

※ 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

③タイヤはすべて、必ず指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。

●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。

●タイヤを混在使用すると、左右タイヤ（4WD車の場合は前後左右タイヤ）で常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼き付きなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

ＦＦ車

4WD車

〈混在使用の例〉

●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるのでタイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
・4輪の空気圧の差が著しいとき
・空気圧が指定値からはずれているとき

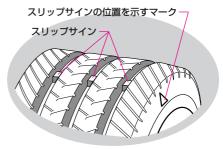
●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（➡365ページ参照）

●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（➡405ページ参照）

●指定以外のタイヤおよび4輪とも同一でないタイヤを装着すると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、前後左右のタイヤに回転差が発生するなどして正確な車両速度が検出できなくなる場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
・ＡＢＳ
・ブレーキアシスト（ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車）
・ＶＳＣ
・ＴＲＣ
また、フレックスフルタイム4WDは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えられるおそれがあります。

④摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。

●タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※1により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※1 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。
※2 イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

〈例：スリップサインが出ていない状態〉※2

〈例：スリップサインが出ている状態〉※2

⑤タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。

販売店	異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルがとられたり、異常な振動を感じることがあります。 また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。 走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。

●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

⑥冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。

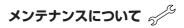
●指定サイズのタイヤを使用してください。
●指定空気圧に調整してください。
●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

⑦タイヤチェーン装着時は、速度を控えて慎重に運転してください。

●タイヤチェーン装着時は、約30km/hまたはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。
●タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあり危険です。
また、ＡＢＳ作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。

⑧タイヤを交換したときは、ディスクホイール取り付けナットが確実に締まっていることを確認してください。

販売店	確実に締まっていないとディスクホイール取り付けボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。 タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。 締め付けトルク：約105N･m｛1050kgf･cm｝

●ディスクホイールを取り付けるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にタイヤがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●タイヤの取り付けには、ご使用のディスクホイール専用のホイール取り付けナットを使用してください。

⑨ディスクホイール取り付けボルト、ナットのねじ部や、ディスクホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。

●つぶれや亀裂などの異常があると、ナットを締め付けても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩ディスクホイールを取り付けるときは、シート部や裏側の取り付け面が汚れていないか確認してください。

●ディスクホイールのシート部（➡422ページ参照）や、ホイール裏側の取り付け面がほこりなどで汚れていると、走行中にホイール取り付けナットがゆるみ、タイヤがはずれ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。

●走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっています。タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあり危険です。

⑫段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

●段差や凹凸のある路面を通過するときの衝撃により、タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑬歩道の縁石などにタイヤがあたらないように注意してください。

●タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑭応急用タイヤについては、以下の点に注意してください。

●応急用タイヤは標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。
できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

●応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると、タイヤの径の違いがさらに大きくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
タイヤが冷えているときの空気圧（ゲージ圧）：420kPa {4.2kg/cm^2}

●車に搭載されている応急用タイヤは、お客様の車専用です。他のタイヤやディスクホイールと組み合わせたり、他の車に使用したり、他の車の応急用タイヤをお客様の車に使用しないでください。走行に悪影響が出て思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

バッテリーについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①日常点検として必ずバッテリーの液量を点検してください。

●バッテリーの液面が各液槽とも、バッテリー側面に表示されたLOWER　LEVEL（下限）以下のまま使用、充電すると、バッテリーの寿命が短くなったり、発熱や爆発するおそれがあり危険です。点検方法は「メンテナンスノート」を参照し、液量が少ないときは補給してください。

②バッテリーあがりで、ブースターケーブルをつなぐときは、接続順や接続箇所を間違えないように注意してください。（➡428ページ参照）

●バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③エンジンがかかっているときや充電中はバッテリーに近付かないでください。

●充電中は、バッテリーから有毒で腐食性の高い希硫酸を含んだバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、失明など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
万一、付着した場合は、すぐに衣服を脱ぎ、液が付着した体の部分を多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

④火気をバッテリーに近付けないでください。

●バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑤バッテリーを交換したときは、正しい位置にクランプを取り付け、ナットを確実に締め付けてください。

●確実に取り付けたり、締め付けたりしないと、走行中にクランプがはずれてショートするなどして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

4.ジャッキアップについての注意

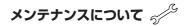
ジャッキアップについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。また、パーキングブレーキをしっかりかけてください。

販売店	車が動きジャッキがはずれ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。なお、輪止めはトヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店にご相談ください。

●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

②ジャッキアップした車の下には絶対にもぐらないでください。

●万一、ジャッキがはずれると、体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●車載工具のジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外は使用しないでください。

③ジャッキアップするときは、次の点に注意しないと、車体が損傷したり、ジャッキがはずれ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●人を乗せたままジャッキアップをしないでください。
●ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
●ジャッキアップするときは、ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置（➡420ページ参照）にかかっていることを必ず確認してください。
●車体はタイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
●ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。
●ジャッキアップした車体を降ろすときは、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。

④車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。

●他の車に使用したり、他の車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。

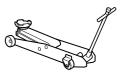
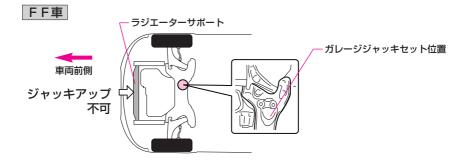
●室内などに放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、次のことをお守りください。

販売店

車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になったり、取り扱いに特別な注意が必要になるため、誤って使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用する必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。また、ガレージジャッキを使用するときは、必ずしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。下図のガレージジャッキセット位置にあててください。ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキに付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。

ガレージジャッキ

FF車

4WD車

●ガレージジャッキで車両前側を持ち上げるときは、ラジエーターサポートにあてないようにしてください。
●ガレージジャッキは、受皿の形状がガレージジャッキセット位置に適したサイズの受皿タイプを使用してください。

1.オーバーヒートについての注意

オーバーヒートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①オーバーヒートし、ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。

●エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも、高温になっている部分もありますので、ボンネットを開けるときは十分注意してください。

②ラジエーターや補助タンクが熱いときは、ラジエーターキャップを開けないでください。

●蒸気や熱湯が吹き出してやけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。

次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①エンジンをかけずにけん引される場合は、ハンドルやブレーキ操作に十分注意してください。

- エンジンがかかっていないと、パワーステアリングやブレーキの倍力装置が働かないため、操作力が非常に重くなります。
  けん引される車の運転は、十分注意して行ってください。
- けん引される場合は、シフトレバーを🅝にして、パーキングブレーキを解除してください。

②けん引中に、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。

- けん引フックやロープが破損し、それが周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

③けん引中にキーを抜いたり、エンジン スイッチを“ ＬＯＣＫ ”にしないでください。

- キーが抜けていると、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジン スイッチが“ ＬＯＣＫ ”だとキーが抜けるおそれがあります。

④発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。また、発炎筒を使用中は顔や体に向けたり、近付けたりしないでください。

●可燃物の近くで使用すると引火するおそれがあり危険です。また、使用中に顔や体に向けると炎でやけどをするなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑤事故後、エンジンを始動する前に燃料がもれていないか確認してください。

販売店	車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかれば、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままエンジンを始動すると燃料に引火し、重大な事故につながるおそれがあり危険ですので、エンジンを始動しないでください。 この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

**次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①違法改造は絶対にしないでください。

●トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
●車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

販売店

次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
●タイヤ、ディスクホイール、ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
●電装品、無線機などの取り付け、取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

●フロントガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界を妨げるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

②カップホルダーには、カップや飲料缶、紙パック以外のものを入れないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。
●急ブレーキをかけたときや衝突時に、カップホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。フロント中央のカップホルダーを使用しないときはフタを閉めておいてください。

③ウインドゥガラスなどには吸盤を付けないでください。

●ウインドゥガラスにアクセサリーの吸盤を取り付けたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置くと、吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

④電球を交換するときは、電球が冷えてから交換してください。

●電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあり危険です。

⑤ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。（ディスチャージヘッドランプ装着車）

●電球ソケットにふれた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000Vの高電圧が発生し、感電して生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑥フロントワイパーデアイサー作動中は、フロントウインドゥガラス下部、および運転席側フロントピラー部の表面が熱くなりますので、手をふれないでください。（フロントワイパーデアイサー装着車）

●やけどをするおそれがあり危険です。

⑦走行中はバックドアを閉じてください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

●走行中はバックドアを閉じてください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●お子さまを乗せているときは、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
・お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。
●バックドアの操作にあたっては、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
・バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
・バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
・人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
・強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
・半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

・バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
・バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。
バックドアグリップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

・バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
・バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。バックドアの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

⑧スライドドアの操作にあたっては、以下のことを必ずお守りください。

●走行中は以下のことをお守りください。お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・シートベルトを必ず着用してください。
・すべてのドアを施錠してください。
・すべてのドアを確実に閉めてください。
・走行中はドア内側のドアハンドルを操作しないでください。

●お子さまを乗せているときは以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・お子さまを車内に残さないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
・お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。不意にスライドドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

その他の注意

●スライドドアの操作にあたっては、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ・スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ・ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・頭などを出さないでください。
- ・人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ・半開状態ではスライドドアが静止しないため、必ず全開にしてください。傾斜地での停車時にドアが開いていると、突然動き出すおそれがあります。
- ・坂道ではスライドドアの開閉スピードが早くなります。ドアが体にあたったり挟んだりしないよう、注意してください。
- ・下り坂での停車時に乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。
- ・スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

- ・スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開き確実に固定してください。（全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます）
  スライドドアが確実に固定されていないと不意に動き出すおそれがあります。
- ・スライドドアが中間ストッパー位置で停止した場合（➡123ページ参照）、スライドドアは固定されません。坂道などではドアが不意に動き出すおそれがありますので、十分注意してください。

⑨スライドドアが半ドア状態のとき、イージークローザー（➡124ページ参照）が働き、スライドドアが自動的に閉まるため、指などを挟まないように注意してください。

●半ドア状態のとき、イージークローザーが働き、スライドドアが自動的に閉まるため、指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●半ドア状態からイージークローザーが作動するまでに数秒かかります。指などをドアの間に挟まないでください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●イージークローザーは、パワースライドドアのメインスイッチがＯＦＦのときにも作動します。
●ロックレバーが施錠側のとき、イージークローザー作動中にインサイドハンドルを引いても作動は停止しません。指などを挟まれないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

警告

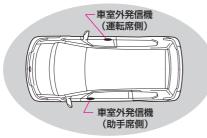
⑩パワースライドドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。

●パワースライドドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチをＯＦＦにすると、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にスライドドアが閉まるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
  ・自動作動中、障害物に干渉したとき
  ・自動作動中、作動可能条件（➲130ページ参照）を満たさなくなったとき
- タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアメインスイッチをＯＦＦにしてください。ＯＦＦにしないと、いたずらや誤ってスイッチにふれたときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。
- スライドドア前端のセンサー（➲130ページ参照）は障害物を検知し、挟み込みを防止する装置です。挟まれるものの形状や挟まれ方によって検知できない場合があります。スライドドアを閉じるときは十分注意してください。

●挟み込み防止機能作動中は以下のことに注意してください。注意していただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれ方によっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

●エンジン停止時の自動開閉中にエンジン スイッチを“ ＯＮ ”にすると、バッテリー電圧の低下によりシステム異常と判断し、ドアが自動的に反転することがあります。思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、自動開閉中はエンジン スイッチを“ ＯＮ ”にしないでください。

⑪心臓ペースメーカーや、医療用電気機器などをお使いの方は、スマートドアロックの取り扱いに注意してください。（スマートドアロック装着車）

●植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器をお使いの方は、スマートドアロックの発信機から約22cm以内に植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器が近付かないようにしてください。
電波により、植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

〈発信機の位置〉

●植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、スマートドアロックをお使いになる前に、医療用電気機器の製造事業者などに個別でご確認ください。
電波により、医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

販売店

スマートドアロック機能を作動しないようにすることもできます。
詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

⑫ワイヤレスドアロックリモコンキーおよび電子キー（スマートドアロック装着車）の電池交換時に、電池や部品を、とくにお子さまが飲み込まないようにご注意ください。

●飲み込むと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑬樹脂バンパーやアルミ部分には、磁石で固定するアクセサリーを取り付けることができません。

●磁石は樹脂やアルミに付かないため、磁石式の初心者運転標識や高齢運転者標識などは取り付けることができません。

⑭エンジンがかかっているとき、またはエンジン停止直後、排気管にふれないように注意してください。

●エンジンがかかっているときや、エンジン停止直後の排気管は高温になっています。荷物の積み降ろし時などに手や足がふれると、やけどをするおそれがあります。

⑮寒冷時はウインドゥガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。

●ウォッシャー液がウインドゥガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑯車内のスイッチなどに飲み物などをこぼさないように注意してください。

販売店	インストルメントパネル、ドアなどにあるスイッチなどに飲み物がかかると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。万一、スイッチに飲み物がかかった場合は、すみやかにトヨタ販売店にご相談ください。

⑰プラズマクラスターイオン発生器は高電圧を利用しています。

販売店	危険ですので、修理等は必ずトヨタ販売店にご相談ください。

⑱シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドゥを開けたまま放置しないでください。

●ドアやウインドゥを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

⑲メガネ、ライターやスプレー缶を車内に放置したままにしないでください。

●室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こすおそれがあります。
●室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発するなどして、火災につながるおそれがあり危険です。
●ライターやスプレー缶を収納装備に放置したり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして、火災につながるおそれがあり危険です。

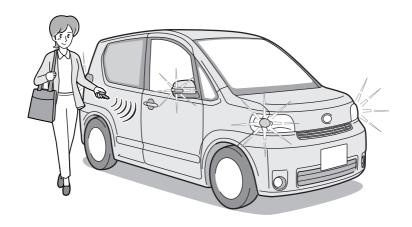
⑳内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。

●インストルメントパネルがフロントウインドゥガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

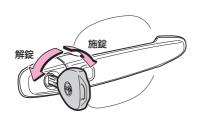
2

基本操作早わかり

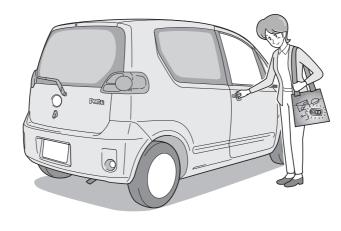
（はじめてこの車にお乗りになる方へ）

この章では、はじめて車を購入された方やトヨタ車にはじめてお乗りになる方のために、この車の基本的な運転装置および装備品を簡単に説明しています。
詳しい取り扱い説明や注意事項は各章をしっかりお読みください。

施錠すると非常点滅灯が1回、
解錠すると非常点滅灯が2回点滅します。

ドアの施錠と解錠（キー・リモコンスイッチ）

キーで

キーをまわします。

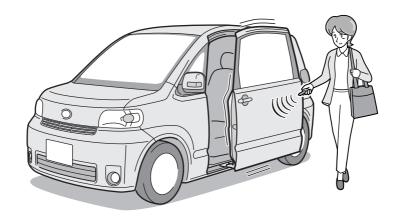
リモコンスイッチで

スイッチを押します。

電子キーを携帯していれば、キーを操作することなくドアを施錠・解錠することができます。

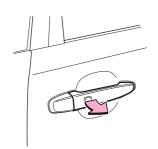
ドアの施錠と解錠（スマートドアロック）

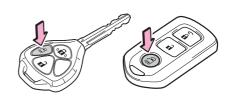
スマートドアロックで

ロックスイッチを押します。

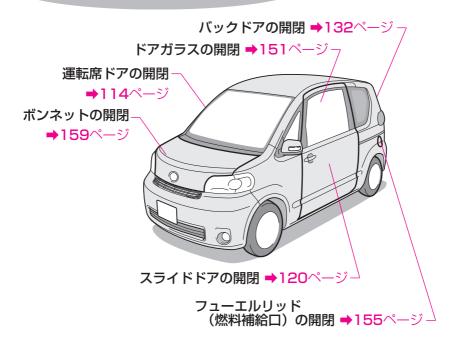
ハンドル裏側のセンサーにふれます。

パワースライドドアメインスイッチをＯＮにして、
スライドドアを解錠しておきます。

スライドドアの自動開閉

ハンドルで

ハンドルを操作します。

リモコンスイッチで

リモコンスイッチを約1秒以上押します。

各部の開閉に関する詳しい紹介は

バックドアの開閉 ➡132ページ
ドアガラスの開閉 ➡151ページ
運転席ドアの開閉 ➡114ページ
ボンネットの開閉 ➡159ページ
スライドドアの開閉 ➡120ページ
フューエルリッド（燃料補給口）の開閉 ➡155ページ

ドアガラスの開閉

フューエルリッド（燃料補給口）の開け方

運転席の調整機能（その1）

前後位置

背もたれの角度

シート全体の上げ下げ

シートに関する詳しい紹介は

シートアレンジについては➡172ページを参照してください。

運転席の調整機能（その2）

ヘッドレスト

運転席の調整機能（その3）

アームレスト

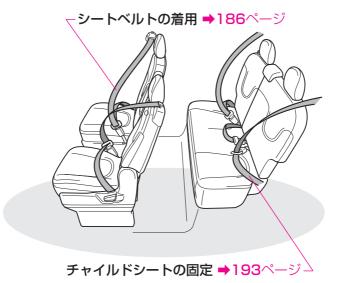
3点式シートベルトの着用のしかた

1 ベルトを引き出します。

2 プレートをバックルに挿し込みます。

❶“カチッ”というまで挿し込みます。

❷運転席シートベルトはアンカーの高さを調整します。

シートベルトに関する詳しい紹介は

はずし方

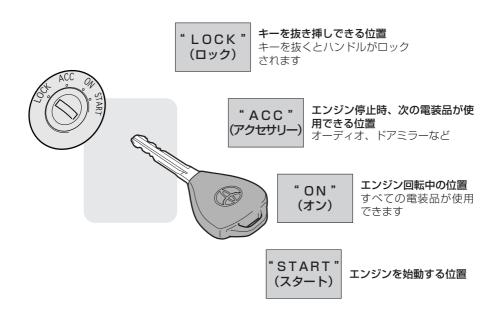
❶バックルのボタンを押します。

❷ベルトを巻き取らせます。

“LOCK”（ロック）
キーを抜き挿しできる位置
キーを抜くとハンドルがロックされます

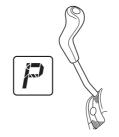
“ACC”（アクセサリー）
エンジン停止時、次の電装品が使用できる位置
オーディオ、ドアミラーなど

“ON”（オン）
エンジン回転中の位置
すべての電装品が使用できます

“START”（スタート）
エンジンを始動する位置

エンジンのかけ方

1 右足でブレーキペダルをしっかり踏み込みます。

2 シフトレバーの位置を確認します。

3 キーを“START”までまわします。

パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

キーの抜き方

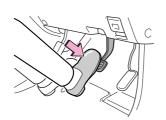
シフトレバーを🅟にして行います。

❶“ACC”からキーを押し込んで
❷“LOCK”にまわし引き抜きます。

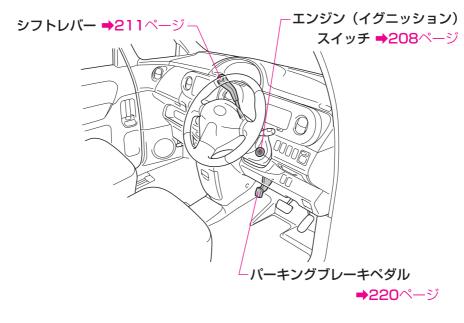
ハンドルロックの解除

❶ハンドルを動かしながら
❷キーをまわします。

シフトレバーの動かし方（発進時の場合）

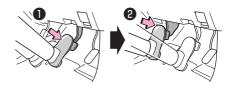
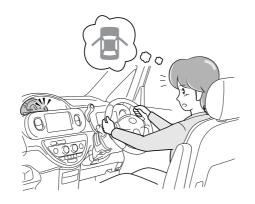
1 右足でブレーキペダルをしっかり踏み込みます。

パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

2 シフトレバーを引いてⓅから操作します。

運転装置に関する詳しい紹介は

パーキングブレーキの使い方

解除のしかた

❶右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら
❷左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み込み、ゆっくり離します。

かけ方

❶右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら
❷左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

警告灯が点灯または点滅したままのときは

警告灯		警告理由
(ABS)	ＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯	ＡＢＳまたはブレーキアシストシステムの異常です。
(ABS)	ＡＢＳ警告灯	ＡＢＳの異常です。
VSC	ＶＳＣ警告灯	ＶＳＣシステムなどの異常です。
	エンジン警告灯	エンジン電子制御システムなどの異常です。
	ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯	ＳＲＳエアバッグシステムまたはプリテンショナー付シートベルトシステムの異常です。
	ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯	ディスチャージヘッドランプのオートレベリング（上下照射方向自動調整）システムの異常です。
(!)	ブレーキ警告灯	●パーキングブレーキがかかっています。 ●パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ブレーキ液量の不足です。

警告灯に関する詳しい紹介は

マニュアルエアコン装着車

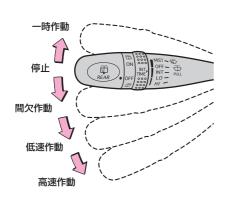
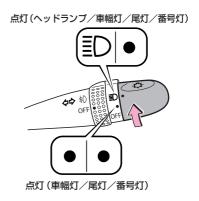
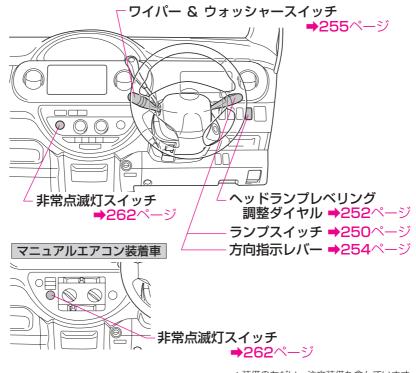
警告灯が点灯または点滅したままのときは

警告灯		警告理由
	充電警告灯	充電系統の異常です。
	高水温警告灯（赤色）	エンジン冷却水温度の異常です。
	油圧警告灯	エンジン内のオイルの圧力の異常です。
E F	燃料残量警告灯	燃料切れが近付いています。（約6.8Ｌ以下で点滅）
	半ドア警告灯	いずれかのドア（バックドアを含む）が、確実に閉まっていません。
	運転席シートベルト非着用警告灯	運転者がシートベルトを着用していません。
PASSENGER	助手席シートベルト非着用警告灯	助手席の乗員がシートベルトを着用していません。

※この他にも、表示灯の点灯または点滅により異常を知らせる場合もあります。
　詳しくは➲228ページを参照してください。

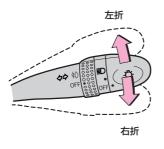
目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

夜間や雨天時などの走行

フロントワイパーの使い方

ランプのつけ方

スイッチに関する詳しい紹介は

＊装備のちがい、注文装備も含んでいます。

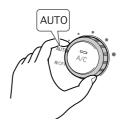
他車への合図

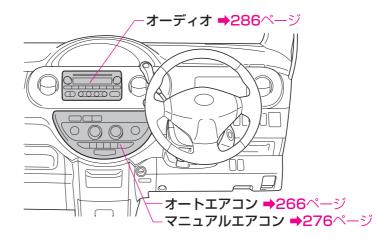
方向指示灯

非常点滅灯

オートエアコンの使い方

1 吹き出し口ＡＵＴＯスイッチを押します。

2 ファン調整ダイヤルをＡＵＴＯの位置にします。

3 温度調整ダイヤルで希望温度に設定します

4 エアコンが作動していないときは、エアコンスイッチを押します。

エアコン・オーディオに関する詳しい紹介は

オーディオの使い方

電源の入れ方と音量の調整

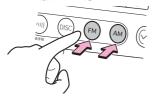
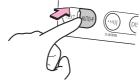
電源入・切

音量

ＣＤを聞くには

ＣＤが入っているときは、ＤＩＳＣスイッチを押します。

ラジオを聞くには

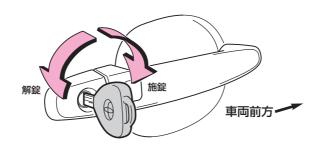
ＡＭ・ＦＭ放送の切りかえ

放送局の設定

ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、自動でプリセットスイッチに放送局がセットできます。

3

運転をする前に

ドア、ドアガラスなどの開閉

運転席ドアの開閉

キーでの施錠・解錠のしかた

前にまわすと施錠、うしろにまわすと解錠されます。

●すべてのドア（バックドアを含む）の施錠、解錠が同時にできます。

知識

キーについて

●キーはドアの施錠・解錠の他、エンジンの始動・停止、スライドドアの自動開閉などに使用します。

●ワイヤレスドアロックリモコンまたは電子キーのリモコンの操作については➡137、148ページを参照してください。

●スマートドアロック機能での操作については➡144ページを参照してください。

●万一、キーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちに **トヨタ販売店**にご相談ください。

知識

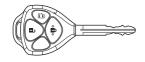
キーの組み合わせについて

スマートドアロック装着車

キーが2枚、電子キーが1個あります。

パワースライド&ワイヤレスドアロックリモコン付き

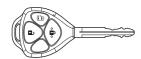
プロテクターなし

電子キー

＊キーの数および組み合わせは、車の仕様により異なる場合があります。

スマートドアロック装着車を除く

キーが2枚あります。

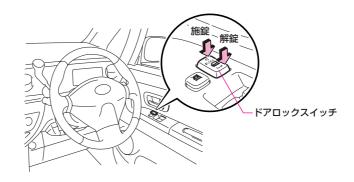
パワースライド&ワイヤレスドアロックリモコン付き

プロテクターなし

＊キーの数および組み合わせは、車の仕様により異なる場合があります。

キーナンバープレートについて

お客様以外にキーナンバーがわからないように、キーではなくプレートにキーナンバーを打刻しました。

●キーナンバープレートは車両以外の場所に大切に保管してください。
●万一、キーを紛失した場合、**トヨタ販売店**でキーナンバーからトヨタ純正品のキーをつくることができます。
●キーをつくるときは、**トヨタ販売店**にご相談ください。トヨタ純正品以外のキーを使用すると、キーがスムーズにまわらなくなるおそれがあります。

ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた

スイッチの前側を押すと施錠、うしろ側を押すと解錠されます。
●すべてのドア（バックドアを含む）の施錠、解錠が同時にできます。

知 識

作動条件について

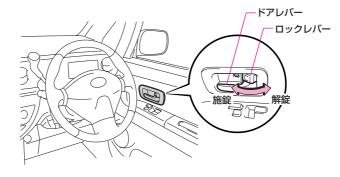
●エンジン スイッチの位置に関係なく使用できます。
●スイッチを押し続けると、作動しないことがあります。いったんスイッチから指を離し、押しなおしてください。

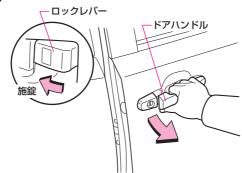
セキュリティ機能について

車両盗難などを防ぐため、ドアロックスイッチでの解錠作動を停止する機能です。
（窓枠とドアガラスのすき間からドアロックスイッチを押して解錠されるのを防止します）
以下の方法で施錠したとき、自動的に機能します。
●運転席ドアにキーを挿し込んでの施錠（➲114ページ参照）
●ワイヤレスドアロックリモコン（➲137ページ参照）、または電子キーのリモコン（➲148ページ参照）を使っての施錠
●ワイヤレスドアロックリモコン（➲139ページ参照）、または電子キーのリモコン（➲150ページ参照）による解錠操作後のドアを開けなかったときの再施錠
●ロックレバーによる車外からの施錠（➲次ページ参照）
スマートドアロック装着車は、上記の方法に加え、下記の方法でも機能します。
●スマートドアロック機能を使っての施錠（➲144ページ参照）
●スマートドアロック機能による解錠操作後のドアを開けなかったときの再施錠（➲146ページ参照）

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ロックレバーでの施錠・解錠のしかた

■車内での施錠・解錠

ロックレバーを前方に押し込むと施錠、後方に引き出すと解錠されます。

■車外からの施錠

ロックレバーを施錠側にして、ドアハンドルを引いたままドアを閉めます。

知識

便利機能について

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くとドアが開きます。

⚠警告　走行前にすべてのドアが閉まっていることを確認してください。

●走行前にすべてのドアが完全に閉まっていることを確認してください。ドアが完全に閉まっていないと走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●走行中はドアレバーを引かないでください。
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
●お子さまにドアの操作をさせないでください。
・閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
・走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●傾斜地、ドアと壁などの間が狭い場所、強風など周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

知識

施錠・解錠について

次の方法で施錠・解錠することもできます。
➲137ページ「ワイヤレスドアロックリモコンの使い方」、➲141ページ「スマートドアロックの使い方」を参照してください。

乗車中の施錠・解錠の効果について

乗車中の施錠・解錠については、それぞれ次のような効果がありますので選択してください。

〈乗車中、施錠している場合〉
●同乗者が誤ってドアを開けることを防ぎます。
●車外からの不意の侵入者を防ぎます。
●シートベルトの着用と併せて、事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。

〈乗車中、解錠している場合〉
●万一の場合に車外からの救援活動が受けやすくなります。

車から離れるときは、必ずエンジンを停止して施錠することが法律で義務付けられています。また、車両盗難や車内のものを盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。

知識

便利機能について

キー抜き忘れ防止チャイム

エンジン スイッチが“ ＬＯＣＫ ”または“ ＡＣＣ ”のとき運転席ドアを開けると、キーの抜き忘れを警告するチャイムが“ピーピー、ピーピー”と鳴ります。
キーの閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠してください。

キー閉じ込み防止機能

エンジン スイッチにキーが挿し込まれているときは、運転席ドアを開けた状態から、ドアロックスイッチやロックレバーにより施錠しようとしても施錠できません。

イルミネーテッドエントリーシステム

ドアの開閉、解錠・施錠と連動してマップランプ（ＤＯＯＲの位置のとき）、ルームランプ（ＤＯＯＲの位置のとき）が点灯・消灯します。

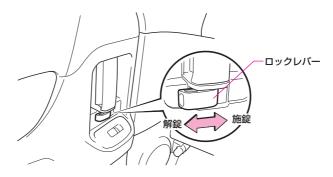
●いずれかのドア（バックドアを含む）を開けると点灯し、すべてのドアを閉めると約15秒後に消灯します。

●次の方法で解錠すると点灯します。
- ワイヤレスドアロックリモコンによる解錠
- スマートドアロックによる解錠（スマートドアロック装着車）
- 運転席ドアのキーによる解錠
- エンジン スイッチが“ ＯＮ ”以外のとき、すべてのドアが閉まっている状態で、運転席ドアを解錠したとき

●次のような場合は、ただちに消灯します。
- すべてのドアを閉め、エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にしたとき
- エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にして、すべてのドアを閉めたとき
- すべてのドアを閉め、運転席ドアを施錠したとき

バッテリーあがり防止機能

エンジン スイッチにキーが挿し込まれていないとき、いずれかのドアが開いた状態で、ルームランプ（ＤＯＯＲのとき）、マップランプ（ＤＯＯＲのとき）が約20分以上点灯し続けると、バッテリーあがり防止機能が働き、ランプが自動的に消灯します。

ロックレバーでの施錠・解錠のしかた

■車内での施錠・解錠

ロックレバーを前方に押すと施錠、後方に引くと解錠されます。

■車外からの施錠

ロックレバーを施錠側にして、ドアを閉めます。

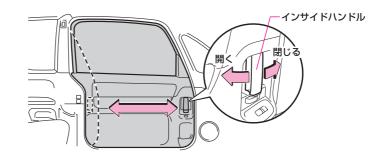
知 識

施錠・解錠について

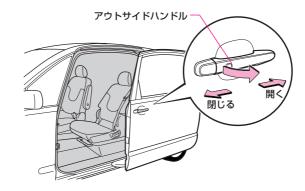
次の方法で施錠・解錠することもできます。
➲114ページ「キーでの施錠・解錠のしかた」、➲116ページ「ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた」、➲137ページ「ワイヤレスドアロックリモコンの使い方」、➲141ページ「スマートドアロックの使い方」を参照してください。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

開閉のしかた

■車内からの開閉

インサイドハンドルを、スライドドアを動かしたい方向に操作します。

●ロックレバーが施錠側（➡前ページ参照）のときは、スライドドアは開けられません。

■車外からの開閉

開けるときは、アウトサイドハンドルを引いてスライドドアを車両後方に操作します。
閉めるときは、アウトサイドハンドルを引いてストッパーを解除させてから、スライドドアを車両前方に操作します。

●ロックレバーが施錠側（➡前ページ参照）のときは、スライドドアは開けられません。

走行中は以下のことをお守りください。

●走行中は以下のことをお守りください。お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ・シートベルトを必ず着用してください。
- ・すべてのドアを施錠してください。
- ・すべてのドアを確実に閉めてください。
- ・走行中はドア内側のドアハンドルを操作しないでください。

●お子さまを乗せているときは以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ・お子さまを車内に残さないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- ・お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。不意にスライドドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

●スライドドアの操作にあたっては、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ・スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ・ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・頭などを出さないでください。
- ・人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ・半開状態ではスライドドアが静止しないため、必ず全開にしてください。傾斜地での停車時にドアが開いていると、突然動き出すおそれがあります。
- ・坂道ではスライドドアの開閉スピードが早くなります。ドアが体にあたったり挟んだりしないよう、注意してください。

- ・下り坂での停車時に乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。
- ・スライドドアを閉めるときは指などを挟まないよう十分注意してください。

- ・スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開き確実に固定してください（全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます）。スライドドアが固定されていないと不意に動き出すおそれがあります。
- ・スライドドアが中間ストッパー位置で停止した場合（➡次ページ参照）、スライドドアは固定されません。坂道などではドアが不意に動き出すおそれがありますので十分注意してください。

注意 スライドドアを開閉する前に付近の状態を必ず確認してください。

●スライドドアを開閉する前に、スライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

●スライドドアにあるボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。とくに走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

●スライドドアのステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないよう注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。

安全機能について

中間ストッパー

●スライドドアのドアガラスが大きく開いていたり、フューエルリッド（燃料補給口）が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません。
（中間ストッパー位置で停止します）

●中間ストッパー位置で停止したスライドドアを全開にするときは、ドアガラスおよびフューエルリッドを閉じ、ドアガラスが開いている場合はいったんスライドドアを全閉してから再度ドアを開けてください。

開閉について

傾斜した場所では、平坦な場所よりもスライドドアの開閉がしにくかったり、急に開閉してしまう場合があります。

イルミネーテッドエントリーシステムについて

スライドドアの開閉、解錠・施錠と連動してマップランプ（ＤＯＯＲの位置のとき）、ルームランプ（ＤＯＯＲの位置のとき）が点灯・消灯します。（➡119ページ参照）

スライドドアイージークローザー

スライドドアを半ドアの位置まで閉じると、イージークローザーが働き、自動的に全閉になります。イージークローザーはエンジン スイッチの状態に関係なく作動します。

警告

半ドア状態のとき、イージークローザーが働き、スライドドアが自動的に閉まるため、指などを挟まないように注意してください。

- 半ドア状態のとき、イージークローザーが働き、スライドドアが自動的に閉まるため、指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 半ドア状態からイージークローザーが作動するまでに数秒かかります。指などをドアの間に挟まないでください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- イージークローザーは、パワースライドドアのメインスイッチがＯＦＦのときにも作動します。
- ロックレバーが施錠側のとき、イージークローザー作動中にインサイドハンドルを引いても作動は停止しません。指などを挟まれないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意 **イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。**

●イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、イージークローザーの故障の原因となります。
●ドアの開け閉めを短時間に繰り返すと、イージークローザーが作動しないことがあります。この場合、一度ドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

知 識

スライドドアイージークローザーについて

スライドドアを半ドアの位置まで閉めると、イージークローザーが働き、自動的に全閉になります。エンジン スイッチに関係なく作動します。
●イージークローザーの作動中でもスライドドアハンドル（➡121ページ参照）を操作することにより、ドアを開けることができます。（ロックレバーが施錠側のときを除く）
●スライドドアハンドルを引いたままドアを閉めると、イージークローザーは作動しないことがあります。
●イージークローザーを使わずに手動でドアを全閉することもできます。

自動開閉のしかた

■パワースライドドアメインスイッチ

	スイッチの状態
ＯＮ	オレンジ色のマーク
ＯＦＦ	

メインスイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切りかわります。

●メインスイッチがＯＮのときは、スイッチの上面にオレンジ色のマークが見えます。

●メインスイッチがＯＦＦのときは、スライドドアを自動で開閉させることはできません。

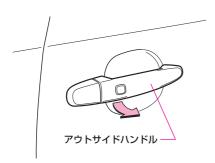
知 識

パワースライドドアメインスイッチについて

●パワースライドドアメインスイッチをＯＦＦにすることにより、お子さまが誤ってパワースライドドアを操作しないようにすることができます。

●パワースライドドアメインスイッチがＯＦＦのときでも、イージークローザーは作動します。（➡124ページ参照）

■スライドドアハンドルでの自動開閉

〈アウトサイドハンドル〉

〈インサイドハンドル〉

スライドドアが全閉状態のとき、ハンドルを操作してブザーが鳴る位置まで開けると、自動で全開します。
スライドドアが全開状態のとき、ハンドルを操作するとブザーが鳴り、自動で全閉します。（閉作動中は、断続的にブザーが鳴ります）

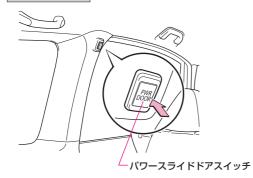
●全開（全閉）作動中に再度ハンドルを操作すると、全閉（全開）作動に切りかわります。ただし、全開（全閉）状態から自動開閉作動が開始して約1秒間は、再度ハンドルを操作しても全開（全閉）作動に切りかわりません。

■パワースライドドアスイッチでの自動開閉

フロントスイッチ

〈オートエアコン装着車〉

〈マニュアルエアコン装着車〉

リヤスイッチ

スライドドアが全閉（全開）状態のとき、パワースライドドアスイッチを約1秒以上押し続けると、自動で全開（全閉）します。

●開閉作動開始時にブザーが鳴ります。

●閉作動中は、断続的にブザーが鳴ります。

●全開（全閉）作動中に再度スイッチを押すと、全閉（全開）作動に切りかわります。ただし、全開（全閉）状態から自動開閉作動が開始して約1秒間は、再度スイッチを操作しても全開（全閉）作動に切りかわりません。

警告 パワースライドドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。

●パワースライドドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチをＯＦＦにすると、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にスライドドアが閉まるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため十分に注意してください。
  - ・自動作動中、障害物に干渉したとき
  - ・自動作動中、作動可能条件（➡次ページ参照）を満たさなくなったとき
- タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアメインスイッチをＯＦＦにしてください。ＯＦＦにしないと、いたずらや誤ってスイッチにふれたときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。
- スライドドア前端のセンサー（➡次ページ参照）は障害物を検知し、挟み込みを防止する装置です。挟まれるものの形状や挟まれ方によって検知できない場合があります。スライドドアを閉じるときは十分注意してください。

●挟み込み防止機能作動中は以下のことに注意してください。注意していただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれ方によっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

●エンジン停止時の自動開閉中にエンジン スイッチを“ ＯＮ ”にすると、バッテリー電圧の低下によりシステム異常と判断し、ドアが自動的に反転することがあります。思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、自動開閉中はエンジン スイッチを“ ＯＮ ”にしないでください。

⚠注意 スライドドア前端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。

スライドドア前端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、ドアはただちに停止します。

知 識

パワースライドドアの作動について

（エンジン スイッチの位置に関係なく使用できます）

●パワースライドドアメインスイッチがＯＮで、次の作動可能条件をすべて満たしているときに自動で開閉できます。

〈作動可能条件〉

- スライドドアが施錠されていないとき（車外からの施錠時を除く。➲120ページ参照）
- フューエルリッドが閉まっているとき
- 車速が約3km/h未満のとき（エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき）
- エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のときは、上記に加え、次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。
  - ・シフトレバーがⓅのとき
  - ・パーキングブレーキがかかっているとき
  - ・ブレーキペダルを踏んでいるとき

●メインスイッチがＯＦＦのときは、スライドドアを自動開閉することはできませんが、手動で開閉できます。

●スライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより異状を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。ただし、自動で開けているときに全開位置から約20cm手前の範囲で異状を感知すると、その位置で作動を停止します。

●連続して2回目以上同方向への異状を感知すると、ブザーが鳴り、手動操作に切りかわります。もう一度ドアを自動で作動させるときは、メインスイッチをＯＦＦにしたのち、ドアをいったん手動で全閉または全開にしてから行ってください。

自動開閉について

次の方法で自動開閉することもできます。

➲137ページ「ワイヤレスドアロックリモコンの使い方」、➲141ページ「スマートドアロックの使い方」を参照してください。

知識

初期設定について

スライドドアを開けた状態で、バッテリー交換やヒューズ交換などでバッテリーとの接続が断たれたときは、スライドドアの初期設定をしてください。
スライドドアの初期設定がされていないと、スライドドアを自動開閉することができません。

●ただし、スライドドアが全閉の状態で、バッテリー交換やヒューズ交換などでバッテリーとの接続が断たれたときは、スライドドアの初期設定をする必要はありません。
●その他にも、初期設定が必要な機能があります。➲406ページ「初期設定が必要な機能」を参照してください。

■初期設定のしかた
スライドドアを手動で全閉にする。

安全機能について

挟み込み防止機構
スライドドアの前端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが圧縮されると、挟み込み防止機構が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に動きます。

補給口開警告ブザー
●フューエルリッド（燃料補給口）が開いているときに、自動でスライドドアを開けようとすると、ブザーが鳴り、開いていることを知らせると同時に、手動操作に切りかわります。
●スライドドアの自動開閉中にフューエルリッド（燃料補給口）を開けると、ブザーが鳴り、作動が停止し、手動操作に切りかわります。

中間ストッパー
●スライドドアのドアガラスが大きく開いているときに、スライドドアを自動で開作動させると、スライドドアは中間ストッパー位置で停止し、その位置で保持されます。
●中間ストッパー位置で停止したスライドドアを全開にするときは、ドアガラスを閉じ、スライドドアを全閉してから操作してください。
●中間ストッパー位置でスライドドアが停止しているときに、パワースライドドアスイッチ、スライドドアハンドル、キーの 🚪 スイッチのいずれかを操作すると、スライドドアは閉作動します。
●中間ストッパー位置でのスライドドア停止後は、約30分間ドアを保持します。その後、約8秒間で徐々にその保持を解除し、下り坂などでドアが急激に動き出すのを防ぎます。

バックドアの開閉

開けるときは

バックドアスイッチを押しながら、バックドアを持ち上げます。

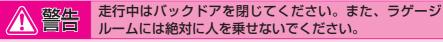
- ●バックドアを開けるときは、最上部まで持ち上げてください。
- ●バックドアが自然に降下しないことを確認してください。

閉めるときは

1 **バックドアを外から押せる高さまで降ろします。**

バックドアグリップを使用すると、便利です。

2 **バックドア下端を外から押してロックします。**

バックドアグリップを持ったまま、直接ドアを閉めないでください。

- 走行中はバックドアを閉じてください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまを乗せているときは、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - ・ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
  - ・お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

バックドアの操作にあたっては、以下のことを必ずお守りください。

●バックドアの操作にあたっては、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

・バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。

・バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

・人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

・強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

・半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。
とくに傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

・バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

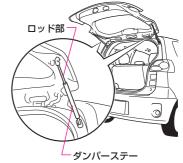
・バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

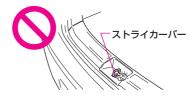
・バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

・バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。バックドアの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

注意 バックドアを開閉する前に付近の状態を必ず確認してください。

●バックドアを開閉する前に、運転者はバックドアが安全に開閉できるように車外および車内のバックドア付近の状態を必ず確認してください。

●バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。
- ・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ・ロッド部を軍手などでふれない
- ・バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

●バックドアを閉めるときは、ストライカーバーに異物をかみ込まないようにしてください。バーが破損し、バックドアが閉まらなくなるおそれがあります。

知識

施錠・解錠について

次の方法で施錠・解錠することができます。
➲114ページ「キーでの施錠・解錠のしかた」、➲116ページ「ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた」、➲次ページ「ワイヤレスドアロックリモコンの使い方」、➲141ページ「スマートドアロックの使い方」を参照してください。

初期設定について

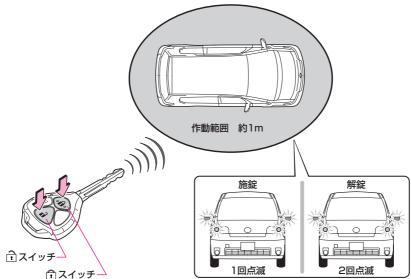
バッテリー交換やヒューズ交換などでバッテリーとの接続が断たれたときは、バックドアの初期設定をしてください。
バックドアの初期設定がされていないと、バックドアスイッチでバックドアの開閉をすることができません。
●その他にも、初期設定が必要な機能があります。➲406ページ「初期設定が必要な機能」を参照してください。

■初期設定のしかた
次のいずれかの方法で解錠操作してください。
●運転席ドアにキーを挿し込んで解錠する。(➲114ページ参照)
●ドアロックスイッチで解錠する。(➲116ページ参照)
●ワイヤレスドアロックリモコン(➲次ページ参照)、または電子キーのリモコン(➲148ページ参照)を使って解錠する。
スマートドアロック装着車は、上記の方法に加え、下記の方法でも初期設定ができます。
●スマートドアロック機能で解錠する。(➲144ページ参照)

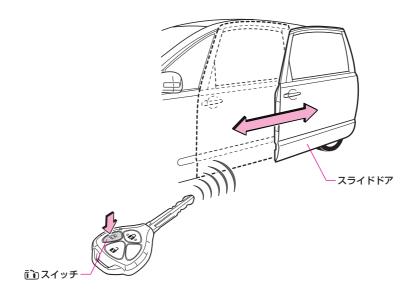
便利機能について

イルミネーテッドエントリーシステム(➲119ページ参照)
バックドアの開閉、解錠・施錠と連動してマップランプ(DOORの位置のとき)、ルームランプ(DOORの位置のとき)が点灯・消灯します。

ワイヤレスドアロックリモコンの使い方

ドアの施錠・解錠のしかた

サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯は、フロントフェンダーに装着されている車両もあります。（図はドアミラー装着タイプの車両で説明しています）

●スイッチを押すと、すべてのドア（バックドアを含む）が施錠されます。
●スイッチを押すと、すべてのドア（バックドアを含む）が解錠されます。
●施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅します。
●解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅します。
●スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。
●施錠操作をしたときは、必ず施錠作動したことを確認してください。

スライドドアの自動開閉のしかた

スライドドアが全閉（全開）状態のとき、スイッチを約1秒以上押し続けると、自動で全開（全閉）します。

●開閉作動開始時にブザーが鳴ります。
●閉作動中は、断続的にブザーが鳴ります。
●全開（全閉）作動中に再度スイッチを押すと、全閉（全開）作動に切りかわります。ただし、全開（全閉）状態から自動開閉作動が開始して約1秒間は、再度スイッチを押しても全開（全閉）作動に切りかわりません。
●スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。

パワースライドドアについての詳しい説明は、➡**126ページの「自動開閉のしかた」**を参照してください。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

⚠注意 **ワイヤレスドアロックリモコンは電子部品です。強い衝撃などを与えると故障の原因となりますので、以下の点にご注意ください。**

●ダッシュボードの上など高温になる所に置かないでください。
●分解しないでください。
●落としたり、強い衝撃を与えないでください。
●水にぬらさないでください。

知 識

作動条件について

●リモコンスイッチは周囲の状況により作動可能距離がかわることがあります。確実に作動させるためには、車から約1mまで近付いて操作してください。
●ワイヤレスドアロックリモコンは微弱な電波を使用しています。次のような場合は、リモコンと車両間の通信をさまたげ、正常に作動しない場合があります。その場合はキーで操作してください。
・近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など強い電波を発生する設備があるとき
・無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき
・リモコンが金属製のものに接したり、覆われているとき
・複数のリモコンが近くにあるとき
・リモコンをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
・近くでワイヤレスドアロックのリモコンを使用しているとき
●リモコンスイッチはエンジン スイッチにキーが挿し込まれているときは作動しません。
●スイッチはいずれかのドアが開いているときは作動しません。
●スイッチ、スイッチを押し続けてもドアの施錠・解錠は繰り返されません。スイッチを押しなおしてください。
●スイッチを押して解錠操作をしたあと、約30秒以内にドアを開けなかったときは自動的に施錠されます。（非常点滅灯が1回点滅します）
●スイッチは、パワースライドドアメインスイッチ（➡126ページ参照）がＯＦＦになっているときは作動しません。
●スイッチを押してうまく開閉作動されなかったとき、スイッチを約1秒以上押し続けても開閉操作は繰り返されません。スイッチを押しなおしてください。
●スイッチは、スライドドアが施錠されているときは作動しません。
●バックドアガラス部に次のものを貼り付けると、車両後方からリモコンスイッチの操作をした場合、受信器への電波がさえぎられて受信感度が低下し、作動可能距離が短くなるおそれがあります。
・金属を含有するウインドゥフィルム
・その他の金属物（トヨタ純正品以外のアンテナなど）

便利機能について

イルミネーテッドエントリーシステム（➡119ページ参照）
ワイヤレスドアロックリモコンによる解錠・施錠と連動してマップランプ（ＤＯＯＲの位置のとき）、ルームランプ（ＤＯＯＲの位置のとき）が点灯・消灯します。

電池交換について

リモコンスイッチを押しても作動しない場合や著しく作動可能距離が短くなった場合、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。
電池交換は、市販の精密ドライバーを使用すれば、お客様自身で交換できます（➡366ページの「ワイヤレスドアロックリモコンキーの電池交換」を参照）が、交換の際に破損などのおそれがあるため、**トヨタ販売店**での交換をおすすめします。

航空機内へのキーの持ち込みについて

航空機にワイヤレスドアロックリモコンキーを持ち込む場合は、航空機内でワイヤレスドアロックリモコンキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

紛失について

ワイヤレスドアロックリモコンキーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちに**トヨタ販売店**にご相談ください。

使用枚数について

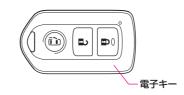
スマートドアロック装着車

ワイヤレスドアロックリモコンキーは、同じ車両で最大5枚まで使用することができます。
（ただし、電子キーとの合計数は7つまでとなります）

スマートドアロック装着車を除く

ワイヤレスドアロックリモコンキーは、同じ車両で最大4枚まで使用することができます。
詳しくは**トヨタ販売店**にご相談ください。

スマートドアロックの使い方★

電子キーでできること

●スマートドアロック機能によるドアの施錠・解錠……………144ページ
●ワイヤレスドアロックリモコン機能による
ドアの施錠・解錠……………………………………………148ページ

警告

心臓ペースメーカーや医療用電気機器などをお使いの方は、スマートドアロックの取り扱いに注意してください。

●植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器をお使いの方は、スマートドアロックの発信機から約22cm以内に、植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器が近付かないようにしてください。
電波により、植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

＜車室外発信機の位置＞

●植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、スマートドアロックをお使いになる前に、医療用電気機器の製造事業者などに個別でご確認ください。
電波により、医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。
●スマートドアロック機能を作動しないようにすることもできます。
詳しくは **トヨタ販売店**にご相談ください。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

⚠注意　車から離れるときは、電子キーを携帯していることを確認してください。

- 車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、エンジン スイッチからキーを抜き、必ず電子キーが車室内にないこと、および電子キーを携帯していることを確認してからドアを施錠してください。
- 電子キーは信号発信機を内蔵している電子部品です。故障の原因となりますので、以下のことをお守りください。
  - ・ダッシュボードの上など高温になる所に置かないでください。
  - ・分解しないでください。
  - ・無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。
  - ・水にぬらさないでください。
  - ・磁気を帯びたキーホルダーなどを付けないでください。
  - ・テレビ、オーディオなどの磁気を帯びた機器、または低周波治療器などの医療電気機器の近くに置かないでください。
  - ・超音波洗浄機などで洗浄しないでください。
  - ・電子キーにガソリンなどの燃料やツヤ出し剤、油脂類が付着すると、電子キーが変形したり、ひび割れたりすることがあります。

知識

電子キーの通信について

電子キーは、微弱な電波を使用しています。次のような場合は、電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートドアロック機能・ワイヤレスドアロックリモコン機能による操作ができなくなることがあります。その場合はキーで操作（➡114ページ参照）してください。

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど、強い電波やノイズを発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが金属製のものに接したり、覆われたりしているとき
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 他の車の電子キー、電波式ワイヤレスキー、パソコンなどの電波を発信する製品と同時に携帯または使用してるとき
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

電子キーの保管について

電子キーは電化製品の近くに保管しないでください。電化製品の電磁波により、電子キーが誤作動したり、常時通信状態となり電池が著しく消耗する場合があります。

影響のある主な電化製品（常時約1m以上離すのが望ましいものの例）
テレビ、パソコン、電磁調理器、電気スタンド、充電中のコードレス電話機および携帯電話

知 識

電池交換について

電子キーは、車両との通信のため常時受信動作をしており、電子キーに内蔵された電池を消費しています。電池の寿命は使用状況にもよりますが、約1～3年程度です。（まったく使用しない場合でも消耗します）次のような場合は、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。

●スマートドアロック機能が作動しにくくなったとき
●スイッチを押しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなったとき
●スイッチを押してもＬＥＤが暗くなったり、点灯しなくなったとき

電池の交換は、お客様自身で交換できます（➡368ページの「電子キーの電池交換」参照）が、交換の際に、破損などのおそれがあるため、**トヨタ販売店**での交換をおすすめします。

航空機内へのキーの持ち込みについて

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

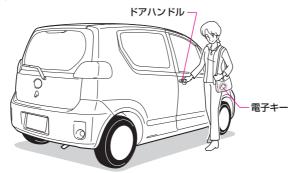
紛失について

電子キーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちに**トヨタ販売店**にご相談ください。

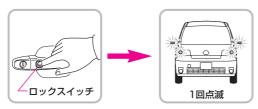
使用個数について

電子キーは、同じ車両で最大5個まで使用することができます。詳しくは**トヨタ販売店**にご相談ください。
（ただし、ワイヤレスドアロックリモコンキーとの合計数は7つまでとなります）

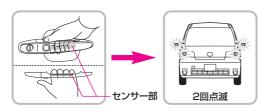
スマートドアロック機能でのドアの施錠・解錠のしかた

電子キーを携帯した状態で、ドアハンドル（運転席側・助手席側）上のスイッチを操作します。

■施錠するときは

電子キーを携帯し、ドアハンドルのロックスイッチを押します。

●すべてのドア（バックドアを含む）の施錠ができます。
●施錠時に非常点滅灯が1回点滅します。
●必ず施錠作動したことを確認してください。

■解錠するときは

電子キーを携帯し、ドアハンドル内側のセンサー部にふれるように、ドアハンドルを握ります。

●すべてのドア（バックドアを含む）の解錠ができます。
●解錠時に非常点滅灯が2回点滅します。

⚠注意 ドアを閉める前に、電子キーを車内に残したままにしていないか確認してください。

ドアを閉める前に、電子キーを車内に残したままにしていないか確認してください。
電子キーを車内に残したままにしていると、ドアを閉める際に手がロックスイッチにふれ、キーを閉じ込んだまま、ドアがロックされてしまうおそれがあります。

知 識

作動範囲について

車室外発信機の作動範囲内（ドアハンドルから周囲約70cm以内）

●ドアガラスやドアハンドルに近付きすぎた場合などは作動しないことがあります。

作動範囲
ドアハンドルから周囲約70cm以内

作動範囲
車室外発信機（運転席側）
作動範囲
車室外発信機（助手席側）

作動条件について

●電子キーを携帯し、車室外発信機の作動範囲内に入ると、自動的にＩＤコードの照合※を行い、照合が一致したときのみドアの施錠・解錠ができます。

●作動範囲内に入っていても、電子キーが地面の近くや高い場所にあるときは、正常に作動しない場合があります。

●作動を確実に行うために、作動範囲に入ってから操作してください。

●電波の状況が悪いときや電子キーの電池が切れたときは、スマートドアロック機能やワイヤレスドアロックリモコンでのドアの施錠・解錠はできません。
その場合は、キーで操作してください。（➲114ページ参照）

●電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。

●車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。

※ＩＤコードの照合とは、車両からのＩＤコードと電子キーからのＩＤコードを照らし合わせることをいいます。

知識

施錠・解錠について

●電子キーが車室外発信機の作動範囲内（➲前ページ参照）にあれば、電子キーを携帯している人以外でもドアハンドル（運転席側・助手席側）で施錠・解錠を行うことができます。
●施錠するときは、ドアハンドルのロックスイッチを確実に押して施錠されたことを確認してください。
●ロックスイッチを早押しした場合、施錠されないことがあります。
●エンジン スイッチにキーが挿し込まれているとき、またはいずれかのドアが開いているときは、ロックスイッチを押しても施錠されません。
●いずれかのドア（バックドアを含む）が開いているときは、ロックスイッチを押しても施錠されません。
●施錠後、約3秒間はスマートドアロック機能を使って解錠することはできません。
●キーの操作により施錠すると、スマートドアロック機能での解錠操作をすることはできません。その場合は、ワイヤレスドアロックリモコン機能、またはキーの操作により解錠してください。
●解錠するときは、ドアハンドルの内側のセンサー部を確実に握り、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
・ドアハンドルの裏側センサー部以外にふれても解錠されません。
・皮手袋、スキー手袋などを装着してドアハンドルにふれた場合は、解錠が遅れたり、解錠されないことがあります。
・他の車の電子キーや、電波を発信するような製品などを同時に携帯した場合、作動時間が通常よりも長くなることがあります。

ドアハンドル
センサー部

●確実に解錠させるためには、電子キーが車室外発信機の作動範囲に入ってから約5秒以内にドアハンドルを握ってください。約5秒を経過すると、作動しない場合があります。
●車室外発信機の作動範囲内への急な接近や、急なドアハンドル操作では、解錠できない場合があります。その際は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してから再度ドアハンドルを引いてください。
●解錠後、ドアの開閉操作がなければ、約30秒後に自動的に施錠されます（非常点滅灯が1回点滅します）。
●電子キーが車室外発信機の作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに多量の水がかかるとスマートドアロック機能が働き、ドアが解錠することがありますがドアの開閉操作がなければ、約30秒後に自動的に施錠されます。

知識

節電機能について

スマートドアロックでは、エンジン停止時でドア施錠時に車室外発信を定期的に行っています。そのため、車両を長時間放置すると車両のバッテリーがあがるおそれがあります。また、車室外発信機の作動範囲内（➡145ページ参照）に電子キーを常時置いていると、電子キーと車両は定期的に通信を行うため、長時間その状態で放置すると、電子キーの電池の消耗および車両のバッテリーがあがるおそれがあります。そこで、電子キーの電池の消耗およびバッテリーあがりを防止するために、下記の制御を自動的に行います。

●15日以上電子キーから応答がない場合、もしくは約10分以上車室外発信機の作動範囲内に電子キーがある場合はスマートドアロック機能を停止します。

スマートドアロック機能を復帰させるときは、下記のいずれかの操作を行ってください。

●電子キーを携帯し、ドアハンドルのロックスイッチを押し施錠操作をする。

●車両に近付き、キーの🔒スイッチ、または🔓スイッチのいずれかを押して、施錠または解錠操作をする。

●エンジンを始動する。

便利機能について

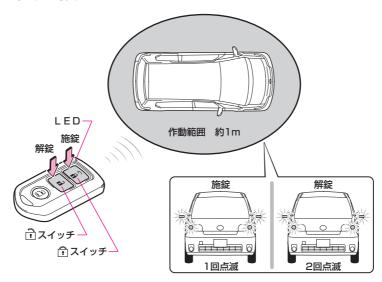
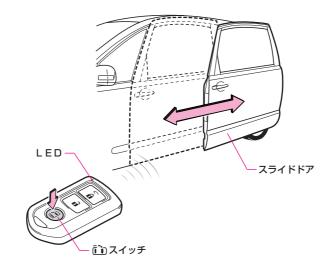
イルミネーテッドエントリーシステム（➡119ページ参照）

スマートドアロック機能による解錠・施錠と連動してマップランプ（ＤＯＯＲの位置のとき）、ルームランプ（ＤＯＯＲの位置のとき）が点灯・消灯します。

スマートドアロック機能のキャンセルについて

スマートドアロック機能をキャンセルすることができます。
詳しくは **トヨタ販売店**にご相談ください。

ワイヤレスドアロックリモコン機能の使い方

■ドアの施錠・解錠

- ●スイッチを押すと、すべてのドア（バックドアを含む）が施錠されます。
- ●スイッチを押すと、すべてのドア（バックドアを含む）が解錠されます。
- ●施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅します。
- ●解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅します。
- ●スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。
- ●スイッチを押すと、電子キーのＬＥＤが点灯します。
- ●施錠操作をしたときは、必ず施錠作動したことを確認してください。

■スライドドアの自動開閉

スライドドアが全閉（全開）状態のとき、スイッチを約1秒以上押し続けると、自動で全開（全閉）します。

●開閉作動開始時にブザーが鳴ります。
●閉作動中は、断続的にブザーが鳴ります。
●全開（全閉）作動中に再度スイッチを押すと、全閉（全開）作動に切りかわります。ただし、全開（全閉）状態から自動開閉作動が開始して約1秒間は、再度スイッチを押しても全開（全閉）作動に切りかわりません。
●スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。
●スイッチを押すと、電子キーのＬＥＤが点灯します。

パワースライドドアについての詳しい説明は、➡**126ページの「自動開閉のしかた」**を参照してください。

知 識

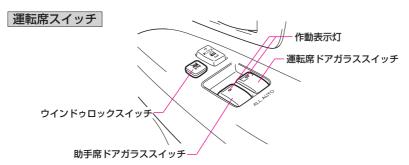
作動条件について

●ワイヤレスドアロックリモコン機能は、周囲の状況により作動可能距離がかわることがあります。確実に作動させるためには、車から約1mまで近付いて操作してください。
●ワイヤレスドアロックリモコン機能は、エンジン スイッチにキーが挿し込まれているときは作動しません。
●スイッチはいずれかのドアが開いているときは作動しません。
●スイッチ、スイッチを押し続けてもドアの施錠・解錠は繰り返されません。
スイッチを押しなおしてください。
●スイッチを押して解錠操作をしたあと、約30秒以内にドアを開けなかったときは自動的に施錠されます。(非常点滅灯が1回点滅します)
● スイッチは、パワースライドドアメインスイッチ（➡126ページ参照）がＯＦＦになっているときは作動しません。
● スイッチを押してうまく開閉作動されなかったとき、スイッチを約1秒以上押し続けても開閉操作は繰り返されません。スイッチを押しなおしてください。
● スイッチは、スライドドアが施錠されているときは作動しません。
●電子キーが電池切れのときは、ワイヤレスドアロックリモコン機能による操作はできません。その場合は、キーで操作してください。(➡114ページ参照)
●バックドアガラス部に次のものを貼り付けると、車両後方からリモコンスイッチの操作をした場合、受信器への電波がさえぎられて受信感度が低下し、作動可能距離が短くなるおそれがあります。
・金属を含有するウインドゥフィルム
・その他の金属物（トヨタ純正品以外のアンテナなど）

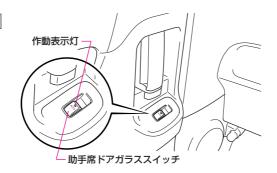
便利機能について

イルミネーテッドエントリーシステム（➡119ページ参照）
ワイヤレスドアロックリモコン機能による解錠・施錠と連動してマップランプ（ＤＯＯＲの位置のとき)、ルームランプ（ＤＯＯＲの位置のとき）が点灯・消灯します。

ドアガラスの開閉

パワーウインドゥの使い方

運転席スイッチ

運転席スイッチですべてのドアガラスの開閉が行えます。

助手席スイッチ

自席のドアガラスの開閉が行えます。

■ドアガラスの開閉

スイッチを軽く下に押している間は開き、軽く上に引いている間は閉まります。
スイッチから手を離すと、その位置で停止します。

■ドアガラスの自動開閉

●全開するときは、スイッチを下に強く押して手を離します。
途中で止めたいときは、スイッチを軽く引き上げます。
●全閉するときは、スイッチを上に強く引き上げて手を離します。
途中で止めたいときは、スイッチを軽く押します。

知 識

作動条件について

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき使用できます。
ただし、助手席スイッチはウインドゥロックスイッチがＯＮ（➡次ページ参照）になっているときは作動しません。

- エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にすると、各スイッチの作動表示灯が点灯します。
- 各スイッチの作動表示灯が点滅しているときは、パワーウインドゥの初期設定をしてください。（➡次ページ参照）

安全機能について

挟み込み防止機構

ドアガラスを閉めるときに、窓枠とドアガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ドアガラスの上昇を停止し、自動で少し開き止まります。

- 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃や荷重がドアガラスに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

便利機能について

キーＯＦＦ後作動機能

ドアガラスは、エンジン スイッチを“ ＡＣＣ ”または“ ＬＯＣＫ ”にしたあとでも約45秒間は開閉することができます。ただし、約45秒間に運転席ドアを開けてからいったん閉めると、ドアガラスの開閉はできなくなります。

- キーＯＦＦ後作動が機能している間は、各スイッチの作動表示灯が点灯します。

知識

初期設定について

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、パワーウインドゥの初期設定をしてください。

●パワーウインドゥの初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。
- ・運転席スイッチでの助手席ドアガラスの開閉
- ・ドアガラスの自動開閉
- ・挟み込み防止機構
- ・キーＯＦＦ後作動機構

●パワーウインドゥの初期設定がされていないドアガラスは、スイッチの作動表示灯が点滅します。

●その他にも、初期設定が必要な機能があります。➡406ページ「初期設定が必要な機能」を参照してください。

■初期設定のしかた

パワーウインドゥの初期設定は、各ドアガラスごとに、各席スイッチで行います。
運転席スイッチで助手席ドアガラスのパワーウインドゥの初期設定をすることはできません。

〈設定手順〉

1 **エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にします。**

2 **スイッチを下に押し続けて、半分くらいまでドアガラスを開けます。**

3 **スイッチを上に引き続けてドアガラスを全閉し、そのまま約1秒間スイッチを上に引き続けます。**

パワーウインドゥの初期設定が完了すると、スイッチの作動表示灯が点滅から点灯にかわります。

ウインドゥロックスイッチの使い方

ウインドゥロックスイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切りかわります。
スイッチをＯＮにすると、助手席ドアガラスのパワーウインドゥは作動しません。

●スイッチをＯＮにすると、助手席ドアガラススイッチの作動表示灯が消灯します。

ウインドゥロックスイッチ	運転席スイッチ	助手席スイッチ
ＯＮ	運転席ドアガラスの開閉ができます。	開閉できません。
ＯＦＦ	すべてのドアガラスの開閉ができます。	開閉できます。

走行中は窓から手や顔を出さないでください。また、ドアガラスを開閉するときは手・腕・頭・首などを挟まないようにしてください。

●走行中は窓から手や顔を出さないでください。車外のものなどにあたったり、急ブレーキをかけたときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアガラスを開閉するときは、他の人の手・腕・頭・首などを挟まないように注意してください。とくにお子さまへは手など出さないように声かけをしてください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまにドアガラスの操作をさせないでください。開けるときや閉めるとき手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込まれたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアガラスを確実に閉めるため、閉じ切り直前の部分では挟み込みを感知していない領域があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機構は、スイッチを強く引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機構を故意に作動させるため、手などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●万一、挟み込み防止機構が作動してしまい、ドアガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続けると閉めることができます。

注意

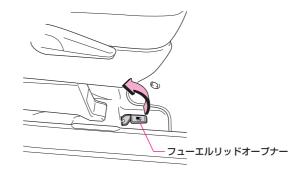
運転席ドアガラススイッチと助手席ドアガラススイッチを同時に逆方向に動かさないでください。

●運転席ドアガラススイッチと助手席ドアガラススイッチを同時に逆方向に動かさないでください。パワーウインドゥの故障の原因になります。

●ドアガラスの全開、全閉後に同じ方向にスイッチを操作し続けないでください。パワーウインドゥの故障の原因になります。

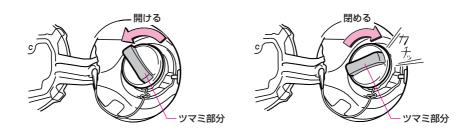
目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする 前に
運転をする ときに
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

フューエルリッド（燃料補給口）の開閉

フューエルリッドの開閉のしかた

運転席右下にあるフューエルリッドオープナー（⛽）を引くと開きます。
閉めるときは、フューエルリッドを手で“カチッ”と音がするところまで閉めます。

フューエルリッドオープナーを足で踏まないでください。

オープナーが破損して、フューエルリッドが開かなくおそれがあります。

フューエルキャップの開閉のしかた

■開けるときは
キャップのツマミ部分を持ち、左にまわして開けます。

■閉めるときは
キャップのツマミ部分を持ち、“カチッ”と音がするまで右にまわして閉めます。

警告 燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。

●燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、燃料に引火してやけどなどの重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・エンジンは必ず停止してください。
・車のドア、窓は閉めてください。
・タバコなど火気を近付けないでください。
・フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分にふれて体の静電気除去を行ってください。体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。
・フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
フューエルキャップを少しゆるめたときに“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。その音が止まってからゆっくり開けてください。
・給油中、再び車内のシートにもどったり、帯電している人やものにふれないでください。（再帯電することがあります）
・給油口には静電気除去を行った方以外を近付けないでください。
・給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
・給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と一度音がするまで右にまわしてください。手を離すと若干もどります。
・車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
・その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。
●給油時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますのでご注意ください。

注意 指定以外の燃料を使用しないでください。

●指定燃料は無鉛レギュラーガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
●指定以外の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使うとエンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

⚠注意　**給油中に燃料を車にこぼさないようにしてください。**

●給油中に燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。
●スライドドアが、全開またはフューエルリッド近くまで開いているときは、フューエルリッドを開けないでください。フューエルリッドがスライドドアにあたり、傷や汚れが付く原因となるおそれがあります。

知識

フューエルリッドの位置について

フューエルリッドは車両助手席側後方にあります。

燃料タンク容量について

燃料タンク容量は約45Ｌです。

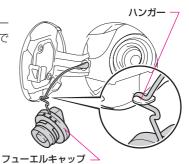
安全機能について

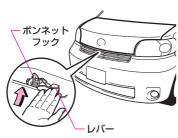
●フューエルリッドが開いているときに、自動でスライドドアを開けようとしても作動しません。
●フューエルリッドが開いているときに、手動でスライドドアを開けると、スライドドアは全開せずに途中で止まります。

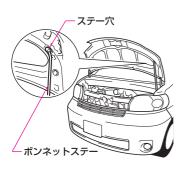
フューエルキャップハンガーについて

燃料補給時に、はずしたフューエルキャップをフューエルリッドの裏側にあるハンガーに固定することができます。

ボンネットの開閉

開け方

1 **ボンネットオープナーを引きます。**

運転席インストルメントパネル右下にあるボンネットオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。

2 **ボンネットフックをはずします。**

ボンネットのすき間に手を入れ、レバーを押し上げ、ボンネットフックをはずしてボンネットを持ち上げます。

3 **ボンネットステーを取りはずします。**

4 **ボンネットステーを挿し込みます。**

ボンネットステーをステー穴に挿し込んでボンネットを支えます。

閉め方

1 **ボンネットステーをはずします。**

ボンネットステーをはずし、もとどおりに固定します。

2 **ボンネットを静かに降ろします。**

3 **ボンネットを閉めます。**

ボンネットの前端を両手で押さえ付けロックします。

4 **ロックされていることを確認します。**

ボンネットの前端を上下にゆすり、確実にロックされていることを確認します。

走行前にはボンネットがロックされていることを確認してください。ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

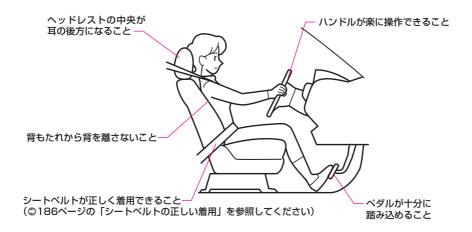
●ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。
●ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

シートの調整

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるように、次の事項に注意してシートを調整します。

⚠警告　助手席に荷物を積み重ねないでください。

●走行中は運転席シートの調整をしないでください。調整中にシートが突然動き運転を誤り、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●シートの下にものを置かないでください。ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因になります。

●背もたれと背中の間にクッション（座布団）などを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したときシートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しないでください。また、シートアレンジなどにより広げたスペースに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●助手席シートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取り付けないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものを取り付けると、助手席シートベルトの正常な作動のさまたげとなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取り付けてください。

⚠注意　シートを調整するときは同乗者や荷物などまわりの状況に注意してください。

- シートを調整するときは、同乗者や荷物にあてないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手などを近付けないでください。指や手などを挟み、けがをするおそれがあります。
- 車内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートの下に手などを入れると、シートレール・シートフレーム（シートの土台部分）などにあたり、けがをするおそれがありますので十分に注意して行ってください。
- シートレールの上にマットなどを敷かないでください。
シートを移動させるときに、シートレール内のゴム部分を損傷させるおそれがあります。

フロントシートの調整

前後位置調整のしかた

フロントシート

助手席シート

レバーを引いたまま、シートを前後に動かして調整します。

●助手席シートは、2か所あるレバーのどちらでも操作できます。

知 識

便利機能について

助手席ストッパー

ストッパーを取りはずすと、助手席の前後位置調整範囲を拡大することができます。

●ストッパーを取り付けるときは、ストッパーのツメをレール内の穴に挿し込みます。A部（“前”と書かれた部分）が車両の前方に向くように取り付けてください。

●取りはずしたストッパーは、次のように保管してください。

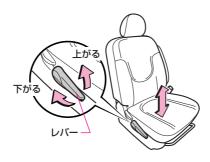
・ＦＦ車は、ジャッキと一緒にクリップに固定してください。（➲418ページ参照）

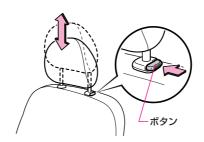
・4WD車は、デッキアンダートレイ内に収納してください。（➲310ページ参照）

リクライニング位置調整のしかた

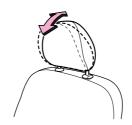
レバーを引いたまま、背もたれを前後に動かして調整します。

上下位置調整のしかた

運転席シート

レバーを上または下へ動かして、シート全体の高さを調整します。

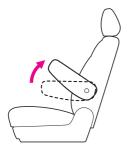
ヘッドレストの上下位置調整のしかた

●上げるときは、そのまま引き上げます。
●下げるときは、ボタンを押したまま押し下げます。
●取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。

ヘッドレストの前後位置調整のしかた

運転席シート

調整したい方へ押し（または引き）ます。

アームレストの使い方★

1 アームレストを一度、いちばん下から約60° 以上持ち上げ（❶）、そのあといっぱいまで下げます（❷）。

アームレストがすでにいちばん下から約60° 以上、上にあるときは、そのまま下げます。

2 いちばん下から約60° までのあいだで、アームレストをお好みの位置まで上に上げると、その位置で固定されます。

●アームレストが固定されると、その位置から直接、下に動かすことはできません。
●下に動かすときは、手順 *1* の方法でいっぱいまで下げます。

警告　助手席に荷物を積み重ねないでください。

●助手席に荷物を積み重ねないでください。急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員にあたったり、荷物を損傷したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体が慣性力で飛ばされ、頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●リヤシートへ乗り降りしたあとは、必ず助手席を固定させてください。固定させていないと急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、シートが動き、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●走行中、助手席の前後位置を調整しないでください。急ブレーキをかけたときや、車が旋回したときなどにシートが動き、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

警告　運転席シート、助手席シートのヘッドレストは各シート専用です。

運転席シート、助手席シートのヘッドレストは各シート専用です。
取り付けるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。ヘッドレストを間違って取り付けると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意　背もたれをもどすときは、背もたれに手をそえながら、リクライニングレバーを操作してください。

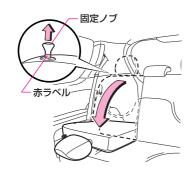
●背もたれをもどすときは、背もたれに手をそえながら、リクライニングレバーを操作してください。背もたれを押さえずにリクライニングレバーを操作すると、背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。
●背もたれにもたれかかったままリクライニング調整をしないでください。背もたれに力が加わっていると、レバー操作が重かったり、突然背もたれが倒れるおそれがあります。
●背もたれの調整をするときは、リクライニングレバーをいっぱいまで引き上げたまま背もたれを調整してください。レバーをいっぱいまで引き上げずに調整すると、リクライニング機構の故障の原因となります。
●シートを移動させるときは、シートの下に手や足などを入れないでください。シートに挟まれてけがをするおそれがあります。
●助手席シートを前方へ移動させるときは、インストルメントパネルとシートの間に、足などを挟まないように注意してください。
●助手席ストッパーを取りはずした状態で助手席の前後位置を調整するときは注意してください。シートを調整するとき、後席足元のスペースが確保されず、けがをするおそれがあります。
●リヤシートへ乗り降りするときは、助手席シートレールの溝に指などを挟まないように注意してください。
●運転席シート、助手席シートのヘッドレストは各シート専用です。
取り付けるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。ヘッドレストを間違って取り付けると、固定することができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあります。

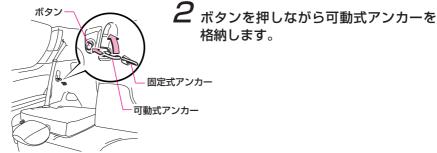
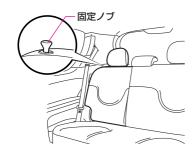
リヤシートの調整

リクライニング調整のしかた

分割可倒式シート

■倒すときは

1 **固定ノブを引き、背もたれを手前に倒します。**

ロックを解除すると、固定ノブの赤ラベルが見えます。

2 **ボタンを押しながら可動式アンカーを格納します。**

3 **背もたれをうしろに倒し、固定式アンカーに固定します。**

“カチッ”と音がし、確実に固定されていることを確認します。

●背もたれが固定されていないときは、固定ノブの赤ラベルが見えます。赤ラベルが見えていないことを確認してください。

■起こすときは

1 固定ノブ（➡前ページ参照）を引き、背もたれを手前に倒します。

2 ボタンを押しながら可動式アンカー（➡前ページ参照）を引き出します。

3 背もたれをうしろに倒し、可動式アンカーに固定します。

“カチッ”と音がし、確実に固定されていることを確認します。

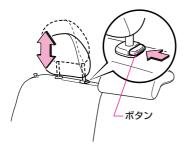
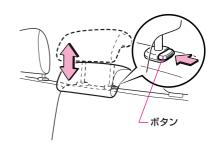
●背もたれが固定されていないときは、固定ノブの赤ラベルが見えます。赤ラベルが見えていないことを確認してください。

知識

リクライニング調整について

●左右に分割されているシートをそれぞれ調整することができます。
●調整角度は起こしたときと、リクライニングさせたときの2段階です。

ヘッドレストの上下位置調整のしかた

左右席

中央席

●上げるときは、そのまま引き上げます。
●下げるときは、ボタンを押したまま押し下げます。
●取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。

⚠警告 後席に荷物を積み重ねないでください。

●後席に荷物を積み重ねないでください。急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員にあたったり、荷物を損傷したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●背もたれをもどすときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷付くおそれがあり、傷付いたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体が飛ばされ頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。左右席のヘッドレストは、ヘッドレストの中央が耳の後方になるように高さを調整してください。中央席のヘッドレストは、ヘッドレストを必ず上げた状態で使用してください。
●リヤシート左右席および中央席のヘッドレストは、それぞれのシート専用です。
取り付けるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。ヘッドレストを間違って取り付けると、固定することができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあり危険です。

⚠注意 リヤシートをリクライニングさせるときは、ラゲージルームにある荷物にあてないようにしてください。

●リヤシートをリクライニングさせるときは、ラゲージルームにある荷物にあてないようにしてください。荷物を損傷するおそれがあります。
●可動式アンカーを操作するときは、手や指などを挟まないように注意してください。

シートアレンジ

インデックス

この車のシートは、状況に応じて次のようなアレンジを行うことができます。
それぞれの説明ページをよく読んでから、操作を行ってください。

運転席フラットシート

運転席フラットシート…………………………………176ページ

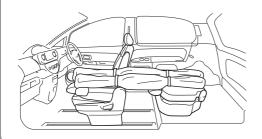
運転席シートとリヤシートを組み合わせることにより、平ら（フラット）な空間をつくることができます。

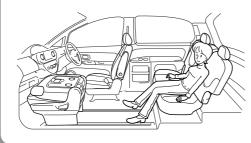
シートバックテーブル

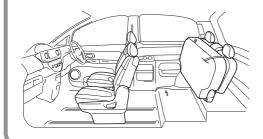
シートバックテーブル…………………………………178ページ

助手席シートの背もたれを前に倒すことにより、テーブルとして使用できます。

ラゲージスペースの拡大

ラゲージスペースの拡大………………………………180ページ

リヤシートの背もたれを前倒しして、荷室を拡大することができます。さらに、助手席シートの背もたれを前倒しすることにより、長い荷物を積むことができます。

フリースペース……………………………………………………➡182ページ

助手席シートの背もたれを前に倒し、ヘッドレストを取りはずして前方に移動させることにより、広いスペースをつくることができます。

背高荷物収納スペース ★……………………………………➡184ページ

リヤシートのクッションを引き起こすことにより、背高荷物が収納できるスペースをつくることができます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

シートアレンジをする前に

車両を安全で平坦な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかけます。

シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でシフトレバーをⓅに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。

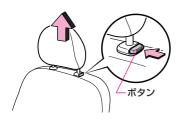
●シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でシフトレバーをⓅに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。不整地や傾斜地では操作中に不意にシートが動き、手足などを挟まれ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

シートを操作するときは同乗者や荷物にあてないように注意してください。

●シートを操作するときは同乗者や荷物にあてないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
●シートを操作しているときは、シートの下やロック機構部分、動いている部分の近くに手や足などを近付けないでください。指や手、足などを挟みけがをするおそれがあります。

運転席フラットシート

フラット状態のつくり方

1 **運転席シートのヘッドレストをはずします。**

ボタンを押したまま引き抜きます。

2 **運転席シートの前後位置を前に移動させます。**

スライドレバーを引いて、シートを動かします。

3 **運転席シートの背もたれをうしろに倒します。**

リクライニングレバーを引いて、シートを倒します。

4 **運転席シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。**

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

フラット状態のもどし方

1 逆の手順で行います。

背もたれをもどすときは、背もたれを手で押さえながらレバーを操作します。レバー操作だけでは、背もたれがもどらないことがあります。その場合、背もたれを手で持ち上げてください。

2 シートをもどしたときは、運転席シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

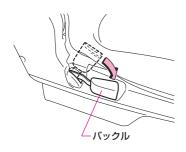
警告　フラット状態で人や荷物をのせて走行しないでください。

ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意　フラット状態でシートの上を走りまわらないでください。

●フラット状態でシートの上を走りまわらないでください。また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。シートを踏みはずしたり、シートの間に足を挟むなどして、けがをするおそれがあります。
●シートに人が乗っている状態ではフラット操作をしないでください。シートがあたるなどしてけがをするおそれがあります。
●運転席シートの背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニングレバーを操作してください。背もたれを押さえずにレバーを操作すると、背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。

シートバックテーブル

シートバックテーブルのつくり方

1 **助手席シートのシートベルトのバックルを収納します。**

2 **助手席シートのリクライニングレバーを引いて、背もたれを前に倒しロックさせます。**

- ●背もたれのベルト引き出し部に手をそえながら、リクライニングレバーを引きます。
- ●助手席シートの前後位置が前の方にあると、インストルメントパネルにあたることがあります。その場合、前後位置をうしろの方に調整してください。(➡164ページ参照)

3 **助手席シートの背もたれを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。**

シートバックテーブルのもどし方

1 **助手席シートのリクライニングレバーを引いて、背もたれを引いてもどします。**

シートベルトがロックし、背もたれが起こせないときは、途中まで起こしたあといったん倒し、その後起こします。または、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

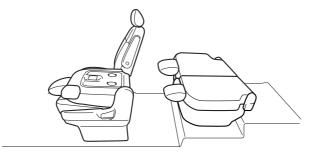
2 **助手席シートの背もたれを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。**

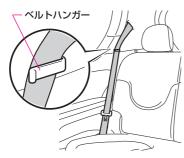
走行中はテーブルとして使用しないでください。

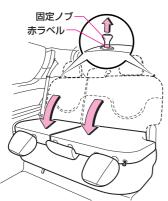
ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意 **テーブルの上には絶対に乗らないでください。**

- テーブルの上には絶対に乗らないでください。シートが損傷したり、思わぬけがをするおそれがあります。
- 助手席シートの前後位置を調整するときは、インストルメントパネルにあたらないように注意してください。
- シートを移動させるときは必ず手をそえて移動させてください。シートが急に動いたりレバーが破損するおそれがあります。
- 背もたれを前倒しするときは、シートベルトのバックルを収納してください。シートにバックルのあとが残ることがあります。
- 背もたれを前倒しするときは、プレートの向きに注意してください。シートにプレートのあとが残ることがあります。

ラゲージスペースの拡大

助手席シートの前倒し、もどし方については、➡178ページを参照してください。

リヤシート背もたれの前倒しのしかた

1 **リヤシートベルトをベルトハンガーにかけます。**

背もたれを倒すときに巻き込まないように、左右席のシートベルトをベルトハンガーにかけます。
（分割可倒式リヤシートは、背もたれを倒す側のみベルトハンガーにかけます）

2 **背もたれを倒します。**

- 背もたれの固定ノブを引き、背もたれを前に倒します。
- 分割可倒式リヤシートは、それぞれ独立して倒すことができます。

リヤシート背もたれのもどし方

1 背もたれを起こし、うしろに押さえ固定します。

背もたれを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。
●背もたれが固定されていないときは、固定ノブの赤ラベルが見えます。赤ラベルが見えていないことを確認してください。

2 シートベルトをベルトハンガーからはずします。

シートベルトが背もたれにひっかかっていないか、またねじれていないか確認します。

警告　倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しないでください。

●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
●リヤシートを前倒ししたときは、お子さまがラゲージルームに入らないように注意してください。ボディの突起にあたるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●背もたれをもどすときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷付くおそれがあり、傷付いたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

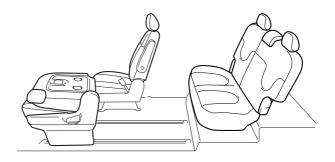
注意　デッキボードに無理な力をかけないでください。(4WD車のみ)

●デッキボードの下が荷物収納スペースになっている部分（デッキボードの下に支えがない部分）には、約20kg以上の重さのものを載せないでください。デッキボードが破損するおそれがあります。
●スペアタイヤをはずした状態でデッキアンダートレイを使用しないでください。

知 識

リヤシートを前倒ししにくいときは

フロントシートにあたって背もたれを前倒ししにくいときは、次の操作を行ってください。
●フロントシートを前方に移動する（➡164ページ参照）
●リヤシートのヘッドレストをはずす（➡170ページ参照）

フリースペース

フリースペースのつくり方

1 助手席シートのシートベルトのバックルを収納します。（➡178ページ参照）

2 助手席シートのヘッドレストを取りはずします。（➡166ページ参照）

3 助手席シートのリクライニングレバーを引いて、背もたれを前に倒しロックさせます。（➡178ページ参照）

4 助手席シートに手をそえながら背もたれの裏側にある前後位置調整レバーを引き、シートをいちばん前まで移動させます。

確実に固定されていることを確認します。

フリースペースのもどし方

1 **助手席シートに手をそえながら背もたれの裏側にある前後位置調整レバーを引き、シートを後方にもどします。**

2 **リクライニングレバーを引いて、背もたれを引いてもどします。**

シートベルトがロックし、背もたれが起こせないときは、途中まで起こしたあといったん倒し、その後起こします。または、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

3 **ヘッドレストを取り付け、助手席シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。**

警告　走行中はテーブルとして使用しないでください。

ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

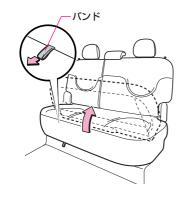
注意　テーブルの上には絶対に乗らないでください。

- テーブルの上には絶対に乗らないでください。シートが損傷したり、思わぬけがをするおそれがあります。
- シートを移動させるときは必ず手をそえて移動させてください。シートが急に動いたりレバーが破損するおそれがあります。
- 背もたれを前倒しするときはシートベルトのバックルを収納してください。シートにバックルのあとが残ることがあります。
- 背もたれを前倒しするときはプレートの向きに注意してください。シートにプレートのあとが残ることがあります。

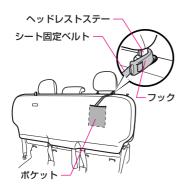
プレート

背高荷物収納スペース

分割可倒式シート

リヤシートクッションの引き起こし方

1 背もたれを倒しているときは背もたれを起こします。（➡170ページ参照）

2 シートクッションを持ち上げます。

バンドを手前に引いてロックを解除し、持ち上げます。

3 シートクッションを固定します。

シートクッション裏面にあるポケットからシート固定ベルトを取り出し、助手席側リヤシートのヘッドレストを引き上げて、フックをヘッドレストステーにかけます。

リヤシートクッションのもどし方

1 **逆の手順で行います。**

①シート固定ベルトをクッション裏面のポケットに格納します。
②背もたれを調整します。（169ページ参照）

2 **シートクッションをもどしたときは、シートを軽くゆすり、確実に固定されていることを確認します。**

⚠警告　背高荷物収納スペースに人を乗せて走行しないでください。

●ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートクッションをもとにもどしたときは、シートクッションが確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意　シートクッションを起こしたときはシートクッションの土台部分に乗らないでください。

●シートクッションを起こしたときはシートクッションの土台部分に乗らないでください。損傷するおそれがあります。
●シートクッションを着座状態にもどすときは、シートクッションの土台部分とシートクッションの間に手や足などを入れないでください。シートに挟まれてけがをするおそれがあります。

シートベルトの着用

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法に従って走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

肩部ベルト
肩に十分かけること
（首にかかったり、肩からはずれないこと）

背もたれを調整し、上体を起こし
深く腰かけて座ること

ねじれていないこと

腰部ベルト
必ず腰骨のできるだけ
低い位置に密着させること

必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

- ●車に乗る場合は、全員がシートベルトを着用してください。ベルトを着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに体がシートに保持されず、体をぶつけたり、ふくらむＳＲＳエアバッグに飛ばされたり、車外に投げ出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - ・シートベルトは上体を起こして、シートに深く腰かけた状態で着用してください。正しい姿勢については➡162ページを参照してください。
  - ・肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。必ず肩に十分かかるように着用してください。
  - ・腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。シートベルトの腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
  - ・シートベルトはねじれがないように着用してください。ねじれていると衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができません。
  - ・シートベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使用しないでください。

警告

必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

・リヤ3点式シートベルトを使用するときは、ベルトハンガーにシートベルトがかかっていないことを確認してください。
ベルトハンガーにシートベルトがかかっていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
・シートベルトを着用する場合は、洗たくばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。
・シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
・ハンドルやインストルメントパネルに必要以上に近付いて運転しないでください。

●シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。シートベルトが傷付いた場合、十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。
ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。
(ただし、医師に注意事項をご確認ください)
・妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
また、肩部ベルトは確実に肩を通しお腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
・ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●疾患のある方も必ずシートベルトを正しく着用してください。
(ただし、医師に注意事項をご確認ください)

警告 **必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。**

●シートベルトが首やあごにあたったり、腰骨にかからないような小さなお子さまには、チャイルドシート・ジュニアシートを使用してください。使用しない場合、衝突したときなどに強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、ひとり座りのできない小さなお子さまはベビーシートを使用してください。
なお、子供専用シートについては **トヨタ販売店**にご相談ください。

●シートベルトのバックルには異物が入らないようにしてください。異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ほつれ、すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトはすぐにトヨタ純正の新品と交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷の付いたシートベルトは使用しないですぐに新品と交換してください。そのまま使用すると衝突したときなどに正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトの改造や分解・取り付け・取りはずしなどをしないでください。衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
シートベルトの取り付け・取りはずし、交換については **トヨタ販売店**にご相談ください。

●シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

●助手席シートうしろのベルト穴にごみや異物などを入れないでください。ごみや異物などが入ると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●助手席シートうしろのベルト穴付近に足などを乗せないでください。プリテンショナー付シートベルトが作動したとき、やけどをするおそれがあり危険です。

注意 助手席シートベルトを着用するときは、次の点に注意してください。

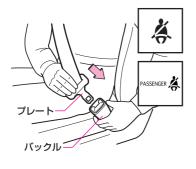
●助手席の背もたれをリクライニングさせた状態で、ベルトが巻取りにくいときは、背もたれを起こしてください。
●炎天下での駐車後は、シートベルトのプレートが熱くなり、やけどをするおそれがあり危険です。熱くないことを確認してから使用してください。
●シートベルトを背もたれうしろのベルト穴から引っぱり出したり、ベルトにものをひっかけたりしないでください。シートベルトがロックしたまま引き出せなくなります。
シートベルトがロックしてしまったときは、次のように操作してください。
・背もたれが起きた状態でベルトが引き出せないときは、いったん背もたれを前に倒します。
・テーブル状態でベルトがロックして、背もたれが起こせないときは、背もたれを途中まで起こしたあといったん倒し、その後、起こします。または、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

ＥＬＲ(緊急時固定機構)付
3点式シートベルトの脱着のしかた

フロントシート・リヤシート左右席

1 シートベルトを引き出します。

プレートを持って引き出し、ねじれていないことを確認してください。
シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてから、ベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

●助手席シートベルトが引き出せないときは、一度背もたれを前に倒すとベルトが引き出せます。
●リヤシート左右席では、シートベルトがベルトハンガーにかかっていないことを確認します。

2 プレートをバックルに挿し込みます。

プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに挿し込みます。
エンジン スイッチが“ ＯＮ ”の状態のときは、メーター内のシートベルト非着用警告灯（➲248、249ページ参照）が消灯したことを確認してください。
（フロントシートベルト着用時のみ）

3 腰部ベルトを密着させます。

腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引き、腰部に密着させます。

〈下げるとき〉
ロックボタン
アンカー部
〈上げるとき〉
アンカー部

4 肩部ベルトをかけます。

肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるようにします。
このとき、ベルトが首にあたったり、肩からはずれないようにしてください。

5 運転席シートでは、ベルトの高さを調整します。

アジャスタブルショルダーベルトアンカーでベルトの高さを調整します。
調整するときは、ベルトができるだけ肩の中央にかかるようにしてください。

- 下げるときは、ロックボタンを押したままアンカー部を動かし、最適な位置に調整します。
- 上げるときは、アンカー部を持ち、そのまま動かします。

“カチッ”と音がし、確実に固定されていることを確認します。

6 はずすときは、バックルのボタンを押してはずします。

助手席シートベルトは、バックルのボタンを押したあと、ねじれがないように確実にベルトを巻き取らせてください。

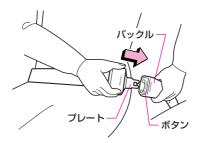
アジャスタブルショルダーベルトアンカーを調整するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトが首にあたらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。
- 調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

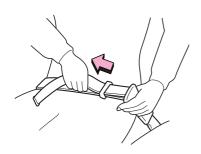
2点式シートベルトの脱着のしかた

リヤシート中央席

1 **ベルトの長さを調整します。**

プレートを図のように持ち、ベルトを引き、必要な長さより少し長めにします。

2 **ベルトを結合します。**

ベルトにねじれがないようにし、プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに挿し込みます。

● 「CENTER」の刻印があるプレートとバックルどうしを結合してください。

3 **ベルトを密着させます。**

ベルトを引いて必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させます。

4 **はずすときは、バックルのボタンを押してはずします。**

はずしたベルトはバックルにはめておいてください。

チャイルドシートの固定

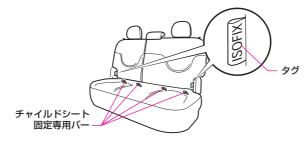
ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカーでの固定

リヤシート左右席

ＩＳＯ※ＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカーには、ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカー対応の子供専用シート（チャイルドシート・ベビーシート）のみ取り付けることができます。お子さまに最適な子供専用シートについては、**トヨタ販売店**にご相談ください。

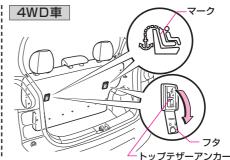
※ＩＳＯは、International Organization for Standardization の略で「国際標準化機構」の意味。

取り付け位置について

■ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バーの取り付け位置

シートクッションと背もたれの間にあります。

●固定専用バーが装備されていることを示すタグ（表面「ＩＳＯＦＩＸ」、裏面「ＬＡＴＣＨ」）がシートに付いています。

■トップテザーアンカーの取り付け位置

ＦＦ車

4WD車

リヤシート背もたれのうしろ側にあります。

●4WD車は、フタの表面にトップテザーアンカーが装備されていることを示すマークがあります。

取り付けるときは

1 **リヤシートのヘッドレストをいちばん上まで引き上げます。（➡170ページ参照）**

2 **ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカーの位置を確認します。（➡前ページ参照）**

3 **子供専用シートをリヤシートに取り付けます。**

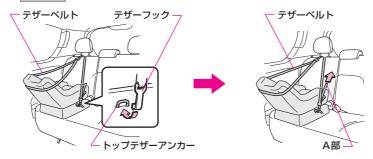
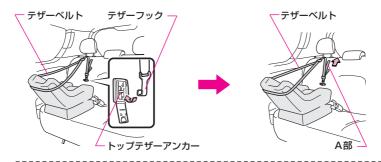
適合する子供専用シートの取り付け金具をＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
次に、テザーベルトをトップテザーアンカーに連結して取り付けます。

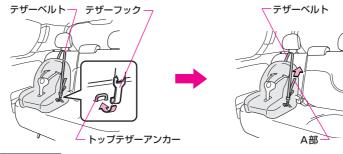
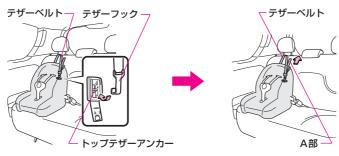
※取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

●分割可倒式シート装着車は、背もたれを倒している場合は背もたれを起こしてから取り付けてください。（➡170ページ参照）
●テザーベルトがねじれないようにヘッドレストの間に通し、テザーフックをリヤシート背もたれのうしろ側にあるトップテザーアンカーにかけます。
●テザーベルトがピンと張るまでＡ部を強く引っ張って、チャイルドシート・ベビーシートを固定します。

■子供専用シートの取り付け例

<ベビーシート>

ＦＦ車

4WD車

＜チャイルドシート＞

ＦＦ車

4WD車

4 確実に固定されていることを確認します。

取り付けた子供専用シートを軽くゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認します。

※イラストは説明のための例であり、実際の子供専用シートの形状とは異なります。

子供専用シートの取り付けは、必ず商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。

●正しく取り付けられていないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
なお、子供専用シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。

●子供専用シートが固定されていることを必ず確認してください。子供専用シートを取り付けるときは、ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどをかみ込むと、子供専用シートが固定されず、衝突したときなどに飛ばされて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●子供専用シートを取り付けるときは、必ずテザーベルトがピンと張るまで張力をかけてください。テザーベルトが正しく張っていないと、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ＦＦ車

4WD車

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

警告 テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。

●テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。ヘッドレストの上にかけると、子供専用シートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ＦＦ車

4WD車

●子供専用シートの取り扱いについては、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するかラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

知識

ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカーについて

このＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカーには、ポルテ指定の道路運送車両の保安基準に適合するＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカー対応のトヨタ純正子供専用シートを取り付けることをおすすめします。詳しくは**トヨタ販売店**にご相談ください。

シートベルトでの固定

取り付けるときは

リヤシート左右席

1 **分割可倒シート装着車は、シートの背もたれを起こします。(****➡170ページ参照****)**

2 **シートベルトを取り付けます。**

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込みます。
その際ベルトがねじれていないことを確認します。

●チャイルドシートに付属の取扱書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定します。

●ロッキングクリップの購入にあたっては、**トヨタ販売店**にご相談ください。(ロッキングクリップ 品番：73119-22010)

取り付けたあとはチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

※イラストは説明のための例であり、実際の子供専用シートの形状とは異なります。

警告　子供専用シートの取り付けは、必ず商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。

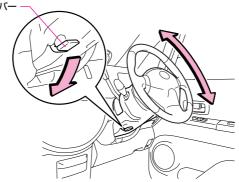
●正しく取り付けられていないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
なお、子供専用シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●子供専用シートの取り扱いについては、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
・子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するかラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

道路運送車両の保安基準に適合するＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカー対応のトヨタ純正子供専用シートは、ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカーで固定し、この車のシートベルトでは固定しないでください。
（ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカーについては、➡193ページの「ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカーでの固定」を参照してください）

ハンドル、ミラーの調整

ハンドルの調整

チルトステアリングレバーを押し下げ、ハンドルを上下に動かし適切な位置にして、チルトステアリングレバーを引き上げると固定されます。

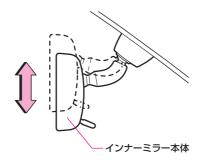
警告　走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

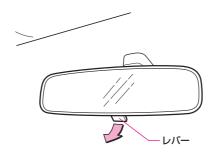
●走行中はハンドル位置の調整をしないでください。調整中に運転を誤り、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとハンドル位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意　ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

確実に固定されていないと、ホーンが鳴らない場合があります。

インナーミラーの調整

上下位置調整のしかた

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整します。

防眩切りかえのしかた

通常はミラー下側のレバーを前方に押した状態で使用します。
後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引きます。

走行中はインナーミラーの調整をしないでください。

運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ドアミラーの調整

鏡面角度調整のしかた

電動格納式ドアミラー装着車

電動格納式ドアミラー装着車を除く

1 **メインスイッチの調整する側を押します。**

Ｒ…右側ドアミラー
Ｌ…左側ドアミラー

2 **角度を調整します。**

位置調整スイッチでドアミラーの角度を調整します。

3 **メインスイッチを中立にします。**

調整したあとは、メインスイッチを中立の位置にもどします。

知 識

作動条件について

エンジン スイッチが“ ＡＣＣ ”または“ ＯＮ ”のとき使用できます。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする 前に
運転をする ときに
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

格納のしかた

電動格納式ドアミラー装着車

	スイッチの状態	ミラーの状態
ＯＮ（格納）		
ＯＦＦ（復帰）		

格納スイッチを押すごとに、ＯＮ（格納）とＯＦＦ（復帰）に切りかわります。エンジン スイッチが“ ＬＯＣＫ ”のときは、手で格納・復帰することもできます。

電動格納式ドアミラー装着車を除く

ドアミラーを手で車両後方に倒して格納します。
走行前には“カチッ”と音がするところまで確実にもどします。

知 識

電動格納式ドアミラーの作動条件について

●エンジン スイッチが“ ＡＣＣ ”または“ ＯＮ ”のとき使用できます。
●ドアミラー格納作動中に、エンジン スイッチを“ ＬＯＣＫ ”にすると格納作動が停止します。
●手動で操作したあとにエンジン スイッチを“ ＡＣＣ ”または“ ＯＮ ”にすると、ドアミラーは格納スイッチの状態にもどります。
●格納スイッチがＯＦＦ（復帰）の状態で、手でドアミラーを前方に倒したときは、エンジン スイッチを“ ＡＣＣ ”または“ ＯＮ ”にしてもドアミラーは復帰しません。
一度格納スイッチをＯＮ（格納）にしてから、再度格納スイッチをＯＦＦにして復帰させてください。

走行中はドアミラーの調整をしないでください。

●走行中はドアミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●ドアミラーを倒したまま走行しないでください。ドアミラーによる後方確認ができず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

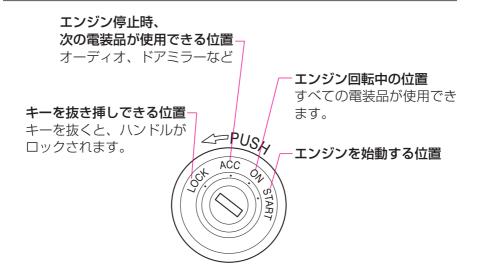
ドアミラーが動いているときは手などをふれたりしないでください。

手などを挟んでけがをしたり、ドアミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

4

運転をするときに

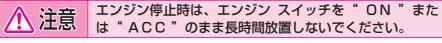
エンジンのかけ方

エンジン（イグニッション）スイッチの使い方

“ＬＯＣＫ”から“ＡＣＣ”にまわすとき

ハンドルロックがかかっていてキーがまわしにくいときは、ハンドルを軽く左右にまわしながらキーをまわします。

“ＡＣＣ”から“ＬＯＣＫ”にまわすとき

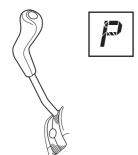
シフトレバーを🅟にしてから、キーを押しながらまわします。

注意 エンジン停止時は、エンジン スイッチを“ＯＮ”または“ＡＣＣ”のまま長時間放置しないでください。

バッテリーあがりの原因となります。

エンジン始動の手順

1 ペダルの位置を確認します。

正しい運転姿勢（➡162ページ参照）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

2 ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

3 シフトレバーの位置を確認します。

シフトレバーがⓅにあることを確認します。

●Ⓝでも始動できますが、安全のためⓅで行ってください。

4 エンジンを始動します。

エンジン スイッチを“ ON ”にし、アクセルペダルを踏まずにエンジン スイッチを“ START ”にまわします。

車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。

●車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。

●走行中はエンジンを停止しないでください。エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車を少し移動させるときでも、必ずエンジンを始動してください。エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

シフトレバーの使い方

Super ECT

シフトレバーの働き

駐車およびエンジン始動
駐車のときは必ずⓅにしてください。（Ⓟでのみエンジンスイッチからキーが抜けます）

後退
ギヤが後退に固定されます。
ブザーが鳴りⓇにあることを運転者に知らせます。

動力が伝わらない状態
Ⓝでもエンジンは始動できますが、安全のためⓅで行ってください。

通常走行（前進）
スピードに応じてギヤが自動的にかわります。
●オーバードライブがＯＮのときは、1速から4速まで
●オーバードライブがＯＦＦのときは、1速から3速まで

下り坂走行（前進）
エンジンブレーキが必要な場合に使います。

急な下り坂走行（前進）
強力なエンジンブレーキが必要な場合に使います。

シフトレバーの取り扱い

■**シフトレバーの操作**

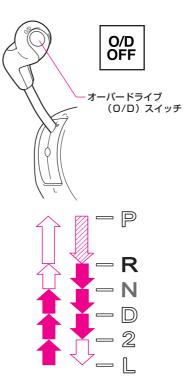
Ⓟと**Ⓓ**の間の操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトレバーを手前に引いて

⇧⇩ の矢印は、シフトレバーを手前に引いて操作します。

⇩ の矢印は、ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを手前に引いて操作します。

シフトレバーを手前に引かずに

⬆⬇ の矢印は、シフトレバーを手前に引かずに操作します。

■**オーバードライブ（O/D）スイッチの操作**

スイッチを押すごとに、ＯＦＦとＯＮに切りかわります。

●ＯＦＦのとき、メーター内のオーバードライブＯＦＦ表示灯（➲231ページ参照）が点灯します。

⬆⬇ の操作はシフトレバーを引かずに操作してください。

いつもシフトレバーを手前に引いて操作していると、意に反してⓅ、ⓇまたはⓁに入れてしまい、思わぬ事故の原因となり重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

知識

オーバードライブ（O/D）について

オーバードライブＯＦＦ表示灯が消灯しているとき（オーバードライブＯＮ）

通常走行に適します。

シフトレバーがⒹで走行中、4速（オーバードライブ）ギヤにまで入り、燃費性能と静粛性を高めます。

オーバードライブＯＦＦ表示灯が点灯しているとき（オーバードライブＯＦＦ）

4速（オーバードライブ）ギヤに入らなくなり、次のような効果があります。

●軽いエンジンブレーキが得られます。

●上り坂では変速回数の少ないなめらかな走行ができます。

オーバードライブの作動条件について

●エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき使用できます。

●エンジン始動時には、オーバードライブＯＮの状態になっています。

安全機能について

シフトロックシステム

オートマチック車でのシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

●ブレーキペダルを踏んだ状態でなければⓅからレバー操作できません。

・エンジン スイッチが“ ＬＯＣＫ ”のときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。

・シフトレバーを手前に引いたままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。

●Ⓟ以外ではエンジン スイッチからキーは抜けません。

・エンジン スイッチからキーを抜くときは、シフトレバーをⓅに入れてください。（Ⓟ以外ではキーを“ ＡＣＣ ”から“ ＬＯＣＫ ”にまわせません）

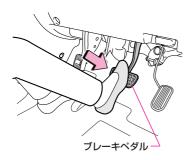
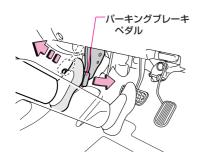
●Ⓡに入れるとブザーが鳴ります。

・ブザーが鳴り、シフトレバーがⓇにあることを運転者に知らせます。

・車外の人にはブザーは聞こえませんのでご注意ください。（車外の人に対する警告音ではありません）

オートマチック車の運転のしかた

発進のしかた

通常発進のしかた

1 ブレーキペダルを右足でしっかり踏んだまま、シフトレバーを**D**に入れます。

2 左足でパーキングブレーキを解除します。（➡220ページ参照）

3 ブレーキペダルを徐々にゆるめてから、右足でアクセルペダルをゆっくり踏み発進します。

目次
警告
基本操作早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

上り坂の発進のしかた

1 パーキングブレーキがしっかりかかっていることを確認してから、シフトレバーをⒹに入れます。

2 右足でアクセルペダルをゆっくり踏みます。

3 車が動き出す感触を確認してから、左足でパーキングブレーキを解除し、発進します。

警告　発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。

●発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
●運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●アクセルペダルを踏み込んだままでのシフトレバー操作は絶対に行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

走行のしかた

通常の走行

シフトレバーをⒹに入れたまま走行します。
●アクセルとブレーキの操作だけで、加速・減速します。

急加速するには

アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。キックダウンし、急加速します。

坂道で走行するときは

■上り坂
アクセルペダルを踏み込んでいくとキックダウンし、急にエンジン回転が上がることがあります。あらかじめシフトレバーを❷にしておくと、エンジン回転数の変化を抑えることができます。

■下り坂
フットブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。シフトレバーがⒹのままでスピードが出すぎるときは、坂道に応じて❷またはⓁに入れエンジンブレーキを併用します。
●オーバードライブをＯＦＦにすることによっても、軽いエンジンブレーキが得られます。

警告　**走行中はシフトレバーをⓃにしないでください。**

- 走行中はシフトレバーをⓃにしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 前進で走行中は、シフトレバーをⓇに入れないでください。車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。
- ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなどの思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 坂道などでは、シフトレバーをⒹ、❷またはⓁに入れたまま惰性で後退したり、Ⓡに入れたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

シフトレバーをⓃにしたままで走行しないでください。

トランスミッションの故障の原因となるおそれがあります。

停車・駐車のしかた

停車のしかた

1 車を止めます。シフトレバーは🅓のまま右足でブレーキペダルをしっかり踏みます。

エアコンは温度変化により断続的に作動します。作動中は自動的にアイドルアップし、クリープ現象が強くなりますので、車が動き出さないようにとくに注意してください。

2 必要に応じてパーキングブレーキをかけます。

上り坂での停車は、クリープ現象で前へ進もうとする力よりも、車が後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退するおそれがあります。
右足でブレーキペダルをしっかりと踏み、左足でしっかりとパーキングブレーキをかけてください。

3 長時間停車する場合は、シフトレバーを🅟または🅝に入れます。

駐車のしかた

1 車を完全に止めます。

2 パーキングブレーキをかけます。

右足でブレーキペダルをしっかりと踏んだまま、左足でパーキングブレーキをしっかりかけます。

3 シフトレバーを🅟に入れます。

車が動き出さないためにも、必ず🅟に入れてください。

4 エンジンを停止します。

車を離れるときは必ずエンジンを停止して、ドアを施錠してください。

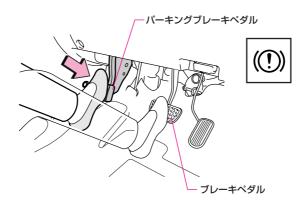
走行中はシフトレバーをⓅに入れないでください。

- 走行中はシフトレバーをⓅに入れないでください。オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 停車中の空ぶかしはしないでください。シフトレバーがⓅ、Ⓝ以外に入っていると車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

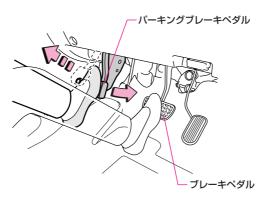
注意　車から離れるときは必ずエンジンを停止してドアを施錠してください。

- エンジンをかけたままにしておくと、万一、シフトレバーがⓅ以外に入っていたときに、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。
- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でⒹに入れたままアクセルペダルをふかしながら止まらないでください。オートマチックトランスミッションが過熱し、故障の原因になります。

パーキングブレーキペダルの使い方

パーキングブレーキペダルの取り扱い

パーキングブレーキをかけるときは

右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。
●エンジン スイッチが“ＯＮ”のときは、ブレーキ警告灯が点灯します。

パーキングブレーキを解除するときは

右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み込み、ゆっくり離します。
●ブレーキ警告灯が消灯したことを確認してください。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

⚠注意　パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

知識

かけなおすときは

パーキングブレーキをかけたあとかけなおす場合は、一度解除してから踏みなおしてください。

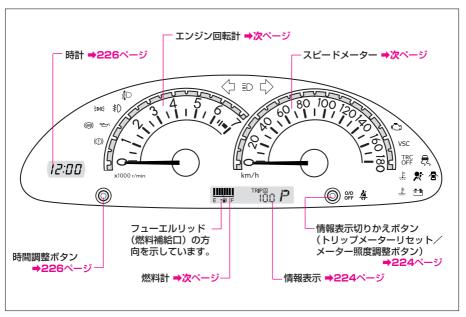
警告ブザーについて

パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約5km/h以上になると、警告ブザーが鳴ります。

冬期のパーキングブレーキの使用について

➡350ページの「駐車するときは」をお読みください。

メーター、表示灯、警告灯の見方

メーター

※図ではすべてのグレードにおける警告灯、表示灯を掲載しています。実際の車に設定される警告灯、表示灯はグレード等により異なります。

知 識

メーターについて

●エンジン スイッチを“ ON ”にしたときなどに、メーター内の指針がゼロ目盛り付近で短時間微動する場合がありますが異常ではありません。

●エンジン スイッチを“ ON ”から“ START ”にしたときなどに、エンジン回転計の指針がゼロ目盛りの位置にもどることがありますが異常ではありません。

燃料計

エンジン スイッチが“ ON ”のとき、燃料残量を示します。
燃料タンク容量は約45 L です。

知 識

燃料計について

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、いちばん左の燃料残量が早めに点滅することがあります。
- エンジン スイッチが“ ON ”のまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示できません。
- 燃料計にある ◀ 印はフューエルリッド（燃料補給口）が助手席側車両後方にあることを示しています。

スピードメーター

車両の走行速度を示します。

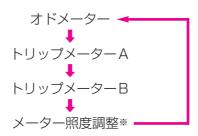
エンジン回転計

毎分のエンジン回転数を示します。

注意 **指針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないように運転してください。**

指針がレッドゾーンに入る運転を続けると、エンジンなどに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。

情報表示切りかえボタン（トリップメーターリセット／メーター照度調整ボタン）

切りかえボタンを押すごとに、情報表示が次のように切りかわります。

※ランプスイッチがＯＮのとき

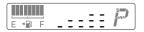
■オドメーター

走行した総距離をkmの単位で示します。

■トリップメーター

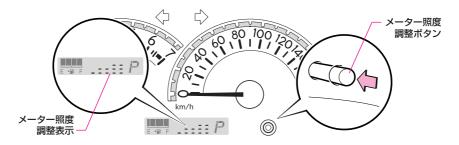
2種類の区間距離（トリップA、トリップB）をkmの単位で示します。

トリップメーターを0（ゼロ）にもどすときは
トリップメーターA、トリップメーターBのうち0にしたい方を表示させてから、リセットボタンを表示が0になるまで押し続けます。

●バッテリーとの接続が断たれたときは、トリップメーターは0になります。

■メーター照度調整

設定しているメーター照度レベルが表示されます。

●ランプスイッチがＯＮのとき表示されます。

■メーター照度調整のしかた

メーター照度調整表示のとき、メーター照度調整ボタンを押し続けると、メーター照度が順次切りかわります。希望の明るさになったら、ボタンから手を離します。

知 識

メーター照度調整について

●4段階に調整できます。
●メーター照度をレベル1にすると、ランプスイッチをＯＮにしてもメーター照度は減光されません。

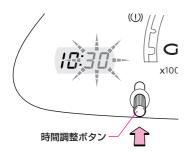
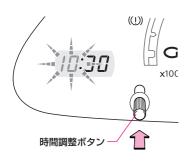
照度調整表示		照度レベル
明		レベル1
↑		レベル2
↓		レベル3
暗		レベル4

メーター照度調整表示について

次のような場合は、自動的にメーター照度調整表示からオドメーター表示に切りかわります。
●メーター照度調整表示に切りかえてから、約10秒以上ボタン操作しなかったとき
●エンジン スイッチを“ＡＣＣ”または“ＬＯＣＫ”にして再度“ＯＮ”にしたとき
●ランプスイッチをＯＦＦにしたとき

表示切りかえの作動条件について

メーター照度調整表示のとき使用できます。

時計

■時間調整

1 時間調整ボタンを約1秒間押します。

“分”表示が点滅し、時間調整画面に切りかわります。

2 “分”を設定します。

●時間調整ボタンを押すごとに、1分ずつ進みます。
●時間調整ボタンを押し続けると、早送りされます。

3 約5秒間放置すると、“時”表示が点滅し、“時”の時間調整画面に切りかわりますので、“時”を設定します。

●時間調整ボタンを押すごとに、1時間ずつ進みます。
●時間調整ボタンを押し続けると、早送りされます。

4 設定が終了したら、約5秒以上放置します。

現在時刻表示にもどります。

■時報に合わせるとき

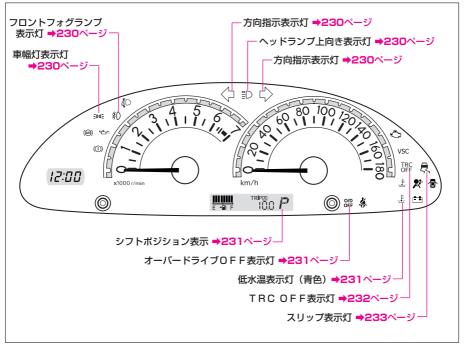
時報と同時にボタンを短く押すと、時報に合わせることができます。
●0 ～ 29分は切り下げられます。
●30 ～ 59分は切り上げられます。
（例）1：00～1：29の場合は1：00に、1：30～1：59の場合は2：00になります。

時計の表示について

秒表示はありませんが、ボタンを押したときは、0秒から作動を開始します。

作動条件について

エンジン スイッチが“ ON ”のとき表示されます。

表示灯

※図ではすべてのグレードにおける表示灯を掲載しています。実際の車に設定される表示灯はグレード等により異なります。

〈表示灯一覧表〉

表示灯	表示灯名	表示灯	表示灯名
	方向指示表示灯	O/D OFF	オーバードライブＯＦＦ表示灯
	ヘッドランプ上向き表示灯	P	シフトポジション表示
	車幅灯表示灯	TRC OFF	ＴＲＣ ＯＦＦ表示灯
	フロントフォグランプ表示灯		スリップ表示灯
	低水温表示灯（青色）		

方向指示表示灯

方向指示灯、非常点滅灯を作動させると点滅します。
（➡254、262ページ参照）

知識

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。
方向指示灯が点滅するか確認してください。

ヘッドランプ上向き表示灯

ヘッドランプを上向きにすると点灯します。
（➡251ページ参照）

車幅灯表示灯

車幅灯、尾灯、番号灯が点灯すると点灯します。
（➡250ページ参照）

フロントフォグランプ表示灯

フロントフォグランプ装着車

フロントフォグランプが点灯すると点灯します。
（➡253ページ参照）

低水温表示灯（青色）

エンジン冷却水の水温が低いと点灯します。

⚠注意
次のときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

暖機を十分続けていても、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーの異常が考えられます。**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

O/D
OFF

オーバードライブＯＦＦ表示灯

オーバードライブをＯＦＦにすると点灯します。
（➡212ページ参照）

シフトポジション表示

選択しているシフトポジションが表示されます。

TRC
OFF

ＴＲＣ ＯＦＦ表示灯

ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車

ＴＲＣ ＯＦＦスイッチ（➡261ページ参照）を押してＴＲＣを作動停止状態にすると点灯します。
また、ＶＳＣシステム、ＴＲＣシステムに異常があると点灯します。

⚠注意

表示灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- エンジン スイッチを“ＯＮ”にしても点灯しないとき
- エンジン スイッチを“ＯＮ”にして、ＴＲＣが通常走行モード（作動可能状態）で、点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき

表示灯について

エンジン スイッチを“ＯＮ”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

スリップ表示灯

VSC & TRC装着車

ＶＳＣシステムまたはＴＲＣシステムが作動したときに点滅します。(336ページ参照)
また、車両が横すべりしそうになったときに点滅します。

■ＶＳＣ作動警告ブザー
車両が横すべりしそうになったときに、断続音が鳴ります。
●運転状況によっては、スリップ表示灯の点滅のみで警告する場合があります。

次のときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にしても点灯しないときは、システムの異常が考えられますので、**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

表示灯について

エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

警告灯

ブレーキ警告灯 ➡242ページ

ＡＢＳ ＆ ブレーキアシスト警告灯 ➡236ページ

ＡＢＳ警告灯 ➡237ページ

油圧警告灯 ➡246ページ

ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯 ➡241ページ

ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯 ➡240ページ

高水温警告灯（赤色）➡245ページ

ＶＳＣ警告灯 ➡238ページ

エンジン警告灯 ➡239ページ

12:00

x1000 r/min

km/h

ODO 10000 P

E F

VSC

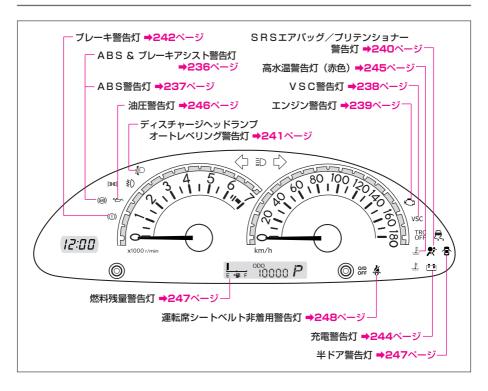
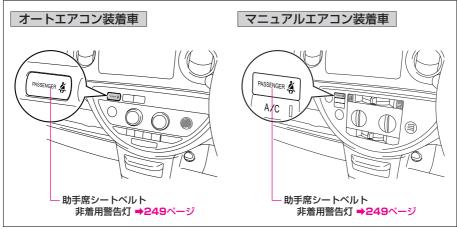
TRC OFF

O/D OFF

燃料残量警告灯 ➡247ページ

運転席シートベルト非着用警告灯 ➡248ページ

充電警告灯 ➡244ページ

半ドア警告灯 ➡247ページ

※図ではすべてのグレードにおける警告灯を掲載しています。実際の車に設定される警告灯はグレード等により異なります。

〈警告灯一覧表〉

警告灯	警告灯名	警告灯	警告灯名
(ABS)	ＡＢＳ ＆ ブレーキアシスト警告灯		充電警告灯
(ABS)	ＡＢＳ警告灯		高水温警告灯（赤色）
VSC	ＶＳＣ警告灯		油圧警告灯
	エンジン警告灯	E F	燃料残量警告灯
	ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯		半ドア警告灯
	ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯		運転席シートベルト非着用警告灯
(!)	ブレーキ警告灯	PASSENGER	助手席シートベルト非着用警告灯

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ＡＢＳ ＆ ブレーキアシスト警告灯

ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車

ＡＢＳまたはブレーキアシストシステム（➡328ページ参照）に異常があると点灯します。

●警告灯が点灯しているときは、下記のシステムは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。
- ・ＡＢＳ
- ・ブレーキアシスト
- ・ＶＳＣ
- ・ＴＲＣ

●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳが作動しないため、急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時には、タイヤがロックすることがあります。

注意

ブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときはただちに停車してください。

●警告灯がブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、**トヨタ販売店**にご連絡ください。
この場合、ＡＢＳまたはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、**トヨタ販売店**で点検を受けてください。
- ・エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にしても点灯しないとき
- ・エンジン スイッチが“ ＯＮ ”で点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき

なお、走行中に点灯しても、その後消灯し、再度点灯しなければ異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

警告灯について

エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

販売店　**次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

ＡＢＳ警告灯

ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車を除く

ＡＢＳ（➡328ページ参照）に異常があると点灯します。

●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。

●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳが作動しないため、急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時には、タイヤがロックすることがあります。

注意　ブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときはただちに停車してください。

●警告灯がブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、**トヨタ販売店**にご連絡ください。
この場合、ＡＢＳに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、**トヨタ販売店**で点検を受けてください。
・エンジン スイッチを“ＯＮ”にしても点灯しないとき
・エンジン スイッチが“ＯＮ”で点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき
なお、走行中に点灯しても、その後消灯し、再度点灯しなければ異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

知 識

警告灯について

エンジン スイッチを“ＯＮ”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

VSC

ＶＳＣ警告灯

ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車

ＶＳＣシステム、ＴＲＣシステム、またはＥＦＩシステムに異常があると点灯します。

●警告灯が点灯しているときは、下記のシステムは作動しませんが、通常の走行には支障ありません。
- ・ＶＳＣ
- ・ＴＲＣ

注意

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●エンジン スイッチを“ＯＮ”にしても点灯しないとき
●エンジン スイッチが“ＯＮ”で点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき

知 識

警告灯について

エンジン スイッチを“ＯＮ”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジン警告灯

エンジン回転中、エンジン電子制御システム、オートマチックトランスミッション電子制御システムに異常があると点灯します。

注意

次のときはただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジン回転中に点灯したときは、ただちに**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

知識

警告灯について

エンジン スイッチを“ ON ”にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯

ＳＲＳエアバッグシステム（➡316ページ参照）またはプリテンショナー付シートベルトシステム（➡326ページ参照）に異常があると点灯・点滅します。

注意

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

衝突したときなどにＳＲＳエアバッグ、またはプリテンショナー付シートベルトが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

- エンジン スイッチを“ＯＮ”にしても点灯しないとき、または点灯・点滅したままのとき
- 走行中に点灯・点滅したとき

知識

警告灯について

エンジン スイッチを“ＯＮ”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯

ディスチャージヘッドランプ装着車

ディスチャージヘッドランプ（➡339ページ参照）のオートレベリング（上下照射方向自動調整）システムに異常があると点灯します。

注意

走行中に警告灯が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、いったんエンジンを停止してください。

再度エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にしたとき、警告灯が数秒点灯したあとに消灯すればそのまま使用できます。
消灯しないときまたは再び点灯するときは、ただちに **トヨタ販売店**で点検を受けてください。

知 識

警告灯について

エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

ブレーキ警告灯

エンジン スイッチが“ＯＮ”で次のときに点灯します。

●パーキングブレーキをかけたままのとき
・パーキングブレーキが解除されていても、エンジン スイッチを“ＯＮ”にすると数秒間点灯します。

●ブレーキ液が不足しているとき

■**ブレーキ警告ブザー**

パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約5km/h以上になると、警告ブザーが鳴ります。

警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。

●エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき
この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときはブレーキペダルを強く踏んでください。

●警告灯がＡＢＳ ＆ ブレーキアシスト警告灯または、ＡＢＳ警告灯と同時に点灯したままのとき
この場合、ＡＢＳまたはブレーキアシスト（ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車）に異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

注意

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- ●エンジン スイッチが“ ON ”でパーキングブレーキをかけても点灯しないとき
- ●パーキングブレーキが解除された状態でエンジン スイッチを“ ON ”にしても点灯しないとき
  なお、走行中に点灯しても、その後消灯し、再度点灯しなければ異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、**トヨタ販売店**で点検を受けてください。
- ●パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、警告ブザーが鳴ったときは、すみやかに停車し、パーキングブレーキを解除してください。パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

充電警告灯

エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。

⚠注意　次のときは、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

エンジン回転中に点灯したときは、Vリブドベルトの切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、**トヨタ販売店**へご連絡ください。

知識

エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

販売店

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

高水温警告灯（赤色）

エンジン回転中、エンジン冷却水温が異常に高くなったとき点滅します。

注意

警告灯が点滅したときは、オーバーヒートのおそれがあります。

ただちに安全な場所に停車し、➡432ページの「オーバーヒートしたときは」に従って処置を行い、 **トヨタ販売店**へご連絡ください。

知 識

警告灯について

エンジン スイッチを “ ＯＮ ” にすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力に異常があると点灯します。
「油圧警告灯」はオイル量を示すものではありません。オイル量の点検はオイルレベルゲージにより行ってください。
（点検方法はメンテナンスノートをお読みください）

注意

エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止してエンジンオイル量を点検してください。

点灯したまま走行し続けるとエンジンを損傷するおそれがあります。
エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときやエンジンオイルを補給しても点灯するときは、**トヨタ販売店**へご連絡ください。

知 識

警告灯について

エンジン スイッチを “ ＯＮ ” にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

目次
警告
基本操作早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

次の警告灯が点灯または点滅したときは、すみやかに対処してください。

燃料残量警告灯

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき、残量が約6.8Ｌ以下になると点滅します。点滅したときは、すみやかに燃料を補給してください。

●坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点滅することがあります。

半ドア警告灯

いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていないときに点灯します。

警告

警告灯が点灯したまま走行しないでください。

ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

次の警告灯が点灯または点滅したときは、すみやかに対処してください。

運転席シートベルト非着用警告灯

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき、運転席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

■シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約25km/h以上になると、断続音が約120秒間鳴ります。

（ブザーが鳴りはじめてから、約30秒後に断続音の速さがかわります）

●シートベルトを着用すると消音します。

次の警告灯が点灯または点滅したときは、すみやかに対処してください。

助手席シートベルト非着用警告灯

エンジン スイッチが " ON " で、かつ助手席シート座面の乗員検知センサーが乗員を検知したときに、助手席シートベルトを着用していないと点滅します。
ただちにシートベルトを着用してください。

■シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約25km/h以上になると、断続音が約120秒間鳴ります。
(ブザーが鳴りはじめてから、約30秒後に断続音の速さがかわります)

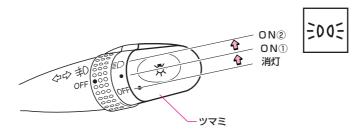
- シートベルトを着用すると消音します。

知 識

警告灯について

- センサーは、助手席シート座面（うしろ半分）に、ある一定以上の重量がかかったとき検知します。従って、荷物などを置いた場合にも検知することがあります。
- 助手席シート座面上にクッション（座布団）などを敷くと、重量が分散され、センサーが乗員を検知しない場合があります。

ランプの使い方

ランプの点灯・消灯

ツマミの位置	点灯するランプ
ON①（点灯）	車幅灯・尾灯・番号灯・各スイッチ照明
ON②（点灯）	①のランプ+ヘッドランプ

ツマミをON①、ON②にまわすと点灯します。
●車幅灯が点灯すると、メーター内の車幅灯表示灯（➡230ページ参照）が点灯します。

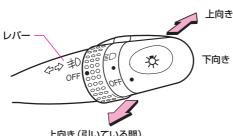
知識

作動条件について

エンジン スイッチに関係なく使用できます。

便利機能について

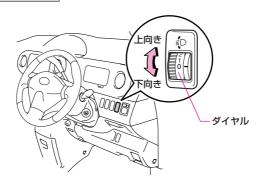
ランプ消し忘れ警告ブザー
ランプが点灯しているとき、エンジン スイッチからキーを抜いて運転席ドアを開くと、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが“ピー”と鳴ります。

前方を遠くまで照らしたいときは

●ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前方に押すと、ヘッドランプが上向きになります。
●ヘッドランプが消灯していてもレバーを手前に引いている間、ヘッドランプが上向きになります。
●ヘッドランプが上向きのときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯（➡230ページ参照）が点灯します。

⚠注意　完全に充電されたバッテリーでも、エンジンを停止した状態で長時間ランプ類を点灯させないでください。

バッテリーあがりの原因となります。

ハロゲンヘッドランプの光軸上下調整のしかた

ハロゲンヘッドランプ装着車

ダイヤルをまわすと、ヘッドランプの光軸（光の照らす方向）を下向きに調整できます。
通常は0（ゼロ）の位置（光軸がいちばん上向きの位置）で使用します。

知 識

作動条件について

ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

光軸上下調整について

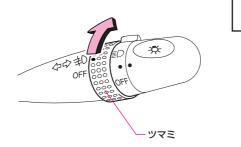
●人や荷物をのせることにより車両前面が上を向いて、ヘッドランプの照らす範囲がいつもより上向きになっているときに、ダイヤルをまわしてヘッドランプの光軸を下向きにします。
人や荷物を降ろしたあとには、必ずダイヤルを0（ゼロ）の位置にもどしておいてください。
●乗員数やラゲージルームの積載状況に応じて、下記の表を目安にダイヤル位置を調整してください。

ダイヤル位置の目安

乗車やラゲージルームの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席と助手席乗車時	1
5名乗車時	3
5名乗車時でかつラゲージルーム満載時	4
運転席のみ乗車時でかつラゲージルーム満載時	5

●車検などで光軸調整をするときは、ヘッドランプレベリング調整ダイヤルを0（ゼロ）の位置（いちばん上向きの位置）にしてから行ってください。

フロントフォグランプの使い方

フロントフォグランプ装着車

ツマミを にまわすと点灯し、ＯＦＦにまわすと消灯します。

●フロントフォグランプが点灯すると、メーター内のフロントフォグランプ表示灯（➲230ページ参照）が点灯します。

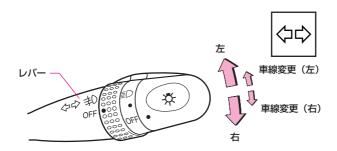
知 識

フロントフォグランプについて

雨や霧などで視界が悪いときに、ヘッドランプの補助として使用します。

作動条件について

車幅灯が点灯しているとき使用できます。

方向指示レバーの使い方

●レバーを上または下へ操作すると、左または右側の方向指示灯が点滅します。メーター内にある方向指示表示灯（➡230ページ参照）も点滅します。
レバーはハンドルをもどすと自動的にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。

●車線変更のときには、レバーを軽く上または下へ押さえている間、それぞれの方向指示灯および方向指示表示灯（➡230ページ参照）が点滅し、手を離すと消灯します。

知識

作動条件について

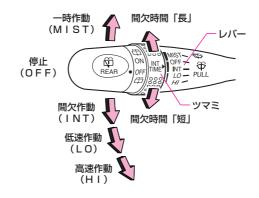
エンジン スイッチが“ＯＮ”のとき使用できます。

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

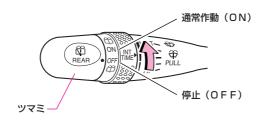
ワイパー ＆ ウォッシャーの使い方

ワイパーの動かし方

■フロント

レバーを操作すると、上図のように作動します。

●間欠作動（ＩＮＴ）のときツマミをまわすと、間欠時間を約3～12秒の間で調整できます。

●一時作動（ＭＩＳＴ）は、レバーをＯＦＦから押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すとＯＦＦにもどります。

■リヤ

ツマミをまわすと、上図のように作動します。

注意 ワイパーゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。

●ウインドゥガラスが凍結しているときや長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。ガラスに張り付いたまま作動させると、ワイパーゴムを損傷するおそれがあります。
●積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチをＯＦＦ、エンジン スイッチを“ ＡＣＣ ”または“ ＬＯＣＫ ”にし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。

知 識

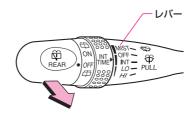
作動条件について

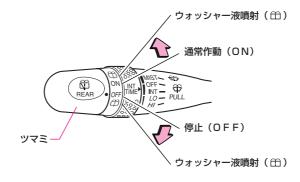
エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき使用できます。

保護機能について

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。10分ほどすると、ブレーカーが復帰して通常どおり使用できるようになります。

ウォッシャー液の噴射のしかた

■フロント

レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射されます。
●ウォッシャー液噴射後、ワイパーが数回作動します。

■リヤ

●作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、ツマミをＯＮの位置から上の側にまわします。
●ツマミをＯＦＦの位置から下の側にまわすと、ウォッシャー液が噴射されます。

警告　寒冷時はウインドゥガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。

寒冷時はウインドゥガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。
ウォッシャー液がウインドゥガラスに凍り付き、視界不良を起こすおそれがあり危険です。

注意　必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。

- 必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。ガラスが乾いているときにワイパーを作動させると、ガラスを傷付けるおそれがあります。
- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。
また、ノズルがつまって噴射状態が悪い場合は、**トヨタ販売店**にご相談ください。

知識

作動条件について

エンジン スイッチが“ＯＮ”のとき使用できます。

ガラスに付いた油膜について

油膜があると、雨の夜は対向車のランプなどが乱反射します。ガラスクリーナーを使って、ガラスの表面をきれいにしてください。

ウォッシャー液の補給について

ウォッシャー液の補給については、➡393ページを参照してください。

フロントワイパーデアイサーの使い方

寒冷地仕様車

スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。
●作動中は作動表示灯が点灯します。

作動中はフロントウインドゥガラス下部および運転席側フロントピラー部の表面が熱くなりますので、手でふれないでください。

やけどをするおそれがあり危険です。

連続して長時間使用しないでください。

バッテリーあがりの原因となります。

フロントワイパーデアイサーについて

フロントウインドゥガラス下部、および運転席側フロントピラー部の表面を暖めてガラスとワイパーブレードの凍結を防止します。

作動条件について

エンジン スイッチが“ＯＮ”のとき使用できます。

リヤウインドゥデフォッガー(曇り取り)の使い方

オートエアコン装着車

マニュアルエアコン装着車

オートエアコン装着車、マニュアルエアコン装着車（寒冷地仕様車）

スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。

●作動中は作動表示灯が点灯します。

マニュアルエアコン装着車（寒冷地仕様車を除く）

スイッチを押すと作動し、作動中にもう一度押すと停止します。

●作動中は作動表示灯が点灯します。

●リヤウインドゥガラスの曇りが取れたら、必ず停止させてください。

連続して長時間使用しないでください。

バッテリーあがりの原因となります。

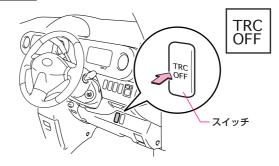
リヤウインドゥデフォッガーについて

リヤウインドゥガラスを熱線で暖めて曇りを取ります。

作動条件について

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき使用できます。

ＴＲＣ ＯＦＦスイッチの使い方

ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車

スイッチを押すとＴＲＣの作動が停止し、停止中にもう一度押すと作動可能状態にもどります。

●停止中は、メーター内にあるＴＲＣ ＯＦＦ表示灯（➡232ページ参照）が点灯します。

知 識

ＴＲＣについて

ＴＲＣは、すべりやすい路面での発進や加速時に生じる駆動輪の空転を抑制し、車両の安定性と駆動力を確保しようとする装置です。（作動については、➡337ページ参照）
しかし、ぬかるみや新雪などから脱出するときにＴＲＣが作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。
このようなときに、ＴＲＣ ＯＦＦスイッチにより、ＴＲＣの作動を停止することができます。

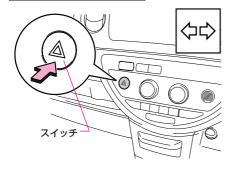
作動条件について

エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にすると、ＴＲＣ作動可能状態になります。

ＴＲＣの自動復帰について

ＴＲＣ ＯＦＦスイッチでＴＲＣの作動を停止したあと、エンジン スイッチを“ ＡＣＣ ”または“ ＬＯＣＫ ”にすると、自動的にＴＲＣ作動可能状態にもどります。

非常点滅灯の使い方

オートエアコン装着車

マニュアルエアコン装着車

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

●メーター内にある方向指示表示灯も点滅します。(➡230ページ参照)

エンジンが停止しているときに長時間使用しないでください。

バッテリーあがりの原因となります。

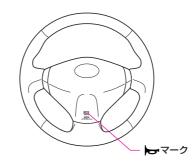
 知 識

非常点滅灯について

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

作動条件について

エンジン スイッチに関係なく使用できます。

ホーンの使い方

ハンドルの マーク周辺部を押すとホーン（警音器）が鳴ります。

注意　ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

ホーンが鳴らない場合があります。ハンドルの固定方法については、➡200ページの「ハンドルの調整」を参照してください。

知 識

作動条件について

エンジン スイッチに関係なく使用できます。

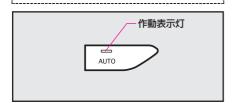
5 室内装備の取り扱い

エアコンの取り扱い

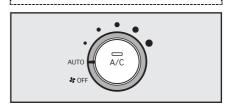
オートエアコンの使い方★

オート（ＡＵＴＯ）での使い方

吹き出し口、風量が自動的に調整され設定温度となります。

吹き出し口を自動調整にする

吹き出し口ＡＵＴＯスイッチを押します。

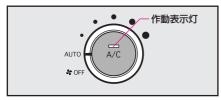
●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。

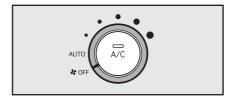
風量を自動調整にする

ファン調整ダイヤルをＡＵＴＯの位置にします。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

温度を調整する

温度調整ダイヤルで調整します。
温度を上げるときは右側、下げるときは左側にまわします。

エアコンをＯＮにする

エアコンスイッチを押します。
●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。
●外気温が0℃近くまで下がると、エアコンは作動しません。

ファンを止める

ファン調整ダイヤルをＯＦＦの位置にします。

エンジン停止中に作動させないでください。

バッテリーあがりの原因となります。

車内の温度が高いときは

駐車のあと車内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

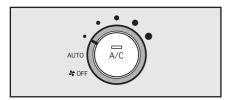
吹き出し口ＡＵＴＯスイッチについて

吹き出し口ＡＵＴＯスイッチがＯＮのとき、吹き出し口切りかえスイッチを操作すると、吹き出し口ＡＵＴＯスイッチはＯＦＦになります。

エアコンの臭いについて

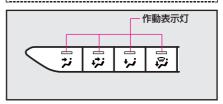
●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

お好みの状態にするには

各ダイヤルまたはスイッチを操作することで、それぞれの設定で使用することができます。

風量を切りかえる

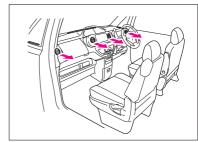
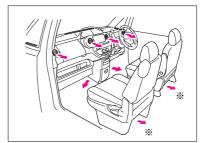
ファン調整ダイヤルで風量を設定します。
風量を5段階に切りかえることができます。
風量を強くするときは右側、弱くするときは左側にまわします。

●ＯＦＦの位置にするとファンが停止します。

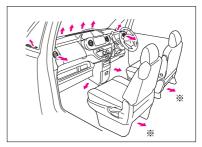
吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチで吹き出し口を選択します。
（➡次ページ参照）

●選択したスイッチの作動表示灯が点灯します。

<吹き出し口選択の目安>

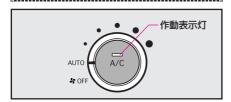
上半身に送風するときは

上半身と足元に送風するときは

足元に送風するときは

足元への送風とガラスの曇りを取るときは

※は寒冷地仕様車のみ送風されます。

温度を調整する

温度調整ダイヤルで調整します。温度を上げるときは右側、下げるときは左側にまわします。

エアコンをONにする

ファンが作動中のとき、エアコンスイッチを押すごとに、エアコン(冷房、除湿機能)がONとOFFに切りかわります。

●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。
●外気温が0℃近くまで下がると、エアコンは作動しません。

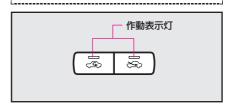
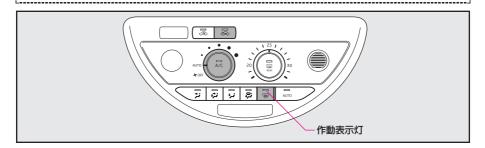
外気導入・内気循環の切りかえをする

● (外気導入)スイッチを押すと、外気導入になります。
● (内気循環)スイッチを押すと、内気循環になります。
●選択したスイッチの作動表示灯が点灯します。

表　示	モード
(外気導入表示)	**外気導入** 外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。
(内気循環表示)	**内気循環** 外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときにお使いください。

ガラスの曇りを取る

1 **ファンを作動させます。**

2 **フロントデフロスタースイッチを押します。**

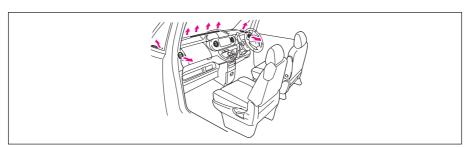
作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。

3 **エアコンが作動していないときはエアコンスイッチを押します。**

作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。

4 **スイッチを押して外気導入にします。**

スイッチの作動表示灯が点灯します。

<吹き出し口>

⚠警告　湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。

外気とウインドゥの温度差でウインドゥ外側表面が曇り、視界をさまたげる場合があります。

エンジン停止中に作動させないでください。

バッテリーあがりの原因となります。

知 識

内外気切りかえについて

- トンネル内や渋滞などで汚れた外気を車内に入れたくないときや、早く冷暖房をしたいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときに、（内気循環）スイッチをＯＮにすると効果的です。
- 長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

内外気2層制御について

寒冷地仕様車は、吹き出し口切りかえスイッチが または のとき、温度調整ダイヤルをいちばん右（高温側最大）にまわし、（外気導入）スイッチをＯＮにすると、室内上層が外気導入、室内下層が内気循環になり、内気循環時と同じくらいの暖房性能を維持しながら、ガラスの曇りを防止します。

便利機能について

ファン調整ダイヤル、および吹き出し口がＡＵＴＯのとき、次のような機能があります。

- 吹き出し口が 、 または のとき、冬場などの寒いときには温風の準備ができるまで、しばらくの間ファンを停止します。
- 吹き出し口が または のとき、夏場などの暑いときには冷風の準備ができるまで、数秒間ファンが“弱”で作動します。

吹き出し口について

車室温、外気温度、または日射などの条件により吹き出し口切りかえスイッチが 、 およびフロントデフロスタースイッチがＯＮのとき、中央吹き出し口からも送風される場合があります。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

知 識

より早くガラスの曇りを取るには

ガラスの曇りを取る（➡272ページ参照）操作と併せて、次の操作を行います。
●風量を増す（ファン調整ダイヤルを操作する）
●設定温度を上げる（温度調整ダイヤルを操作する）

フロントデフロスタースイッチについて

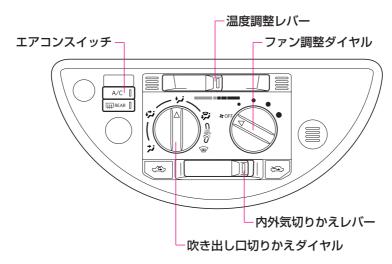
内気循環モードでファンが作動中のとき、フロントデフロスタースイッチを押すと、エアコンが自動的にＯＮになります。

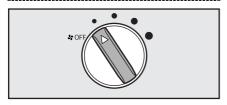
車内温度が高いときは

駐車のあと車内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃してからエアコンを作動させてください。

エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

マニュアルエアコンの使い方★

お好みの状態にするには

各ダイヤル、スイッチ、またはレバーを操作することで、それぞれの設定で使用することができます。

風量を切りかえる

ファン調整ダイヤルで風量を設定します。

風量を4段階に切りかえることができます。

風量を強くするときは右側、弱くするときは左側にまわします。

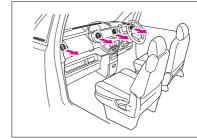
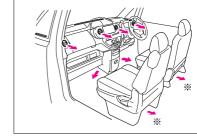
●ＯＦＦの位置にするとファンが停止します。

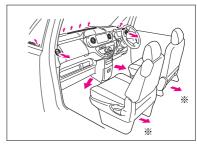
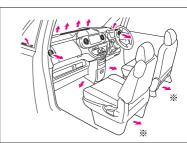
吹き出し口を切りかえる

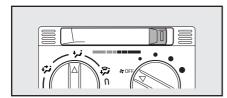
吹き出し口切りかえダイヤルで吹き出し口を選択します。

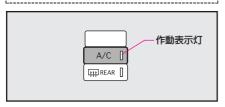
(➡次ページ参照)

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

<吹き出し口選択の目安>

上半身に送風するときは

上半身と足元に送風するときは

足元に送風するときは

足元への送風とガラスの曇りを取るときは

※は寒冷地仕様車のみ送風されます。

温度を調整する

温度調整レバーで調整します。
温度を上げるときは右側、下げるときは左側に動かします。

エアコンをＯＮにする

ファンが作動中のとき、エアコンスイッチを押すごとに、エアコン（冷房、除湿機能）がＯＮとＯＦＦに切りかわります。

- ●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。
- ●外気温が0℃近くまで下がると、エアコンは作動しません。

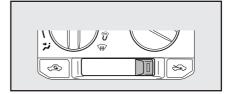
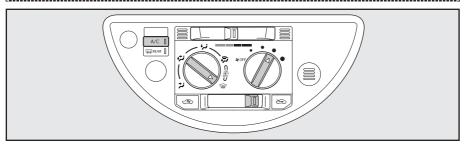
外気導入・内気循環の切りかえをする

内外気切りかえレバーで外気導入と内気循環を切りかえます。

表　示	モード
	外気導入 外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。
	内気循環 外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときにお使いください。

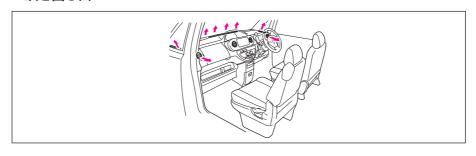
ガラスの曇りを取る

1 ファンを作動させます。

2 吹き出し口切りかえダイヤルを の位置にします。

3 エアコンが作動していないときはエアコンスイッチを押します。

作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。

4 内外気切りかえレバーを （外気導入）側にします。

<吹き出し口>

湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、吹き出し口切りかえダイヤルを （曇り取り）の位置にしないでください。

外気とウインドゥの温度差でウインドゥ外側表面が曇り視界をさまたげる場合があります。

エンジン停止中に作動させないでください。

バッテリーあがりの原因となります。

内外気切りかえについて

●トンネル内や渋滞などで汚れた外気を車内に入れたくないときや、早く冷暖房をしたいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときに、内外気切りかえレバーを （内気循環）側にすると効果的です。

●長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

内外気2層制御について

寒冷地仕様車は、吹き出し口切りかえダイヤルが または のとき、温度調整レバーをいちばん右（高温側に最大）にして、内外気切りかえレバーを （外気導入）側にすると、室内上層が外気導入、室内下層が内気循環になり、内気循環時と同じくらいの暖房性能を維持しながら、ガラスの曇りを防止します。

吹き出し口について

●吹き出し口切りかえダイヤルを の位置にし、温度調整レバーを中間位置で使用すれば、暖められた風が足元から、比較的温度の低い風が中央および運転席側、助手席側吹き出し口から送風されます。

●吹き出し口切りかえダイヤルが 、 または の位置のとき、温度調整レバーをいちばん左（低温側に最大）およびその近くまで操作すると、中央吹き出し口からも送風されます。

知識

より早くガラスの曇りを取るには

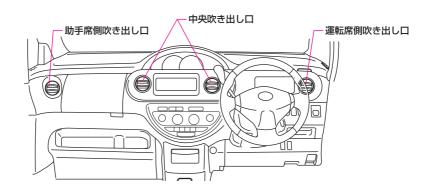
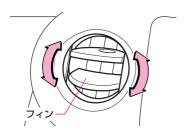
ガラスの曇りを取る（➡279ページ参照）操作と併せて、次の操作を行います。
- ●風量を増す（ファン調整ダイヤルを操作する）
- ●設定温度を上げる（温度調整レバーを操作する）

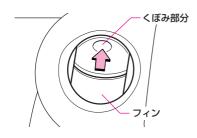
車内の温度が高いときは

駐車のあと車内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

エアコンの臭いについて

- ●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- ●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

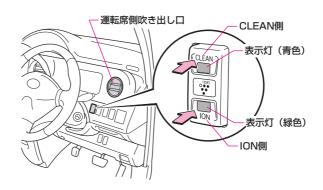
吹き出し口の調整

吹き出し口の調整のしかた

吹き出し口のフィンを動かして、お好みの風向きに調整します。

吹き出し口の開閉のしかた

●開けるときはフィンのくぼみ部分を押します。
●閉めるときはフィンを押し下げます。

知識

吹き出し口について

冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

プラズマクラスター® の使い方★

スイッチを押すと、下表のように作動します。

モード	スイッチ	表示灯	作動
クリーンモード		青色	同量のプラスイオンとマイナスイオンを放出して、車内に浮遊するカビ菌の活動を抑制します。
ＯＦＦ		消灯	作動停止。
イオンコントロールモード		緑色	マイナスイオンの比率を高く放出して空気中のイオンバランスを整えます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

警告　プラズマクラスターイオン発生器は高電圧を利用しています。

危険ですので、修理等は必ず **トヨタ販売店**にご相談ください。

注意　プラズマクラスターの取り扱いについては、次の点にご注意ください。

●プラズマクラスターイオンの吹き出し口（運転席側吹き出し口）には、スプレー（洗浄剤、整髪料など）の噴霧、また棒などの異物を挿入しないでください。故障の原因となります。
●運転席側吹き出し口付近に汚れが付着することがあります。この場合は、プラズマクラスターをＯＦＦにして清掃してください。

知 識

作動条件について

ファンが作動中（➡269ページ参照）のとき下記の条件で効果を発揮します。
●吹き出し口切りかえスイッチが、　または　のとき
（　、　以外のときも風は出ますが、高い効果は得られません）
●運転席側吹き出し口が開いているとき

プラズマクラスターについて

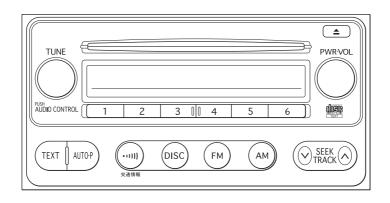
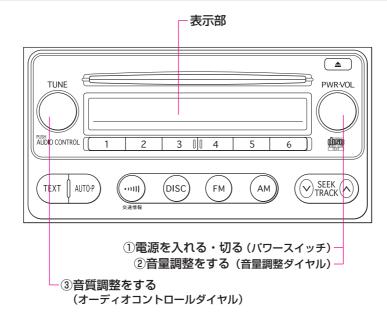
●エアコンの吹き出し口（運転席側吹き出し口）からの送風にプラズマクラスターイオンを含ませ、車内の空気質を整えます。
●プラズマクラスター、プラズマクラスターイオンおよび Plasmacluster はシャープ株式会社の商標です。

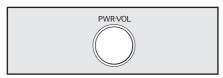
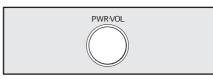
作動音について

プラズマクラスターイオン発生器作動時には、微少な作動音が発生する場合がありますが、これはプラズマクラスターイオン生成時に電子が電極に衝突する際に発生するもので、故障ではありません。

オーディオの取り扱い

ＣＤ一体ＡＭ／ＦＭラジオ ★

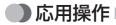
★印はグレード等により装着の有無が異なります。

電源、音量・音質調整

基本操作

①電源を入れる・切る

パワースイッチを押すごとに、入・切になります。

②音量調整をする

音量調整ダイヤルを右へまわすと音量が大きくなり、左へまわすと小さくなります。

知識

作動条件について

エンジン スイッチが“ＡＣＣ”または“ＯＮ”のとき使用できます。

③音質調整をする

■モードの切りかえ方

オーディオコントロールダイヤルを押すごとに、ＢＡＳ・ＴＲＥ・ＦＡＤ・ＢＡＬの順にモードが切りかわります。

●選択したモードが表示部に表示されます。

■レベル調整のしかた

オーディオコントロールダイヤルで選択したモードのレベル調整をすることができます。

オーディオコントロールダイヤルをまわして調整します。

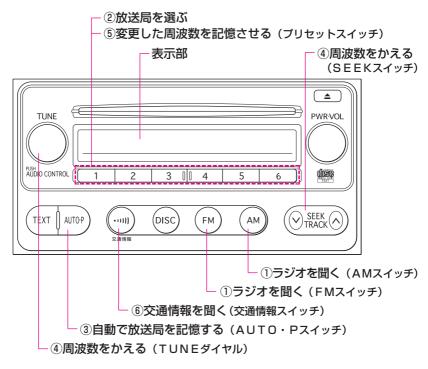
●調整レベルがモード表示の右側に表示されます。

調整モード	モード表示	調整レベル範囲	左へまわす	右へまわす
低音	ＢＡＳ	−５ ～ ５	弱	強
高音	ＴＲＥ	−５ ～ ５	弱	強
前後音量バランス	ＦＡＤ	Ｒ７ ～ Ｆ７	後側大	前側大
左右音量バランス	ＢＡＬ	Ｌ７ ～ Ｒ７	左側大	右側大

ラジオの使い方

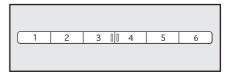
②放送局を選ぶ
⑤変更した周波数を記憶させる（プリセットスイッチ）
表示部
④周波数をかえる（ＳＥＥＫスイッチ）

TUNE
PWR·VOL
PUSH AUDIO CONTROL
1 2 3 4 5 6
TEXT AUTO·P 交通情報 DISC FM AM SEEK TRACK

①ラジオを聞く（ＡＭスイッチ）
①ラジオを聞く（ＦＭスイッチ）
⑥交通情報を聞く（交通情報スイッチ）
③自動で放送局を記憶する（ＡＵＴＯ・Ｐスイッチ）
④周波数をかえる（ＴＵＮＥダイヤル）

基本操作

①ラジオを聞く

ＡＭ放送を受信したいときは、ＡＭスイッチ、ＦＭ放送を受信したいときは、ＦＭスイッチを押します。

②放送局を選ぶ

1～6までのプリセットスイッチのひとつを押します。記憶されている放送局が選択されます。
放送局の記憶のしかたについては、➡291、292ページを参照してください。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

応用操作

③自動で放送局を記憶する

自動で受信可能な周波数を一時的にプリセットスイッチに記憶させることができます。
旅先などで放送局の周波数がわからないときに便利です。
ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、受信感度の良い周波数を低い順に6局まで自動的に記憶します。
●表示部に「**ＡＵＴＯ・Ｐ**」の表示が出ます。
●受信周波数が6局未満のときは、残りのプリセットスイッチには何も記憶されません。
●周波数の記憶操作が終了すると、“ピピッ”と音がして記憶した中でいちばん低い周波数を受信します。
●ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを押すたびに、新たに周波数を記憶しなおします。
●自動で周波数を記憶させても、ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを押す前（「**ＡＵＴＯ・Ｐ**」の表示が出ていないとき）に記憶させた周波数は消去されません。

■ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを押す前の状態にしたいときは
ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを押して、すぐ手を離します。
●表示部の「**ＡＵＴＯ・Ｐ**」の表示が消え、以前に記憶させた周波数になります。

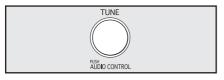
■ＡＵＴＯ・Ｐスイッチで記憶させた周波数を変更するには

1 **ＳＥＥＫスイッチ、またはＴＵＮＥダイヤルで記憶させたい周波数を選択します。**

2 **変更したい周波数が記憶されているプリセットスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けます。**

④周波数をかえる

周波数はＳＥＥＫスイッチを押すと、自動で受信可能な周波数を選択できます。

●高い方へ選択するときは∧側、低い方へ選択するときは∨側を押します。
- 受信感度が良く、現在表示部に表示されている周波数にいちばん近い周波数を自動で選択します。
- 途中で止めたいときは、もう一度ＳＥＥＫスイッチを押します。
- 地域や車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感度が悪い場合、自動で選択できないことがあります。

周波数はＴＵＮＥダイヤルをまわすと微調整することができます。

●高い方へ選択するときは右側、低い方へ選択するときは左側にまわします。

⑤変更した周波数を記憶させる

記憶させたいプリセットスイッチのひとつを“ピッ”と音がするまで押し続けると、聞いている周波数を記憶させることができます。

●ＡＭ・ＦＭ各6局まで周波数を記憶させることができます。
ひとつのプリセットスイッチに、ＡＭ・ＦＭ各1局ずつ周波数を記憶させることができます。

●バッテリー交換やヒューズ交換などでオーディオとバッテリーとの接続が断たれたときには、記憶されていた周波数はすべて消去されます。

⑥交通情報を聞く

交通情報放送を行っている地域で交通情報放送局を受信することができます。
●交通情報スイッチを押すと、交通情報放送局が受信されます。
●解除するときは、もう一度交通情報スイッチを押します。

■周波数を変更したいときは

1 AMを選択します。

2 記憶させたい周波数を選択します。

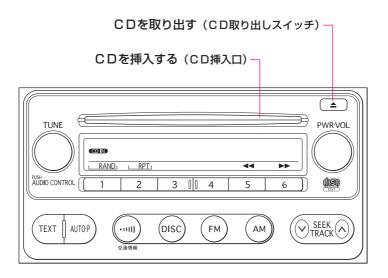
3 交通情報スイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けます。

●新車時には1620kHzにセットしてあります。
●交通情報スイッチを押してラジオを受信しているときは、ＳＥＥＫスイッチ、ＴＵＮＥダイヤル、プリセットスイッチ、ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを押しても周波数は切りかわりません。
●バッテリー交換やヒューズ交換などでオーディオとバッテリーとの接続が断たれたときには、1620kHzになります。

知 識

ＡＵＴＯ・Ｐスイッチについて

●地域や車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感度が悪い場合、自動で記憶できないことがあります。
●ＡＵＴＯ・Ｐスイッチによる周波数の記憶操作を同じ場所で繰り返しても、受信感度の状態によっては、操作ごとに記憶される周波数が異なることがあります。
●同じ放送局からの受信でも、ＳＥＥＫスイッチまたはＴＵＮＥダイヤルで選択し、記憶させた周波数とＡＵＴＯ・Ｐスイッチで記憶させた周波数は一致しないことがあります。

ＣＤプレーヤーの使い方

ＣＤの挿入のしかた

ＣＤ挿入口にＣＤを挿入します。

●ＣＤを挿入するときは、ラベル面を上にして挿入します。

●ＣＤ挿入口にＣＤを挿入すると、ＣＤが再生されます。

ＣＤの取り出し方

ＣＤ取り出しスイッチを押します。

⑥リピート再生をする（ＲＰＴスイッチ）

⑤ランダム再生をする（ＲＡＮＤスイッチ）

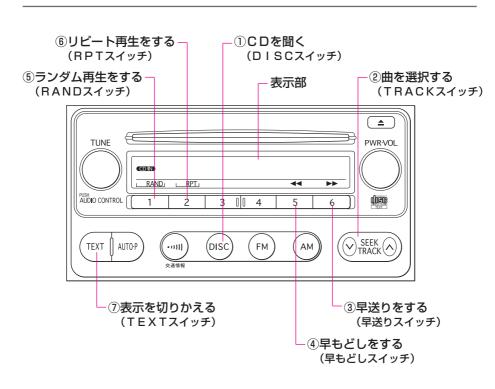
①ＣＤを聞く（ＤＩＳＣスイッチ）

表示部

②曲を選択する（ＴＲＡＣＫスイッチ）

TUNE
PWR·VOL
CD IN
RAND
RPT
PUSH AUDIO CONTROL
1 2 3 4 5 6
TEXT AUTO·P
交通情報
DISC FM AM
SEEK TRACK

⑦表示を切りかえる（ＴＥＸＴスイッチ）

③早送りをする（早送りスイッチ）

④早もどしをする（早もどしスイッチ）

基本操作

①ＣＤを聞く

●ＣＤが入っている場合は、ＤＩＳＣスイッチを押すとＣＤが再生されます。
●ＣＤ挿入口にＣＤを挿入すると、ＣＤが再生されます。

応用操作

②曲を選択する

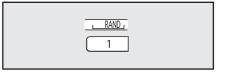
ＴＲＡＣＫスイッチの∧側または∨側を押して曲を選択します。
●表示部に曲番が表示されます。

③早送りをする

早送りスイッチを押している間、ＣＤが早送りされます。
早送りスイッチから手を離すと、その位置から再生を始めます。

④早もどしをする

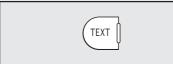
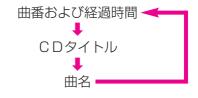
早もどしスイッチを押している間、ＣＤが早もどしされます。
早もどしスイッチから手を離すと、その位置から再生を始めます。

⑤ランダム再生をする

ＲＡＮＤスイッチを押すと、ＣＤの中から曲を順不同に再生します。
●表示部に RAND の表示が出ます。
解除するときは、もう一度ＲＡＮＤスイッチを押します。

⑥リピート再生をする

ＲＰＴスイッチを押すと、解除するまで同じ曲を繰り返して再生します。

●表示部に RPT の表示が出ます。解除するときは、もう一度ＲＰＴスイッチを押します。

⑦表示を切りかえる

ＣＤテキスト対応のＣＤを演奏しているときは、ＴＥＸＴスイッチを押すごとに、次のように表示部の表示が切りかわります。

注意 8cmＣＤを使用するときは、アダプターを使用しないでください。

ＣＤを取り出せなくなるおそれがあります。

知 識

表示について

●ＣＤタイトルまたは曲名表示のとき、タイトルがない場合は「ＮＯ ＴＩＴＬＥ」と表示されます。
●表示部に一度に表示できるのは12文字までです。また、記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。
　ＣＤタイトルまたは曲名が13文字以上の場合は、ＴＥＸＴスイッチを約1秒以上押し続けると13文字目以降が表示されます。ただし、表示できるのは最大で24文字です。
　・13文字目以降表示時に、もう一度ＴＥＸＴスイッチを約1秒以上押し続ける、または約6秒以上操作しないと、1文字目～12文字目までの表示にもどります。
　・ＣＤタイトルまたは曲名が25文字以上ある場合でも、表示できるのは24文字までです。

ＣＤプレーヤーに異常が生じたときは

●表示部に次の表示でプレーヤーの状態を知らせます。
　・ディスクが汚れているときや、ディスクが裏表逆などで読み取りができないとき

「ＥＲＲＯＲ 1」

　・プレーヤーに異常があるとき

「ＥＲＲＯＲ 3」
「ＥＲＲＯＲ 4」

●プレーヤーの温度異常を検出すると、表示部に次の表示が出て自動的にプレーヤーの機能が停止します。この場合、しばらくしてプレーヤーの温度が常温に復帰すると表示が消えて使用可能になります。

「ＷＡＩＴ」

アンテナ

運転席側リヤクォーターガラスに埋め込まれています。

注意　**アンテナの取り扱いにはご注意ください。**

●アンテナ入りガラス（室内側）の清掃は湿った布で線にそって拭いてください。ガラスクリーナーなどはアンテナを傷めますので使用しないでください。

●リヤクォーターガラスのアンテナ線部に次のものを貼り付けないでください。受信感度が低下したり、ノイズ（雑音）が入るおそれがあります。

・金属を含有するウインドゥフィルム

・その他の金属物（トヨタ純正品以外のアンテナなど）

使用上の留意点

安全運転をさまたげないように適度な音量でお聞きください。
オーディオを聞いているときに、車内または車の近くでデジタル式携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーからノイズ（雑音）が聞こえることがありますが故障ではありません。

⚠注意	**エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。**

●バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。
●走行中のオーディオ操作は、安全運転に支障がないように十分注意して行ってください。

ラジオについて

ラジオの受信は、アンテナの位置が刻々とかわるため電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により最良な受信状態を維持することが困難な場合もあります。

ＣＤについて

■プレーヤーについて

上のマークの付いた音楽用ＣＤのみ使用できます。ＣＤ－ＲやＣＤ－ＲＯＭなどは使用できません。
コピーコントロールＣＤなどの正式なＣＤ規格に準拠していない特殊ディスクには対応していません。

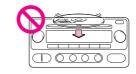
■寒いときや雨降りのときは
車内のガラスが曇るように、プレーヤー内部にも露（水滴）が生じることがあります。この場合、音が飛んだり、再生が停止したりしますので、しばらくの間、換気または除湿してから使用してください。

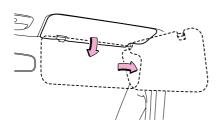
■悪路を走行したときは
激しく振動した場合、音飛びをすることがあります。

注意　ＣＤの取り扱いにはご注意ください。

- ＣＤ取り出しスイッチを押して、ＣＤが飛び出た状態のまま長時間放置しないでください。ＣＤがそり、使用できなくなるおそれがあります。
- ＣＤは直射日光を避けて保管してください。ＣＤがそり、使用できなくなるおそれがあります。
- ＣＤを扱うときは、中心の穴と端を挟んで持ち、ラベル面を上にしてください。
- 直径12㎝、または8㎝の円形以外のＣＤは再生できません。特殊形状のＣＤは機器の故障の原因となりますので、使用しないでください。
- DualDiscには対応していません。機器の故障の原因となりますので、使用しないでください。
- 記録部分に透明または半透明部分があるＣＤは、正常に出し入れや再生ができなくなるおそれがありますので、使用しないでください。

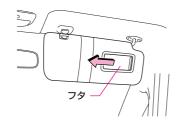
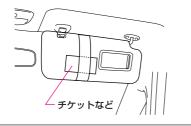
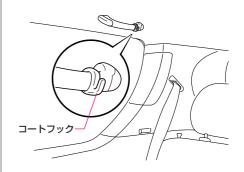
- レンズクリーナーを使用すると、プレーヤーのピックアップ部の故障の原因となるおそれがありますので使用しないでください。
- セロハンテープ、シール、ＣＤ－Ｒ用ラベルなどが貼ってあるＣＤや、はがしたあとのあるＣＤは使用しないでください。プレーヤーが正常に作動しなくなったり、ＣＤが取り出せなくなるなど、故障の原因となるおそれがあります。

- ＣＤの汚れは、プラスチック用メガネ拭きなどの柔らかく乾いた布で軽く拭き取ってください。手で強く押したり、かたい布でこすると表面に傷が付くことがあります。
  また、レコードスプレー・帯電防止剤・アルコール・ベンジン・シンナーなどの溶剤や化学ぞうきんなどを使用すると、ＣＤが損傷し使用できなくなるおそれがあります。
- 変形したディスクは機器の故障の原因となりますので使用しないでください。

室内装備品の使い方

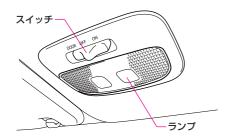
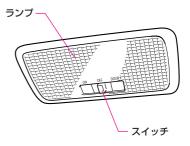
サンバイザー

日差しがまぶしいときに使用します。側面にまわして使用することもできます。

知識

便利機能について

バニティミラー（化粧用ミラー）
サンバイザーの裏側に化粧用ミラーが付いています。フタをスライドさせて使用します。

チケットホルダー
サンバイザーの裏側にあります。チケットなどを収納することができます。

コートフック

後席運転席側のアシストグリップにはコートフックがあります。

室内灯

■マップランプ

■ルームランプ

●スイッチがＯＮの位置のときは、点灯します。
●スイッチがＯＦＦの位置のときは、消灯します。
●スイッチがＤＯＯＲの位置のとき、いずれかのドア（バックドアを含む）を開けると点灯し、すべてのドアを閉めると数秒後に消灯します。
（詳しくは、➡119ページの「イルミネーテッドエントリーシステム」を参照してください）

エンジン停止中に長時間点灯させないでください。

バッテリーあがりの原因となります。

作動条件について

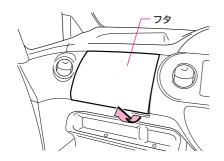
エンジン スイッチに関係なく使用できます。

バッテリーあがり防止機能について

エンジン スイッチにキーが挿し込まれていないとき、いずれかのドアが開いた状態で、マップランプ（ＤＯＯＲの位置のとき）、ルームランプ（ＤＯＯＲの位置のとき）が約20分以上点灯し続けると、バッテリーあがり防止機能が働き、ランプが自動的に消灯します。

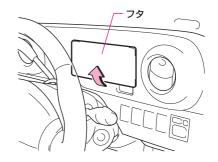
収納ボックス

■グローブボックス

フタを引いて開けます。
●使用しないときは閉めておいてください。

■運転席小物入れ

フタを引いて開けます。
●使用しないときは閉めておいてください。

■運転席ロアボックス

ツマミを引いて開けます。
●使用しないときは閉めておいてください。

■センターロアボックス

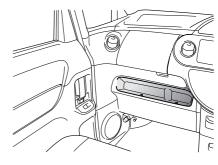
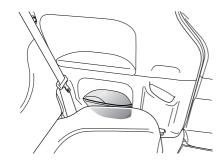
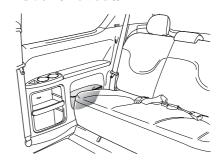
レバーを引いて開けます。
●閉めるときに“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。
●使用しないときは閉めておいてください。

収納ボックスのフタを開けたまま走行しないでください。

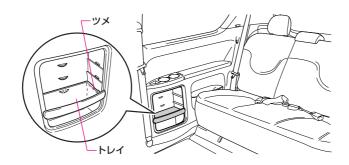
急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

収納ポケット

■運転席ドア

■助手席正面

■後席（助手席側）

■後席（運転席側）

収納ポケット内に転がりやすいものや凹面より高さのあるものを置かないでください。

急ブレーキ、急旋回したときなどに置いたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

マルチボックス

トレイを取りはずしたり、トレイの位置を移動させることができます。

●トレイを固定させるときは、ボックス内の溝にかけ、トレイの両側面にあるツメを確実にかけてください。

使用する際には以下の点に注意してください。

マルチボックス内に転がりやすいものを置かないでください。
急ブレーキ、急旋回したときなどに置いたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

トレイの上に重たいものや大きなものを載せないでください。

走行中にトレイがはずれたりするおそれがあります。（最大荷重約1.2kg）

アクセサリーソケット

車内で電気製品を使用することのできるソケットです。
使用するときは、フタを開けます。
●使用しないときは、フタを閉めておいてください。

注意 **アクセサリーソケットを使わないときは、フタを閉めておいてください。**

●アクセサリーソケットを使わないときは、フタを閉めておいてください。
異物がソケットに入ったり、飲料水等がかかったりすると、故障したり、ショートするおそれがあります。
●エンジンが停止した状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。
また、エンジンがかかっていてもアイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。

知 識

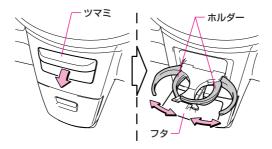
作動条件について

エンジン スイッチが“ ＡＣＣ ”または“ ＯＮ ”のときに使用できます。

アクセサリーソケットについて

●使用する電気製品は、必ずＤＣ１２Ｖで最大電流１０Ａ（最大消費電力１２０Ｗ）以下の電気製品を使用してください。
●規定容量をこえる電気製品を使用すると、車両ヒューズが切れることがあります。

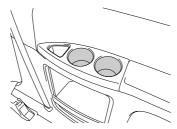
カップホルダー

■フロントー中央

ツマミを引いてフタを開けます。

●ホルダーを調整して使用してください。

●格納するときはホルダーを格納してからフタを閉じます。

●使用しないときは閉めておいてください。

■後席（運転席側）

警告　カップホルダーには、カップや飲料缶、紙パック以外のものを入れないでください。

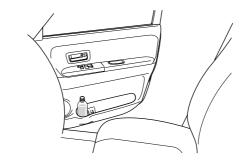
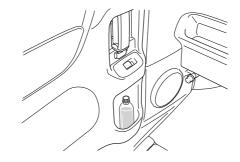
●カップホルダーには、カップや飲料缶、紙パック以外のものを入れないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。

●急ブレーキをかけたときや衝突時に、カップホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。フロント中央のカップホルダーを使用しないときはフタを閉めておいてください。

注意　カップホルダーに手をついたり、足で踏んだりしないでください。

カップホルダーが破損するおそれがあります。

ボトルホルダー

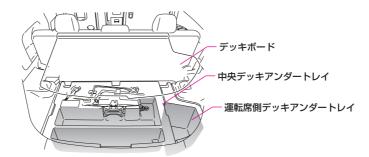
■運転席ドア

■スライドドア

ボトルホルダーはペットボトル専用です。ジュースなどが入っている紙コップや、ガラス製のコップなどを収納しないでください。

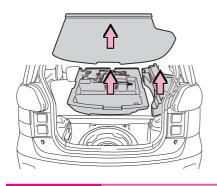
とくにドア開閉時にジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

ボトルホルダーについて

●必ずペットボトルのフタを閉めてから収納してください。
●ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

デッキアンダートレイ

4WD車

ラゲージルームのデッキボードの下に、荷物を収納することができるデッキアンダートレイがあります。デッキアンダートレイは、取りはずすこともできます。

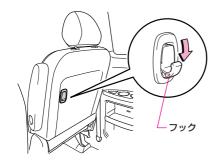
取りはずし方

1. デッキボードを持ち上げて取りはずします。
2. 中央デッキアンダートレイ、運転席側デッキアンダートレイの順に持ち上げて取りはずします。

警告　**デッキボードを開けたまま走行しないでください。**

急ブレーキをかけたときなどに、デッキアンダートレイ内のものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意　**デッキボードに無理な力をかけないでください。**

●デッキボードの下が荷物収納スペースになっている部分（ボードの下に支えがない部分）には、約20kg以上の重さのものを載せないでください。デッキボードが破損するおそれがあります。
●スペアタイヤをはずした状態でデッキアンダートレイを使用しないでください。

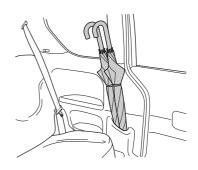
コンビニフック

運転席シート後部にあります。
買い物袋などを吊り下げておくことができます。

●フックを手前に引き出して使用します。
●使用しないときは格納してください。

⚠ 注意

●**重たいものや大きなものをフックに掛けないでください。（最大荷重約4kg）**
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

●**フックを使用しないときは、格納しておいてください。**
指を挟むなどして思わぬけがをするおそれがあります。

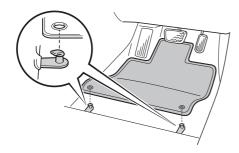
アンブレラホルダー

後席助手席側にあります。
傘を2本収納することができます。

⚠ 注意

●**傘などの長尺物を出し入れするときは、スライドドア開口部に手をかけないでください。**
スライドドア開閉時、スライドドアで手や指を挟むなどして思わぬけがをするおそれがあります。

●**傘などの長尺物を入れるときは、スライドドア開口部からはみ出さないようにしてください。**
スライドドア開閉時、長尺物が挟まれ、スライドドアの故障の原因となります。

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定して使用してください。

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をお読みください。

運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことをお守りください。
- ・トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- ・運転席専用のフロアマットを使用してください。
- ・付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。
- ・他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- ・フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。

●運転する前に、以下のことを確認してください。
- ・フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認を行ってください。
- ・エンジン停止およびシフトレバーがⓅの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

6 安全・快適装備の解説と注意

ＳＲＳ※エアバッグ

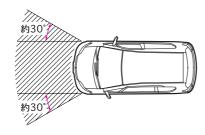
※ＳＲＳは、Supplemental Restraint System の略で「乗員保護補助装置」の意味。

ＳＲＳエアバッグとは

ＳＲＳエアバッグは、あくまでも乗員保護の補助装置でシートベルトの補助をするもので、ＳＲＳエアバッグの効果を発揮させるためには、正しい姿勢と正しいシートベルトの着用が絶対条件です。
また、正しく取り扱えば効果のあるＳＲＳエアバッグも、誤った取り扱いをすると効果を発揮しないばかりか、かえって乗員に傷害または死亡の危険を与えるおそれがあります。

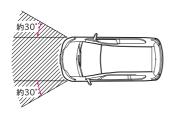
ＳＲＳエアバッグは、運転者または助手席乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて、乗員の頭や胸などに作用する衝撃を緩和させる働きをするものです。

ＳＲＳエアバッグ作動のしくみ

ＳＲＳエアバッグは、車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。
衝撃は車両前方・車両中央床部に取り付けられたセンサーで感知し、ＳＲＳエアバッグをふくらませるようコンピューターに信号を送りＳＲＳエアバッグが作動します。

車両前方にグリルガードなどを装着するとセンサーが正常に衝撃を感知できなくなり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動を損なうおそれがあります。

SRSエアバッグが作動するとき

シートベルトを正しく着用している乗員が、重大な傷害を受けるおそれがあるような強い衝撃があった場合に作動し、重大な傷害を受けるおそれの少ない衝撃では作動しにくくなっています。

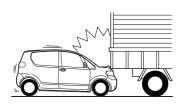
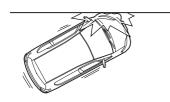
作動する場合

車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な傷害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

作動しにくい場合

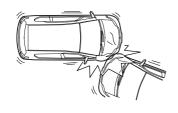
次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しない場合があります。

●衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても、衝突速度が約25km/h以下の場合

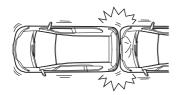
●衝突時に変形、移動しない電柱や立木などの狭い範囲に正面衝突したときであっても、衝突速度が約30km/h以下の場合

次のような場合にも衝突による衝撃がゆるめられるため、作動しない場合があります。

●トラックの荷台下などへもぐりこみ衝突した場合

●斜め前方から衝撃を受けた場合

衝突したものが変形したり移動した場合は、衝突による衝撃がゆるめられるため、作動する車速は高くなります。

●例えば、停車中の同程度の重さの車へ正面から衝突した場合には、約50km/h程度の速度であっても、作動しない場合があります。

●衝突の方向（角度）や片側衝突（オフセット衝突）などによっては、さらに高い速度であっても、作動しない場合があります。

本来の効果を発揮しない場合

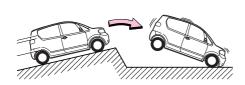
次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。

●側面や後方から衝撃を受けた場合

●車両が横転、転覆した場合

車両下部に衝撃を受けた場合

次のような車両下部に強い衝撃を受けた場合には、作動する場合があります。

●縁石などにぶつかった場合

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえた場合

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下した場合

警告　ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

●**ＳＲＳエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトに代わるものではありません。**

乗車するときには必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、衝突したときなどにＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させることができないばかりでなく、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで前方に放り出されると同時に、ＳＲＳエアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け危険です。シートベルトの正しい着用については、➡186ページをお読みください。

・シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中を付けた正しい姿勢でシートに座ってください。ＳＲＳエアバッグに近付きすぎた姿勢で乗車していると、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

＜運転者の方は＞

運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近付きすぎないようにして座ってください。

＜助手席乗員の方は＞

助手席ＳＲＳエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。

シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。

シートの調整、正しい運転姿勢については、➡162ページをお読みください。

・ひざの上にものをかかえるなど、乗員とＳＲＳエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに、ものが飛ばされたり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動がさまたげられ危険です。

ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

●お子さまを乗せるときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・お子さまはリヤシートに座らせて必ずシートベルトを着用させてください。

・シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまには、ベビーシート・チャイルドシート・ジュニアシートなどの子供専用シートをリヤシートに装着してご使用ください。

・助手席には子供専用シートをうしろ向きに絶対に取り付けないでください。
助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。併せてご覧ください。（➡45ページ参照）

・やむを得ず助手席に前向きに子供専用シートを取り付ける場合には、シートの前後調整位置をいちばんうしろにして取り付けてください。

・お子さまを助手席ＳＲＳエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。

ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

●車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。これらの作業が必要なときは、必ず **トヨタ販売店**にご相談ください。

・ＳＲＳエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取り付け・分解・修理などをしないでください。

・サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわるとＳＲＳエアバッグの誤作動につながります。

・車両前部または車両客室部の不適切な修理をしないでください。不適切な修理を行うと、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなります。

ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

●カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・ＳＲＳエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどでおおわないでください。

・インストルメントパネル上部に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、ふくらんだときに飛ばされて危険です。

・無線機の電波などは、ＳＲＳエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、**トヨタ販売店**にご相談ください。
・車両前部にグリルガードやウインチなどを装着するときは、**トヨタ販売店**にご相談ください。車両前部の改造をするとＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグの誤作動につながります。

●ステアリングパッド、インストルメントパネル上部などＳＲＳエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだ直後はＳＲＳエアバッグ構成部品にふれないでください。構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

注意　ＳＲＳエアバッグが正常に作動した場合でも次のような場合があります。

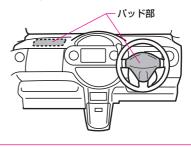
●ＳＲＳエアバッグは非常に速いスピードでふくらむため、ＳＲＳエアバッグとの接触により打撲やすり傷などを受けることがあります。

●ＳＲＳエアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。
この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出られない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
また、ＳＲＳエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。

●衝突時などに、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらむことによって、車両のフロントウインドゥガラスが破損することがあります。

●一度作動したＳＲＳエアバッグは、2回目以降の衝突では再作動しません。
必ず **トヨタ販売店**で交換してください。同様に連続して衝突した場合、１回目の衝突でＳＲＳエアバッグが作動すれば、2回目の衝突ではＳＲＳエアバッグは作動しません。

●車やＳＲＳエアバッグを廃棄するときは必ず **トヨタ販売店**にご相談ください。
ＳＲＳエアバッグが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず **トヨタ販売店**で交換してください。衝突したときなどにＳＲＳエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。

シートベルト関係

シートベルトの働き

プリテンショナー & フォースリミッター付シートベルトの働き

フロントシートベルト

- プリテンショナー機構は、前席の乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときに、シートベルトを瞬時に巻き取り、適切な乗員拘束効果の確保に役立ちます。
- フォースリミッター機構は、シートベルトの荷重を規定値に維持することで胸部への衝撃を緩和します。

プリテンショナー機構

【衝突初期にシートベルトを瞬時に巻き取る】

フォースリミッター機構

【衝突時規定荷重を維持しながらシートベルトを引き出す】

ＥＬＲ機構付シートベルトの働き

3点式シートベルト

シートベルトは体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃で体が前に倒れそうなときは、ベルトが自動的にロックされ体を固定します。

⚠警告 プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。

●プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、プリテンショナーが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・シートベルトを正しく着用する。(➡186ページ参照)
・シートを正しい運転姿勢のとれる位置に調整する。(➡162ページ参照)

●プリテンショナー付シートベルトの取り付け・取りはずし、分解などをしないでください。また、プリテンショナー付シートベルトを修理するときは、必ず **トヨタ販売店**で行ってください。プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤って巻き取り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリテンショナー付シートベルトが作動すると、SRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ず **トヨタ販売店**で交換してください。

⚠注意 車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ず トヨタ販売店にご相談ください。

●車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ず **トヨタ販売店**にご相談ください。プリテンショナー付シートベルトが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。

●プリテンショナー付シートベルトが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが火災ではありません。また、人体への影響もありません。

知識

プリテンショナー付シートベルトの作動条件について

プリテンショナー付シートベルトは、車両前方から強い衝撃を受けたときに作動します。次のような衝撃が弱いときには作動しない場合があります。

●コンクリートの壁に約25km/h以下の速度で正面衝突したとき

なお､次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。

●側面や後方から衝撃を受けたとき

●車両が横転、転覆したとき

作動後について

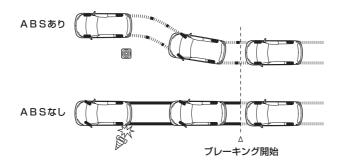
プリテンショナー付シートベルトは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

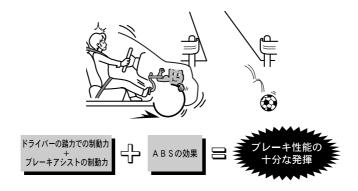
ＡＢＳ※ ＆ ブレーキアシスト

※ＡＢＳは、Antilock Brake System（アンチロック・ブレーキ・システム）の略。

ＡＢＳ ＆ ブレーキアシストとは

ＡＢＳの働き

ＡＢＳは、急ブレーキをかけたときや、すべりやすい路面でブレーキをかけたときに起こるタイヤのロック（回転が止まること）を防ぐことにより、スリップを抑制します。

ブレーキアシストの働き

ブレーキアシストは、
●緊急制動時の運転に不慣れな運転者が緊急制動するとき
●緊急制動時にパニック状態に陥ったとき
などにブレーキペダルが強く踏めず、ブレーキ性能を十分に発揮できない場合に、運転者のペダル踏力を増加させ、制動力を確保する装置です。

ＡＢＳ、ブレーキアシストについて

ＡＢＳやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界がありますので、過信することなく安全運転に心がけてください。
また、ＡＢＳやブレーキアシスト（ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車）は車輪に取り付けられたセンサーによりタイヤのロックを検出します。タイヤのサイズが4輪とも同じでないと正確に判断できなくなるおそれがあります。
➡69ページの「タイヤについての注意」をよくお読みいただき、正しく取り扱ってください。

ＡＢＳ ＆ ブレーキアシストが作動しているとき

運転について

●急ブレーキ時は、ＡＢＳやブレーキアシストが効果を発揮するようにブレーキペダルをできるだけ速く、強く踏み続けることが必要です。
●急ブレーキ時にポンピングブレーキ※をしないでください。ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。

※ ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけ方。

思いきり踏む

踏み続ける

ゆるめたり、ポンピングはしない

作動について

ＡＢＳが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
●ＡＢＳの作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルに振動を感じたり、車両停止後もモーター音が聞こえることがあります。
●ＡＢＳの作動が終了すると、ブレーキペダルが少し奥に入ったりすることがあります。

ブレーキアシストが作動すると、次のような現象が発生することがありますが異常ではありません。

ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車

ブレーキアシストは、ブレーキペダルを急速度で踏んだとき、ブレーキが強くかかるようになり、作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動くことがあります。

ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車を除く

ブレーキアシストはブレーキペダルを急速度で踏んだとき、ブレーキが強くかかるようになり、ＡＢＳが作動することがあります。

ＥＢＤ[※1]の働き

※1ＥＢＤは、Electronic Brake force Distribution（エレクトロニック・ブレーキフォース・ディストリビューション）の略で「電子制動力配分制御」の意味。

ＡＢＳの制御技術を応用して、車両の走行状態に応じた適切な制動力を前後輪に配分します。これにより、積載時や減速度による荷重変化に応じ、前後輪の制動力配分を適切に行い、高いブレーキ性能を確保します。さらに、旋回中の制動時にも左右輪の制動力をコントロールして走行安定性を確保します。

警告　**ＡＢＳ ＆ ブレーキアシストを過信しないでください。**

●**ＡＢＳ ＆ ブレーキアシストを過信しないでください。**
ＡＢＳやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
ＡＢＳ ＆ ブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分に取って安全運転に心がけてください。
・ＡＢＳはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象[※2]が起こった場合は効果を発揮できません。
※2 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

●**ＡＢＳは制動距離を短くするための装置ではありません。**
次の場合などは、ＡＢＳの付いていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。
・砂利道、新雪路を走行しているとき
・タイヤチェーンを装着しているとき
・道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき
・凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき

●**ブレーキアシストはブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。**

知 識

作動条件について

●ＡＢＳ、ブレーキアシスト（ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車）は、車速が約10km/hをこえると作動できるようになります。また、車速が約5km/hまで下がると作動を止めます。
●雨の日に、マンホールのフタ、橋の継ぎ目、工事中の鉄板などの上でブレーキを踏むとすべりやすいため、ＡＢＳが作動しやすくなります。

作動音について

●エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジンルームからモーター音や“カチッ”という音が聞こえることがあります。これは、ＡＢＳの作動をチェックしているときの音で異常ではありません。
●ブレーキアシストは、ブレーキペダルを踏んだとき小さな打音が聞こえることがあります。これは、ブレーキアシストの機構が作動しているときの音で異常ではありません。（ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車を除く）

Super ECT

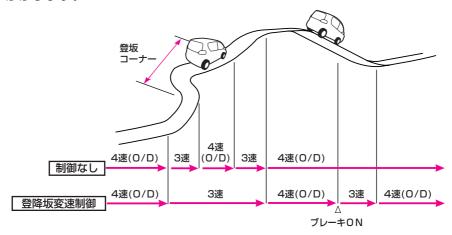
Super ECTとは

Super ECTは、フレックスロックアップシステムや登降坂変速制御システムなどにより、燃費性能と快適な走行を両立した電子制御オートマチックトランスミッションです。

フレックスロックアップシステムの働き

トランスミッションの伝達効率を上げ、燃費性能を高めるシステムです。
フレックスロックアップシステムを有効にご使用いただくためには、シフトレバーがⒹにあれば自動的に作動します。

登降坂変速制御システムの働き

アップダウンのあるワインディング路などをオーバードライブONで走行しているときに、登坂していると判断された場合、4速へのシフトアップを制限し、3速によるスムーズな走行を実現します。
また、降坂時では4速で走行しているときに、降坂していると判断された場合、ブレーキを踏むと自動的に3速にシフトダウンし、エンジンブレーキがかかります。

⚠注意

走行中、エンジン警告灯（➡239ページ参照）が点灯したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常が考えられます。

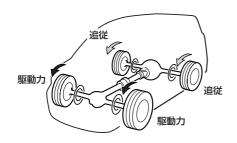
フレックスフルタイム4WD

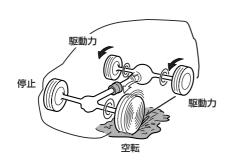
フレックスフルタイム4WDとは

4WD車

通常はほぼＦＦ走行をし、コーナリング時や雪道、登坂時、発進時、加速時など前輪と後輪の回転差が発生すると、自動的に後輪に駆動力が伝達され、四輪駆動として走行します。
フレックスフルタイム4WDは、さまざまな路面に対応した駆動力を自動的に全輪に与え、安定した操縦性に寄与する装置です。

フレックスフルタイム4WDの取り扱い上の注意が➡64ページの「4WD車についての注意」に記載されていますので、よくお読みになり、正しい取り扱いを理解して安全運転に心がけるようにしましょう。

通常時（ＦＦ走行）

通常の直線走行など、前・後輪に回転差が微小な場合は、2WD（ＦＦ）に近い状態で走行します。

コーナリング時や雪道（4WD走行）

コーナリング時や雪道など前・後輪間に回転差が発生すると、後輪に駆動力が伝達され、4WD状態になります。
通常走行にもどると、2WDになります。

タイヤについて

フレックスフルタイム4WDは、タイヤの状態が車の性能に大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。
詳しくは、➡69ページの「タイヤについての注意」をよくお読みください。

警告　宙に浮いたタイヤを、むやみに空転させないでください。

●脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼き付きなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
・4輪の空気圧の差が著しいとき
・空気圧が指定値からはずれているとき
●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（➡365ページ参照）
●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（➡405ページ参照）

ＶＳＣ＆ＴＲＣ★

ＶＳＣ※とは

※ ＶＳＣは、Vehicle Stability Control（ビークル・スタビリティ・コントロール）の略。

ＶＳＣは、急激なハンドル操作やすべりやすい路面での旋回時の横すべりなどを抑制するため、自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して、車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

●タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、➡69ページの「タイヤについての注意」をよくお読みください。

ＶＳＣを過信しないでください。

ＶＳＣが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、ＶＳＣ作動警告ブザー（断続音）が鳴ったり、スリップ表示灯（➡233ページ参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

 知識

作動条件について

●ＶＳＣは車速が約15km/hをこえると作動できるようになります。

●ＶＳＣ警告灯（➡238ページ参照）が点灯しているときは、ＶＳＣは作動しません。

作動チェックについて

エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジンルームから“カチカチ、トン”という音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

TRC※とは

※TRCは、Traction Control（トラクション・コントロール）の略。

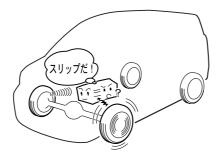
TRCの働き

すべりやすい路面での発進時や加速時に、過剰な駆動力により生じる駆動輪のホイールスピンを抑え、車両の方向安定性と駆動力を確保しようとする装置です。

●車輪がスリップしはじめると車輪速センサーからの情報でコンピューターがスリップを感知し、エンジンに対して出力を一瞬下げるようにし、また、必要に応じてブレーキをかけます。これにより、過剰な駆動力を抑え、スリップを防止します。

・TRCが作動すると、スリップ表示灯（➲233ページ参照）が点滅します。このとき、車両の振動を感じることがありますが、これはブレーキ制御によるもので、異常ではありません。

・ぬかるみや新雪からの脱出時などエンジン出力が必要な場合は、TRC OFFスイッチを操作することで、TRCシステムを停止することができます。（➲261ページ参照）

TRCのしくみ

タイヤのスリップは4輪に取り付けられたセンサーからの信号を比較し、駆動輪のいずれかの信号が他の車輪より多い場合、スリップしているとコンピューターが判断します。それによって、スリップしているタイヤの駆動力を抑えようとブレーキをかけたり、エンジンの出力を一時的に抑えたりして、スリップを抑制させます。

ＴＲＣとタイヤの関係について

ＴＲＣは、車輪に付いているセンサーからの信号を基準に作動させるため、4輪の中で1輪でもタイヤの種類が異なると、信号の出方がかわり、コンピューターがスリップと判断したりします。

●タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、➡69ページの「タイヤについての注意」を参照してください。

警告　**ＴＲＣを過信しないでください。**

ＴＲＣが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、スリップ表示灯（➡233ページ参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

知 識

作動条件について

通常はエンジン スイッチを“ ＯＮ ”にすると、ＴＲＣが作動可能状態になります。

●ＶＳＣ警告灯（➡238ページ参照）が点灯しているときは、ＴＲＣは作動しません。

作動チェックについて

エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジンルームから“カチカチ、トン”という音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

ディスチャージヘッドランプ

ディスチャージヘッドランプとは

ディスチャージヘッドランプ装着車

ディスチャージヘッドランプは、バルブ管内のガスと金属ヨウ化物を使って発光させ、白い光と伸び、広がりのある配光を持つランプです。

警告 **ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。**

電球ソケットにふれた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000Ｖの高電圧が発生し、感電して生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

知識

ヘッドランプオートレベリング（上下照射方向自動調整）システムについて

●加減速時や荷物の積み降ろし時などの車両姿勢の変化に対応して、ヘッドランプの光軸を自動的に調整する装置です。
●エンジンを始動してはじめてヘッドランプを点灯したとき、ヘッドランプの光軸が動くことがありますが、これはシステムの正常な作動をチェックしているときの現象で異常ではありません。

ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯について

ヘッドランプオートレベリング（上下照射方向自動調整）システムに異常があると、ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯が点灯します。詳しくは、➲241ページを参照してください。

システムの異常について

システムの異常により、点灯状態が次のようになります。
●点灯中に作動電圧範囲からはずれた場合は消灯し、電圧が正常に復帰次第、再点灯します。
●点灯操作をするときに作動電圧範囲からはずれている場合は、ランプスイッチを操作しても点灯しません。

7

車との上手な付き合い方

雨の日の運転について

雨の日の運転

すべりやすい路面は慎重に走行してください

雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなるので慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
●雨の日は、ハイドロプレーニング現象※でハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。
※雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し接地力を失ってしまう現象。

警告　すべりやすい路面では慎重に運転してください。

●すべりやすい路面での急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●シフトアップ、シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

冠水した道路は走行しないでください

大雨などで冠水した道路では、車両に重大な損傷を与えるおそれがあるので走行しないでください。

警告　冠水した道路は走行しないでください。

冠水した道路を走行するとエンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など重大な車両故障の原因となるおそれがあります。
万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは必ず **トヨタ販売店** で下記の項目などを点検してください。
●ブレーキの効き具合
●エンジン、トランスミッション、トランスファー（4WD車）、ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化
（白濁している場合、水が混入していますのでオイルの交換が必要です）
●プロペラシャフト（4WD車）、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

寒冷時の取り扱い

冬の前の準備、点検

エンジンオイルを交換する

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。
（➲404ページの「指定エンジンオイル」参照）

ウォッシャー液の濃度を調整する

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、購入されたウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

冷却水の濃度を調整する

冷却水の凍結を防ぐために冷却水濃度を調整してください。

使用地域	希釈割合	凍結保証温度
温暖地	30%	－12℃
寒冷地	50%	－35℃

注意 冷却水の濃度を調整するときは、次のことに注意してください。

アルコール系不凍液や真水だけの使用はしないでください。

バッテリーの液量、比重を点検する

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。バッテリーの液量、比重を点検し、必要に応じて液の補充や充電をしてください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンを準備する

●積雪路、凍結路では冬用タイヤを装着し、併せてタイヤチェーンをご用意ください。冬用タイヤの装着サイズについては、必ず標準タイヤと同じ指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。詳しくは **トヨタ販売店**にご相談ください。
●タイヤを取りかえるときは、必ず➡69ページの「タイヤについての注意」をお読みください。
●タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。
●トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくは **トヨタ販売店**にご相談ください。

寒冷地用ワイパーブレードを準備する

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。**トヨタ販売店**で各車指定のブレードをお求めください。
●高速走行時は通常のワイパーブレードよりガラスが拭き取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。
●寒冷地用ワイパーブレードを必要としない時季は、通常のワイパーブレードを使用してください。

運転する前に

屋根に積もった雪は

走行時にガラス面に落ちた雪が視界のさまたげになります。
走行する前に取り除いてください。

ガラスに付いた雪や霜は

ガラス内外の雪や霜を落として視界を確保してください。
デフロスターを使うと、ガラスを傷付けずに落とすことができます。

⚠注意　ガラスに付いた氷を除去するときは次のことに注意してください。

フロントウインドゥガラスに付いた氷を除去するために、たたいて割らないでください。
フロントウインドゥガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

ランプ類に付いた雪や霜は

ランプ類に付いた雪や霜を落としてから走行してください。
夜間の走行時などに視界のさまたげとなったり、後続車などへの合図がわかりにくくなるおそれがあります。また、走行中にもときどき点検してください。

足まわりなどに付いた氷塊は

車体などに傷を付けないように取り除いてください。

外気取り入れ口に積もった雪は

フロントウインドゥガラス前部の外気取り入れ口に積もった雪を取り除いてから、エアコンのファンを作動させてください。
雪が積もったままで作動させると、ファンが故障したり、ガラスが曇ったりするおそれがあります。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ワイパーなどが凍結したときは

ワイパー、ドアミラー、ドアガラスなどが凍って動かない場合は、無理に動かさないでください。
スイッチを押し続けたりすると、装置を傷めたり、バッテリーあがりを起こすおそれがあります。

ドアが凍結したときは

お湯をかけて氷を解かしてください。なお、すぐに水分を十分拭き取ってください。無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、損傷するおそれがあります。

靴に付いた雪をよく落とす

ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったり、凍結することがあります。

走行するときは

すべりやすい路面では“急”の付く操作はしない

急発進、急ハンドル、急ブレーキなどは車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。ゆっくり発進し、控えめな速度で、車間距離を十分とって走行してください。
橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。

警告　エンジン回転数の急激な変化は、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

シフトアップ、シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

フェンダー裏側に付いた氷は

ハンドル操作に影響しますので、ときどき確認し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

ブレーキ装置に付いた氷は

ブレーキの効きが悪くなる場合があります。
ときどき軽くブレーキペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

すべり止めは早めに

積雪時、凍結路では早めにタイヤチェーンまたは冬用タイヤを装着してください。タイヤを取りかえるときは、必ず➡69ページの「タイヤについての注意」をお読みください。

警告　冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。

- 指定サイズのタイヤを使用してください。
- 指定空気圧に調整してください。
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

タイヤチェーン

●タイヤチェーンは前2輪に取り付けてください。
●タイヤチェーンの取り扱い方法は、タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従ってください。
●タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。
●トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくは **トヨタ販売店**にご相談ください。

■タイヤチェーンを取り付ける前に
交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動し、パーキングブレーキをしっかりかけます。以下の手順により準備作業を行います。

〈手順〉

1 エンジンを停止します。

シフトレバーを🅟にし、エンジンを停止します。

2 車の存在を知らせます。

必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、人や荷物を降ろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

3 工具を用意します。

ジャッキ、ジャッキハンドル、スチールホイール装着車はホイールナットレンチを用意します。（➡410ページの「ジャッキ、工具、スペアタイヤの格納場所」参照）

4 タイヤチェーンを用意します。

5 輪止めを用意します。

タイヤチェーンを取り付ける場合には輪止めが必要です。

●輪止めについては **トヨタ販売店**にご相談ください。

●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

6 スチールホイール装着車は、ホイールキャップをはずします。

（➡420ページの「タイヤ交換のしかた」参照）

警告　タイヤチェーン装着時は必ず慎重に運転してください。

●タイヤチェーン装着時は、約30km/hまたはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。また、走行性に影響を与えるため必ず慎重に走行してください。

●タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。また、ＡＢＳ作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので慎重に運転してください。

注意　タイヤチェーンを取り付けるときは、ディスクホイールやホイールキャップに傷を付けないよう注意してください。

●スチールホイール装着車は、ホイールキャップをはずしてからタイヤチェーンを取り付けてください。ホイールキャップを付けたままタイヤチェーンを取り付けると、ホイールキャップに傷が付くことがあります。

●アルミホイール装着車は、アルミホイールにタイヤチェーンを取り付けるとディスクホイールに傷が付くことがあります。

●トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

駐車するときは

エンジンをかけたままにしない

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。

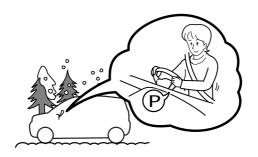
⚠警告　エンジンをかけたままにしないでください。

エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パーキングブレーキはかけない

寒冷時はパーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結してパーキングブレーキが解除できなくなるおそれがあります。

■平らな場所に駐車するときは

パーキングブレーキをかけないで、シフトレバーをⓅにし、輪止めをします。

■やむを得ず坂道に駐車するときは

下り坂では前輪の前側、上り坂では後輪のうしろ側に輪止めをして、パーキングブレーキをかけず、シフトレバーをⓅにします。

●輪止めについては**トヨタ販売店**にご相談ください。

●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

警告 **パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。**

輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ボンネット側を風下に向ける

風のあたる部分は想像以上に低温となりますので、バッテリー性能低下を防ぐためにも、ボンネット側をできるだけ風下に向けて駐車してください。

ワイパーアームは立てておく

降雪時は、寒さでワイパーがガラスに凍り付いたりします。ワイパーアームは立てて駐車してください。

経済的な運転

環境に配慮した経済的な運転をするために

長時間停車するときはエンジンを停止します。
5分間のアイドリングを止めて、ガソリン約65ccの節約。
▶CO_2 約420g削減（10回／月）

不要な荷物は降ろして走行。
10kgの荷物を降ろして50km走るとガソリン約15ccの節約。
▶CO_2 約130g削減（650km／月）

空ぶかしは禁物。
空ぶかしを1回止めてガソリン約6ccの節約。
▶CO_2 約1150g削減（300回／月）

カーエアコンは少し控えめに。
エアコンを6分停止してガソリン約70ccの節約。
▶CO_2 約1340g削減（3時間／月）

タイヤの空気圧はこまめにチェック。
適正値で50km走ると50kPa ｛0.5kg/cm^2｝ 減のときに比べてガソリン約150ccの節約。
▶CO_2 約1250g削減（650km／月）

発進・加速はスムーズに。
急発進1回止めてガソリン約17cc、急加速1回止めて約11ccの節約。
▶CO_2 約360g削減（各20回／月）

目次
警告
基本操作早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

経済速度でロスなし走行。
一般道路で40〜50km/h、高速道路では80km/hがベスト。
100km/hを80km/hにして燃費約10〜30%向上。
●法定速度を守り、安全運転に心がけてください。

たとえば加速
加速終了時にはアクセルを少し大きめにもどしてみましょう。
シフトアップやロックアップが確実にでき、効率が良くなります。

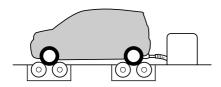
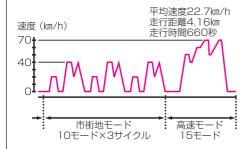
たとえば下り坂、減速
早めにアクセルをもどしエンジンブレーキを使いましょう。
ガソリンエンジンでは燃料噴射の停止により燃費が良くなります。

平地走行でも
アクセルペダルから思いきって足を離してみてください。
思ったほどスピードは落ちないものです。燃料噴射の停止を上手に活用しましょう。一定走行ならアクセルの踏み込み、踏みもどしは少ないほど低燃費となります。

「10・15モード」とは

車両カタログに記載されている「10・15モード」燃費は、一定の条件に従って測定された燃費です。

このモードは都市内走行状態を再現したもので、図1のようにシャシーダイナモメーター上で実際の道路上の走行状態を再現し、エンジン暖機後、図2のようなパターンを走行するものです。

●図1.シャシーダイナモメーター

●図2.「10・15モード」

「10・15モード」は、都市内走行状態を再現したものですが、あくまでも代表的な走行パターンです。そのため、実際の走行とは異なる場合が多く、
例えば
●走行速度の平均が「10・15モード」より低い
●停車比率（運転中に車が止まっている割合）が高い
●急な加速を行った
など条件の違いにより燃費が悪くなります。

＊数値は、2.0Ｌクラスの乗用車（オートマチック車）の燃費11.7km/Ｌ（10・15モード）を基準に計算してあります。(各車両型式の燃費は、車両カタログをご覧ください)
＊CO_2排出量は、ガソリン1ＬあたりのCO_2排出係数0.64で計算してあります。

参考資料 ● ㈳日本自動車工業会：「あしたへ　ECO-MOTION」
● ㈳日本自動車連盟：「ECO　MANUAL　車に関する環境エコ基礎知識集」

環境保護のために

使用済み部品、廃オイル類は適正な処理をする

●バッテリーは鉛や硫酸が使われていますので、特定産業廃棄物として適切な処理が法律で義務付けられています。
バッテリー交換時は、購入した販売店で処分を依頼してください。

●タイヤは個人が燃やすなどすると、亜硫酸ガスなど有毒なガスを発生させます。
購入した販売店に処分を依頼してください。

●エンジンオイルは放置しておくといずれ流れ出し、地下に浸透したり、水に浮き、環境を悪くします。
購入した販売店に処分を依頼してください。

●不凍液は、冷却水の凍結温度を下げるエチレングリコールが入っています。川などに流すと水質汚濁の原因になりますので、不凍液の交換は**トヨタ販売店**にご相談ください。

●エアコン冷媒用フロンガス（特定フロンガスＣＦＣ12）は、大気に放出されるとオゾン層の破壊を進めます。
トヨタではオゾン層を破壊しない代替フロンガス（ＨＦＣ134a）に全車切りかえを完了しています。（93年完）
それでも、代替フロンガス（ＨＦＣ134a）は地球を温暖化する働きがあります。
エアコンの効きが悪い場合、ガスを充填するのみでなく、ガスもれの点検を併せて行い、もれ箇所を修理したうえでガス充填をしてください。

8

メンテナンス

車の手入れ

日頃の手入れ

車をいつまでも美しく保つためには日頃の手入れが必要です。

洗車、ワックス用品について

それぞれの用品に記載されている説明をよく読み、用途や注意事項などを必ずお守りください。

月に一度はワックスがけを行ってください

月に一度、または水のはじきが悪くなったら行ってください。

保管・駐車について

風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。

⚠ 注意　塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のことをお守りください。

●塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のような場合はただちに洗車してください。
- 海岸地帯を走行したあと
- 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
- ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下の多い場所を走行したあと
- ほこり、泥などで激しく汚れたとき
- 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

外装の手入れ

洗車するときは

十分水をかけながら、汚れを洗い落とし、洗い落としたあとは水を拭き取ります。

●車体、足まわり、下まわりと、上から下の順に行います。
●車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗います。
●汚れのひどいときは、カーシャンプーを使用し、水で十分洗い流してください。
●はん点が残らないように水を拭き取ります。

自動洗車機を使うときは

●ミラーを格納して前側から洗車してください。
●ブラシの傷が付き､塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。

高圧洗車機を使うときは

●ノズルの先端をドアガラスなどに近付けすぎないでください。近付けすぎると水圧が高いため、車内に水が入るおそれがあります。
●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリース流出により、性能が劣化するおそれがあります。

アルミホイールの手入れ

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。
●光沢を失うおそれがありますので、スチーム洗浄などで熱湯がディスクホイールに直接かからないようにしてください。

ワックスがけをするときは

洗車後、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください）に行います。

警告 エンジンルーム内に水をかけないでください。

- エンジンルーム内の電気部品に水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品がショートして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 寒冷時に洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。
- 洗車後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意 洗車するときは、けがをしないように注意してください。

- 下まわり、足まわりを洗うときは、手などにけがをしないように注意してください。
- 洗車するときは、硬いブラシやたわしなどを使用しないでください。塗装などに傷が付きます。
- ランプのレンズ表面をワックス、ベンジンやガソリンなどの有機溶剤で拭いたり、硬いブラシなどで擦ったりしないでください。破損したり、劣化を早めることがあります。
- 目地のある素地部※に塗装用ワックスを使用しないでください。塗装用ワックスが付着すると、目地に入って取れなくなり、白くなることがあります。

※素地部＝塗装されていないバンパー・ドアミラーなどの樹脂部分。

内装の手入れ

カークリーナーや電気掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭き取ります。

警告　車内に水をかけないでください。

●車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。オーディオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。
また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が低下し、衝突などのとき十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
●内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドゥガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

注意　クリーナーに含まれる成分に注意してください。

●内装の手入れをするときは、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみの原因になります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますのでよく確認のうえ使用してください。
●芳香剤（液体・固体・ゲル状・プレートタイプなど）を、内装品（エアコンやオーディオなど）に直接ふれさせたり、こぼしたりしないよう注意してください。含まれる成分によっては変色やしみ、塗装はがれの原因になるおそれがあります。
●リヤウインドゥガラスの内側を清掃するときは、熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
●リヤウインドゥガラスの内側を掃除するときは、熱線を引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。
●ガラスの内側を清掃するときは、コンパウンドが入ったガラスクリーナーを使用しないでください。清掃は水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
●アンテナ入りガラス（室内側）の清掃は湿った布で線にそって軽く拭いてください。ガラスクリーナーなどは、アンテナを傷めますので使用しないでください。
●内装の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

エアコンガス（冷媒）の点検

冷媒が不足していると冷房性能が低下します。
夏になる前に点検、補充をしてください。

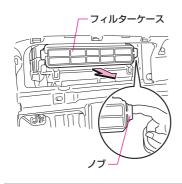
エアフィルターの交換

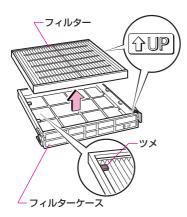
1 **エンジン スイッチを“ＬＯＣＫ”にします。**

2 **助手席側インストルメントパネルのトレイにあるクリップを引き抜きます。**

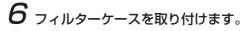
クリップの中心にあるピンを“カチッ”と音がするまで押して、クリップを引き抜きます。

トレイ

3 **矢印の方向にトレイを引いて取りはずします。**

4 **フィルターケースを取りはずします。**

フィルターケースの左右にあるノブを手前に引いて、フィルターケースを取りはずします。

5 フィルターを交換します。

フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターに交換します。

- ●フィルターケースのツメにフィルターを確実に取り付けます。
- ●フィルターにある「⇧UP」のマークの矢印が上になるようにして、確実に取り付けます。

6 フィルターケースを取り付けます。

フィルターケースにある「⇧UP」のマークの矢印が上になるようにして、確実に取り付けます。

7 トレイを取り付けます。

取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

- ●クリップを取り付けるときは、左図のようにピンを引き上げてから挿入し、クリップ取り付け後にピンをもとの状態に押しもどします。

注意 エアフィルターの清掃・交換は、エンジン スイッチを“ ＬＯＣＫ ”にしてから行ってください。

- エアフィルターの清掃・交換は、エンジン スイッチを“ ＬＯＣＫ ”にしてから行ってください。
- エアコンの風量が著しく減少したときは、エアフィルターの目詰まりが考えられます。エアフィルターを交換してください。
- エアフィルターの清掃は必ずエアブローにより、裏面から行ってください。水洗いやブラシで擦っての清掃は行わないでください。
- エアフィルターの裏と表を間違えないように、フィルターケースに確実に取り付けてください。
- 必ずエアフィルターを装着した状態でエアコンを使用してください。エアフィルターを装着せずにエアコンを使用すると故障の原因となることがあります。

知 識

エアフィルターの清掃・交換について

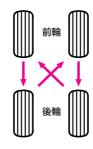
エアコンにはエアフィルターが取り付けられています。
快適にお使いいただくため、定期的な清掃・交換をおすすめします。
エアフィルターの交換は、お客様自身で行うこともできますが、交換の際に破損などのおそれがあるため、**トヨタ販売店**での交換をおすすめします。
エアフィルターについては**トヨタ販売店**にご相談ください。

清掃の目安……………… 15,000km【7,500km】ごと
交換の目安……………… 30,000km【15,000km】ごと

【　】は、多じん地区（大都市・寒冷地など、交通量・粉じんの多い地区）の場合。

タイヤローテーション

タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすために、5,000kmごとにタイヤローテーション（タイヤの位置交換）を行います。

●搭載されているジャッキを使用してタイヤ位置交換を行うときは、スペアタイヤを使用して1輪ずつ交換してください。

⚠注意　日常点検として必ずタイヤを点検してください。

●日常点検として必ずタイヤの点検を行ってください。
（➡69ページの「タイヤについての注意」参照）

●タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、**トヨタ販売店**にご相談ください。（➡82ページの「その他の注意」参照）

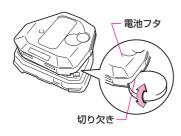
ワイヤレスドアロックリモコンキーの電池交換

1 カバーを開けます。

市販のマイナスドライバーを切り欠きに挿し込み、ひねりながらカバーを開けます。

●傷付き防止のため、ドライバーの先端にビニールテープなどを巻いてください。

2 モジュールを取り出します。

切り欠きに爪などをかけて、モジュールを本体から取り出します。

3 電池フタをはずします。

切り欠きにコインなどをかけてモジュールの電池フタを取りはずします。

4 電池を交換します。

古い電池を取り出し、新しい電池の⊕側を上にして挿入します。

5 電池フタをはめ、モジュールとカバーを取り付けます。

電池フタをもとどおりにしっかりとはめ、モジュールを本体の中にもどし、カバーをしっかりと取り付けます。

6 作動確認をします。

電池および取りはずした部品は、とくにお子さまが飲み込まないようにご注意ください。

飲み込むと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

電池および取りはずした部品の取り扱いにはご注意ください。

●電池交換時には、カバーなどの部品を紛失しないように注意してください。
●電池フタを曲げたりしないように注意してください。
●電池以外の部品にふれたり、動かしたりしないでください。
●電池の⊕極と⊖極は必ず正しい向きにして取り付けてください。
●電池挿入部の電極を曲げたり、モジュール内部にゴミや油などが付着しないように注意してください。
●基盤などの内部部品を取り出さないでください。

知 識

電池について

使用電池……リチウム電池ＣＲ2016
電池は **トヨタ販売店**、時計店、カメラ店などでお求めください。

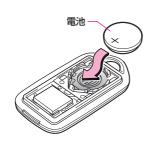
電池交換について

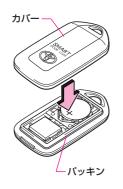
電池交換は、お客様自身で行うことができますが、交換の際に破損などのおそれがあるため、 **トヨタ販売店**での交換をおすすめします。

電子キーの電池交換★

1 **カバーをはずします**

コインなどで切り欠き部分をこじってカバーをはずします。

●傷付き防止のため、コインに布などをあててください。

2 **電池を交換します。**

古い電池を取り出し、新しい電池の⊕側を上にして挿入します。

3 **カバーをはめます。**

パッキンがしっかりはまっていることを確認してから、カバーをもとどおりにしっかりと取り付けます。

4 **作動確認をします。**

リモコンスイッチのいずれかを押したとき、本体のＬＥＤが点灯することを確認します。

警告　電池および取りはずした部品は、とくにお子さまが飲み込まないようにご注意ください。

飲み込むと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意　電池および取りはずした部品の取り扱いにはご注意ください。

●電池交換時には、カバーやパッキンなどの部品を紛失しないように注意してください。
●カバーを曲げたりしないように注意してください。
●電池以外の部品にふれたり、動かしたりしないでください。
●電池の⊕極と⊖極は必ず正しい向きにして取り付けてください。
●電池挿入部の電極を曲げたり、ゴミや油などが付着しないように注意してください。
●パッキンは、傷付けたり、ねじって取り付けたりしないように注意してください。

知 識

電池について

使用電池……リチウム電池ＣＲ2032
電池は **トヨタ販売店**、時計店、カメラ店などでお求めください。

電池交換について

電池交換は、お客様自身で行うことができますが、交換の際に破損などのおそれがあるため、 **トヨタ販売店**での交換をおすすめします。

ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れやランプ自体の球切れが考えられます。
次の手順でヒューズの点検・交換を行ってください。

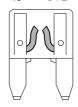
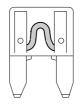
ヒューズの点検・交換のしかた

1 **エンジン スイッチを“ＬＯＣＫ”にします。**

2 **ヒューズボックスを開けます。（****➲372、374ページ参照）**

3 **ヒューズの点検をします。**

故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズボックスのカバーの裏面または表面のラベルで確認し、ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないかを点検します。
●ヒューズは車の仕様によりないものもあります。

切れた状態

切れていない状態

4 **ヒューズを交換します。**

ヒューズが切れていたら、ヒューズラベルの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。
●ランプ類が点灯しないときは、電球切れも考えられます。
●以下の場合は **トヨタ販売店**で点検を受けてください。
・取りかえても再びヒューズが切れるとき
・取りかえても電気系統の装置が働かないとき

規定容量以外のヒューズを使用しないでください。

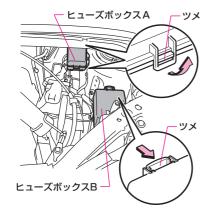
配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

知 識

初期設定について

バッテリーあがりの処置や、ヒューズ交換などの作業を行った場合、作業後に初期設定操作が必要な機能があります。詳しくは、➡406ページの「初期設定が必要な機能」を参照してください。

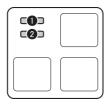
ヒューズボックスの開け方とヒューズ表

■エンジンルーム内ヒューズボックス

ヒューズボックスＡは、ツメを引きながらカバーをはずします。

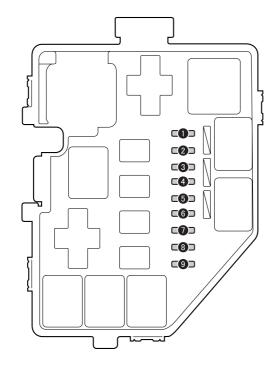
●ヒューズラベルは、カバーの裏面に表示してあります。

ヒューズボックスＢは、ツメを押しながらカバーを持ち上げてはずします。

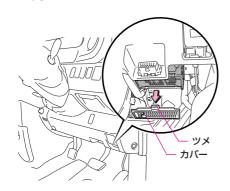
●ヒューズラベルは、カバーの裏面に表示してあります。

<ヒューズボックスＡ>

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	Ｈ－ＬＰ ＨＩ ＲＨ	10A	ディスチャージヘッドランプ（運転席側）
❷	Ｈ－ＬＰ ＨＩ ＬＨ	10A	ディスチャージヘッドランプ（助手席側）

＊ 車の仕様により設定のないヒューズもあります。

＜ヒューズボックスＢ＞

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	ＤＯＭＥ	15A	エンジンコントロール、室内灯
❷	ＥＦＩ	20A	エンジンコントロール、ＥＣＴ
❸	ＨＯＲＮ	15A	ホーン、非常点滅灯
❹	ＡＭ2	30A	イグニッション
❺	ＦＲ ＤＥＦ	15A	フロントワイパーデアイサー
❻	ＥＣＵ−Ｂ	7.5A	ワイヤレスドアロック、パワースライドドア
❼	Ｈ−ＬＰ ＬＨ	15A	ヘッドランプ（助手席側）
❽	Ｈ−ＬＰ ＲＨ	15A	ヘッドランプ（運転席側）
❾	ＳＴ	5A	エンジンコントロール、ＥＣＴ

＊ 車の仕様により設定のないヒューズもあります。

■室内ヒューズボックス

ツメを引きながらカバーをはずします。

●ヒューズラベルは、カバーの表面に表示してあります。

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	PANEL1	10A	尾灯、イルミネーション
❷	PANEL2	10A	尾灯、イルミネーション
❸	A/C (HTR)	10A	エアコン、プラズマクラスター
❹	FL DOOR	20A	パワーウインドゥ
❺	PWR OUTLET	15A	アクセサリーソケット
❻	ACC	7.5A	ドアミラー、オーディオ
❼	M/HTR	10A	エンジンコントロール
❽	LIFT UP	30A	オプションコネクター
❾	FR DOOR	25A	パワーウインドゥ
❿	IGN	15A	イグニッション、ECT、エアバッグ
⓫	MET IGN	7.5A	メーター
⓬	GAUGE2	7.5A	フロントワイパーデアイサー
⓭	WIP	25A	フロントワイパー
⓮	RR WIP	15A	リヤワイパー
⓯	WSH	20A	フロント・リヤウォッシャー
⓰	ECU－IG	7.5A	ABS、パワースライドドア、ドアロック
⓱	GAUGE1	10A	方向指示灯、後退灯
⓲	OBD	7.5A	ダイアグノーシス
⓳	STOP	10A	ABS、パワースライドドア、制動灯
⓴	DOOR	25A	ドアロック
㉑	TAIL	10A	フォグランプ、尾灯、イルミネーション
㉒	RR FOG	7.5A	リヤフォグランプ
㉓	FR FOG	15A	フロントフォグランプ
㉔	AM1	30A	電源

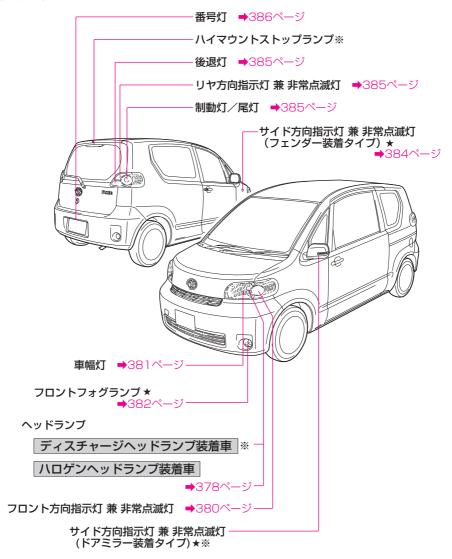
＊ 車の仕様により設定のないヒューズもあります。

外装の電球（バルブ）交換

この車の外装には、下図で示した電球（バルブ）があります。

●ページ数が記載してある電球の交換については、該当ページをお読みください。

●※印が記載してある電球の交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

警告 **電球の交換をするときは、次のことをお守りください。**

●ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ず **トヨタ販売店**にご相談ください。電球ソケットにふれた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000Vの高電圧が発生し、感電して生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。（ディスチャージヘッドランプ装着車）

●電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあり危険です。

注意 **電球の取り扱いには注意してください。**

●ハロゲン電球はガラス内部の圧力が高いため、落としたり、ものをぶつけたり、傷を付けたりすると破損してガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。また、素手でふれずにきれいな手袋を着用してください。

●必ず同じワット数の電球を使用してください。（➲401ページ参照）

●電球および電球固定具の取り付けは確実に行ってください。取り付けが不完全な場合、水入りなどによる故障およびレンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。

●電球の交換をするときは、工具や電球、電球固定具、ソケットなどを紛失しないように注意して作業してください。

知 識

ランプの曇りについて

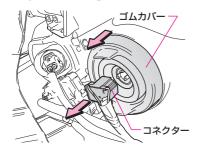
ヘッドランプ・制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、 **トヨタ販売店**で点検を受けてください。

電球の交換について

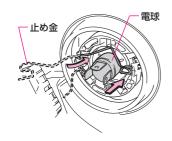
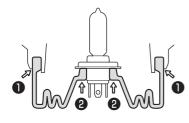
電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、 **トヨタ販売店**にご相談ください。

ヘッドランプ

ハロゲンヘッドランプ装着車

■取りはずし方

1 ボンネットを開けて（➡159ページ参照）、コネクターとゴムカバーを取りはずします。

2 止め金をはずし、電球を取りはずします。

■取り付け方

1 電球を取り付け、止め金をかけます。

2 ゴムカバーをはめ込みます。

❶ゴムカバー外周をしっかりとはめ込みます。
❷ゴムカバー内周（電球周り）を全周にわたり電球の金具部分が確認できるまで押し込みます。

3 コネクターを挿し込みます。

※ 図は助手席側で説明しています。

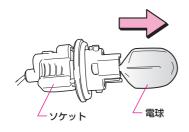
ゴムカバーの内溝が最後まではめ込まれていることを確認してください。

ゴムカバーがしっかりはめ込まれていないと、ヘッドランプへの水入りの原因となります。

フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯

■取りはずし方

1 **ボンネットを開けて（➡159ページ参照）、ソケットを取りはずします。**

ソケットを矢印の方向にまわして取りはずします。

2 **ソケットから電球を引き抜きます。**

■取り付け方

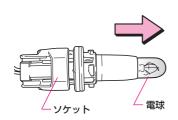
取りはずしたときの逆の手順で取り付けます。

※ 図はディスチャージランプヘッドランプ装着車の助手席側で説明しています。

車幅灯

■取りはずし方

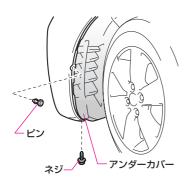
1 ボンネットを開けて（➡159ページ参照）、ソケットを取りはずします。

ソケットを矢印の方向にまわして取りはずします。

2 ソケットから電球を引き抜きます。

■取り付け方

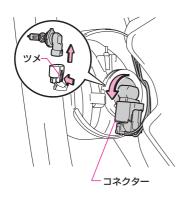
取りはずしたときの逆の手順で取り付けます。

※ 図はディスチャージランプヘッドランプ装着車の助手席側で説明しています。

フロントフォグランプ★

■取りはずし方

1 **ハンドルを右にいっぱいまでまわしてから、アンダーカバーをめくります。**

ピン（1個）とネジ（1本）をはずし、アンダーカバーをめくります。

●ピンは、ドライバーなどで90°まわしてロックをはずし、引き抜きます

2 **コネクターを取りはずします。**

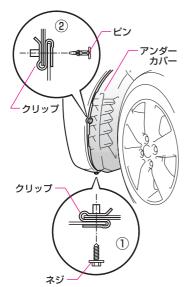
コネクターを矢印の方向にまわして取りはずします。

3 **電球を取りはずします。**

ツメを押しながら電球を引いて、コネクターから取りはずします。

※ 図は助手席側で説明しています。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

■取り付け方

取りはずしたときの逆の手順で、電球とコネクターを取り付けます。

アンダーカバーは、次の手順で取り付けます。

①バンパーに付いているクリップにアンダーカバーを挿し込んでから、ネジで締め付けます

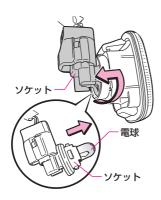
②バンパーに付いているクリップにアンダーカバーを挿し込んでから、ピンを取り付けます。ピンを取り付けたあとは、ドライバーなどで90° まわして、ロックします。

作業後は、アンダーカバーが確実に固定されていることを確認してください。

サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯（フェンダー装着タイプ）★

■取りはずし方

1 ランプ本体を取りはずします。

ランプ本体を車両後方に向かって押しながら、ランプ本体の車両前方側を手前に引いてはずします。

2 ランプ本体からソケットと電球を取りはずします。

ソケットを矢印の方向にまわして、ランプ本体から取りはずし、ソケットから電球を引き抜きます。

■取り付け方

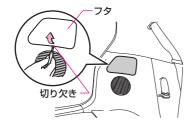
取りはずしたときの逆の手順で取り付けます。

※ 図は助手席側で説明しています。

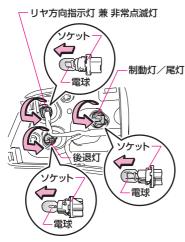
ランプ本体からソケットをはずすと、ソケットが車両内部に落ちやすくなります。

落ちないように注意して作業してください。

制動灯／尾灯、リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯、後退灯

■取りはずし方

1 バックドアを開けて（➡132ページ参照）、フタを取りはずします。

薄刃のマイナスドライバーを切り欠きに挿し込み、フタを手前に引いて取りはずします。

●傷付き防止のため、ドライバーの先端に薄手のテープなどを巻いて保護してください。

2 交換したい電球を取りはずします。

ソケットを矢印の方向にまわして取りはずし、ソケットから電球を引き抜きます。

■取り付け方

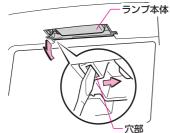
取りはずしたときの逆の手順で取り付けます。

※ 図は助手席側で説明しています。

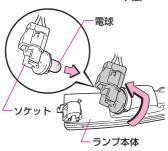
ランプ本体からソケットをはずすと、ソケットが車両内部に落ちやすくなります。

落ちないように注意して作業してください。

目次
警告
基本操作早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

番号灯

■取りはずし方

1 **ランプ本体を取りはずします。**

穴部にマイナスドライバーを挿し込み、矢印の方向に押しながら、ランプ本体を手前に引き出します。

2 **ランプ本体からソケットと電球を取りはずします。**

ソケットを矢印の方向にまわして取りはずし、ソケットから電球を引き抜きます。

■取り付け方

取りはずしたときの逆の手順で取り付けます。

日常点検

日常点検について

日常点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。
日常点検は、簡単に点検できる項目になっていますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。
ここでは、点検内容を簡単に説明します。
点検方法および実施時の注意事項は、「メンテナンスノート」をお読みください。

エンジンルームの点検

ブレーキフルードリザーバータンク ➡次ページ

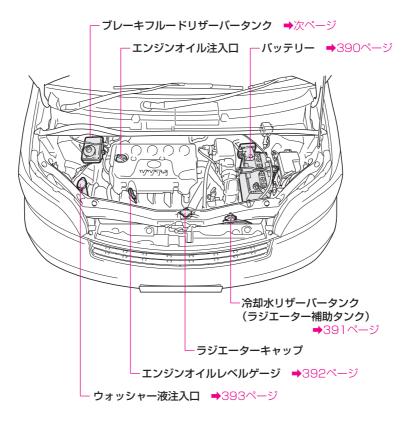
エンジンオイル注入口

バッテリー ➡390ページ

冷却水リザーバータンク
(ラジエーター補助タンク)
➡391ページ

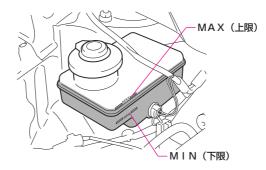
ラジエーターキャップ

エンジンオイルレベルゲージ ➡392ページ

ウォッシャー液注入口 ➡393ページ

点検や交換したあとは、工具や布などをエンジンルームに置き忘れていないことを確認してください。

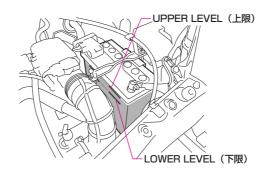
万一、置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ブレーキの液量

ブレーキフルードの量がリザーバータンクのＭＡＸ（上限）とＭＩＮ（下限）の間にあるかを点検します。

ブレーキフルードの量を定期的に点検してください。

ブレーキフルードが不足しているとブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

バッテリーの液量

バッテリー液面が各液槽ともバッテリーの UPPER LEVEL（上限）と LOWER LEVEL（下限）の間にあるかを車両をゆするなどして点検します。

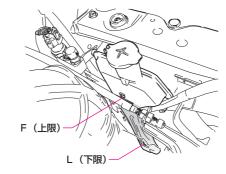
注意　バッテリー液の量を定期的に点検してください。

バッテリー液が不足すると、バッテリーあがりやバッテリー自体の損傷につながるおそれがあるため、定期的に点検してください。

知識

バッテリーについて

UPPER LEVEL・LOWER LEVELの表示は、搭載されるバッテリーにより意匠が異なる場合があります。

冷却水の量

冷却水の量がリザーバータンクのF（上限）とL（下限）の間にあるかを点検します。

注意　冷却水の量を定期的に点検してください。

冷却水の量が不足していると、ラジエーターの腐食やオーバーヒートによるエンジン破損のおそれがあるため、定期的に点検してください。
また、水のみで使用していると寒冷時に凍結し、ラジエーターなどに損傷を与えるため、必ず冷却水を適切な濃度でご使用ください。

エンジンオイルの量

エンジンオイルの量がオイルレベルゲージのＦ（上限）とＬ（下限）の間にあるかを点検します。

警告

エンジンオイルを点検・交換するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害ややけどにつながるおそれがあります。

●エンジンを停止してください。
　エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分にふれたり付近にいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●エンジンオイルの温度が低いときに、点検・交換してください。
●エンジンが停止していても冷却水温が高いときは、エンジンオイルも高温になっており、やけどをするおそれがあり危険です。

注意

エンジンオイルは定期的に点検・交換してください。

●定期的な点検を怠ると、オイル不足や劣化により回転部分が潤滑不良になり、焼き付きなどを起こしてエンジンに損傷を与えるため、定期的に点検・交換をしてください。
　・エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをする働きがあります。通常の運転をしていても、ピストンおよび吸・排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるため、オイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
●エンジンオイルを補給するときは、入れすぎないように注意してください。
●エンジンオイルを点検するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように布などをあてて点検してください。
　万一、オイルが付着したときは、完全に拭き取ってください。

ウインドゥウォッシャーの液量

ウォッシャータンク側面から液面を確認し、ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

■ウォッシャー液を補給するには

1 **キャップを開けます。**

ウォッシャー液注入口のキャップを開けます。

2 **ウォッシャー液を補給します。**

補給が終わったら、ウォッシャー液注入口のキャップを確実に閉めてください。

- ●ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考に、希釈して補給します。
- ●リヤワイパー用のウォッシャータンクは、フロントワイパー用と兼用です。

警告 **エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。**

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

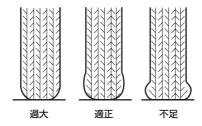
注意 **ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。**

塗装のしみになるおそれがあります。

車のまわりの点検

タイヤの点検については、➡69ページの「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

タイヤの空気圧

タイヤが冷えている（走行前）状態でタイヤの接地部のたわみ状態（つぶれ具合）を見て、空気圧が適正であるかを点検します。

●月に1回程度は空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
●空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

警告 **必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。**

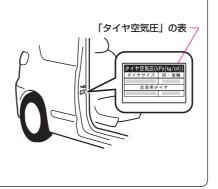
指定空気圧より低いと車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

※高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

知識

指定空気圧について

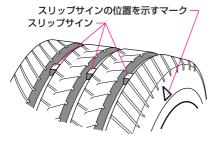
指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはメンテナンスデータ（➡405ページ）でご確認ください。

●スペアタイヤも点検してください。
●指定空気圧でのたわみ状態を確認しておくと、タイヤを目視点検するときの参考になります。
●指定空気圧の調整は、タイヤが冷えているときに行ってください。

タイヤの亀裂、損傷

タイヤの側面や接地部全周に著しい傷や亀裂がないかを点検します。
また、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検します。

警告 **タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。**

- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルがとられたり、異常な振動を感じることがあります。
  また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかに **トヨタ販売店**で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

タイヤの溝の深さ、異常摩耗

〈例：スリップサインが出ていない状態〉※1

〈例：スリップサインが出ている状態〉※1

タイヤ接地面に表示されているスリップサイン（摩耗限度表示）が現われていないかを点検します。
また、極端な片べりなどの偏摩耗がないかを点検します。

※1 イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。

タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※2により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※2 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

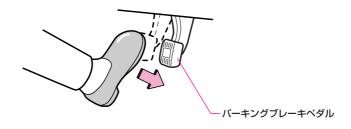
灯火装置、方向指示器の汚れ、損傷

各ランプのレンズに、汚れや破損、ヒビ割れなどがないかを点検します。

ランプの曇りについて

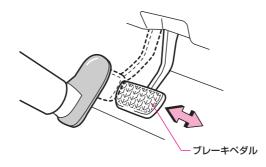
ヘッドランプ・制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

運転席に座っての点検

パーキングブレーキペダルの踏みしろ

パーキングブレーキペダルが止まるまでゆっくりと踏み、カチカチ音が基準値（➡400ページ参照）の範囲で止まるかを点検します。

エンジンのかかり具合

エンジン始動の際、異音がないか、かかり具合いは良いかを点検します。また、アイドリング状態および少し回転を上げた状態で、異音がないかを点検します。

ブレーキペダルの踏みしろ

エンジンを始動し、ブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、床板とのすき間（➡400ページ参照）を点検します。併せてペダルの感触に異常がないかを点検します。

ウインドゥウォッシャーの噴射状態

エンジンを始動し、ウインドゥウォッシャーを作動させ、噴射の向きおよび高さがワイパーの作動範囲のほぼ中央にあたるかを点検します。

ワイパーの払拭状態

エンジンを始動し、ウインドゥウォッシャーでガラスをぬらした状態でワイパーを作動させ、「間欠作動」「低速作動」「高速作動」「一時作動」の各作動が良いか、拭き取り状態が良いか点検します。

灯火装置、方向指示器の作動

エンジンを始動し、各灯火装置、方向指示器を作動させ、ランプが点灯または点滅するか、明るさが不足していないかを点検します。

走行しての点検

ブレーキの効き具合

通常走行時にブレーキをかけたとき、効きが十分か、片効きしないかを点検します。

警告　警告音が発生したまま走行しないでください。

走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。**トヨタ販売店**で点検を受けてください。警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキのパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

エンジンの低速および加速の状態

通常走行で停車したとき、エンジン回転にむらがあったり、停止したりしないかを点検します。
また、アクセルペダルを踏み込んだとき、なめらかに加速するかを点検します。

前日までの異常箇所の点検

前日までの使用時に異常があった箇所について、運行に支障がないかを点検します。

メンテナンスデータ

メンテナンスデータ

点検基準値

<table>
<tr><th colspan="2">項　　目</th><th colspan="3">メンテナンスデータ</th></tr>
<tr><td rowspan="4">ブレーキペダル</td><td>遊び［mm］
（負圧なしの状態）</td><td colspan="3">1〜6</td></tr>
<tr><td rowspan="3">踏み込んだときの床板とのすき間［mm］
〔踏力500N｛50kgf｝〕
（エンジンＯＮの状態）</td><td>ＶＳＣ ＆
ＴＲＣ装着車</td><td colspan="2">114</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ＶＳＣ ＆
ＴＲＣ装着車
を除く</td><td>ＦＦ車</td><td>107</td></tr>
<tr><td>4WD車</td><td>105</td></tr>
<tr><td>パーキング
ブレーキペダル</td><td>踏みしろ［ノッチ※］
〔操作力300N｛30kgf｝〕</td><td colspan="3">7〜10</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Ｖリブドベルト</td><td rowspan="2">たわみ量［mm］
〔押力100N｛10kgf｝〕
（冷間時）</td><td>オルタネーター ＆
Ａ／Ｃベルト</td><td colspan="2" rowspan="2">11〜13</td></tr>
<tr><td>Ｐ／Ｓベルト</td></tr>
</table>

※ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

目次
警告
基本操作早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

電球（バルブ）のワット数

項	目	メンテナンスデータ
電　球 (バルブ)	ワット数	ヘッドランプ **ハロゲンヘッドランプ装着車** …… 60／55W （バルブタイプ：H4） **ディスチャージヘッドランプ装着車** …… 35W （バルブタイプ：D4R） 車幅灯…… 5W フロントフォグランプ ★…… 51W （バルブタイプ：HB4） フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯 （アンバーバルブ※1）…… 21W サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯 ●ドアミラー装着タイプ…… LED※2 ●フェンダー装着タイプ （アンバーバルブ※1）…… 5W リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯 （アンバーバルブ※1）…… 21W 後退灯…… 16W 制動灯／尾灯 …… 21W／5W 番号灯…… 5W マップランプ…… 8W ルームランプ…… 8W ハイマウントストップランプ…… LED※2

※1 アンバーバルブはオレンジ色の電球です。
※2 LEDは、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光素子です。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

油脂類の容量と銘柄

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。
トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

<table>
<tr><th colspan="2">項　目</th><th>容量［L］
（参考値）</th><th>銘　柄</th></tr>
<tr><td rowspan="3">冷却水</td><td>2NZ－FE</td><td>4.4</td><td rowspan="3">トヨタ純正スーパーロング
ライフクーラント
凍結保証温度
［濃度30%　－12℃
濃度50%　－35℃］</td></tr>
<tr><td>1NZ－FE
（FF車）</td><td>4.3</td></tr>
<tr><td>1NZ－FE
（4WD車）</td><td>4.3</td></tr>
<tr><td rowspan="3">オートマチック
トランスアクスル
フルード</td><td>2NZ－FE</td><td>5.6</td><td rowspan="3">トヨタ純正
オートフルードタイプT－Ⅳ</td></tr>
<tr><td>1NZ－FE
（FF車）</td><td>6.8</td></tr>
<tr><td>1NZ－FE
（4WD車）</td><td>6.9</td></tr>
<tr><td colspan="2">トランスファーオイル（4WD車）</td><td>0.9</td><td>トヨタ純正
ギヤオイルスーパー
（API GL-5,SAE 75W-90）</td></tr>
<tr><td colspan="2">リヤディファレンシャルオイル（4WD車）</td><td>1.7</td><td>トヨタ純正
ハイポイドギヤオイルSX
（API GL-5,SAE 85W-90）</td></tr>
<tr><td colspan="2">パワーステアリングフルード</td><td>0.7</td><td>トヨタ純正
パワーステアリングフルード</td></tr>
<tr><td colspan="2">ブレーキフルード</td><td>—</td><td>トヨタ純正
ブレーキフルード2500H</td></tr>
</table>

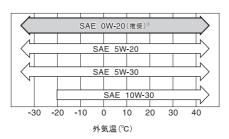
項　目	容量［L］（参考値）		銘　柄
	オイルのみ交換時充填量	オイルとオイルフィルター交換時充填量	
エンジンオイル	3.4	3.7	トヨタ純正 モーターオイルSM 0W-20※ （API SM,EC/ILSAC GF-4,SAE 0W-20） トヨタ純正 モーターオイルSM 5W-30 （API SM,EC/ILSAC GF-4,SAE 5W-30） トヨタ純正 モーターオイルSM 10W-30 （API SM,EC/ILSAC GF-4,SAE 10W-30） トヨタ純正 モーターオイルSL 5W-20 （API SL,EC SAE 5W-20） トヨタ純正 モーターオイルSL 10W-30 （API SL,EC SAE 10W-30）

※0W-20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■指定エンジンオイル

ＡＰＩ規格ＳＭ／ＥＣ、ＳＬ／ＥＣか、ＩＬＳＡＣ規格合格油をおすすめします。なお、ＩＬＳＡＣ規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION（イルサック サーティフィケーション）マークが付いています。

APIマーク　ILSAC CERTIFICATION マーク

・下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※0W-20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

ウォッシャータンク容量

項　目	容　量［L］（参考値）
ウォッシャータンク	2.5

燃料の量と種類

項　目	容　量［L］（参考値）	指　定　銘　柄
燃料（フューエルタンク）	45	無鉛レギュラーガソリン

タイヤ・ホイール仕様

タイヤサイズ ＼ 項目		ホイールサイズ			
		リムサイズ		P.C.D.	オフセット量
		スチールホイール	アルミホイール		
標準タイヤ	175／70R14 84S	14×5 1/2JJ	14×5 1/2JJ	100mm×4(穴)	33mm
応急用スペアタイヤ	T105／70D16 87M（FF車）	16×4T			39mm
	T125／70D16 96M（4WD車）				

タイヤサイズ ＼ 項目		タイヤが冷えているときの空気圧 [kPa {kg/cm²}]	
		前輪	後輪
標準タイヤ	175／70R14 84S	220 {2.2}	220 {2.2}
応急用スペアタイヤ	T105／70D16 87M（FF車）	420 {4.2}	420 {4.2}
	T125／70D16 96M（4WD車）		

車両仕様

名　称	型　式	エンジン	駆動方式	グレード
ポルテ	NNP10	2NZ-FE（1.3Lガソリン）	FF（前輪駆動）	130i
	NNP11	1NZ-FE（1.5Lガソリン）		150r
	NNP15	1NZ-FE（1.5Lガソリン）	4WD（4輪駆動）	150i

初期設定が必要な機能

初期設定について

バッテリーを交換したときや、メンテナンスを行ったときなど、バッテリーと車両との接続が断たれた場合には、下記の機能の初期設定が必要です。これらの機能は、初期設定を行わないと機能が正しく作動しません。
参照ページの説明に従って、それぞれ必要な操作を行ってください。

項目	対処方法
パワースライドドア	➡131ページ参照
バックドア	➡136ページ参照
パワーウインドゥ	➡153ページ参照

9

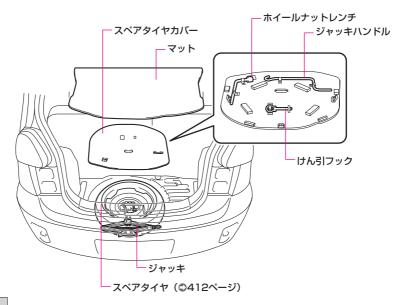
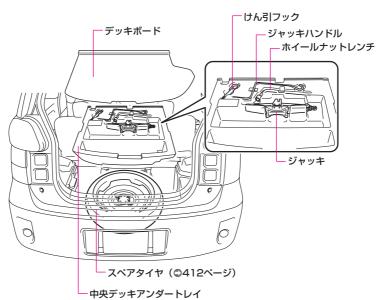
万一のとき

工具、スペアタイヤ、発炎筒

ジャッキ、工具、スペアタイヤの格納場所

ＦＦ車

4WD車

目次
警告
基本操作
早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

- ジャッキ、工具、スペアタイヤは、ラゲージルームに格納されています。
- ジャッキ、工具の種類、発炎筒の使い方などは、万一のとき困らないようにあらかじめ確認しておきましょう。
- 4WD車のデッキアンダートレイの取りはずしかたについては、➡次ページを参照してください。

警告　工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。

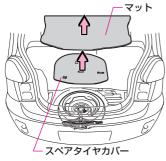
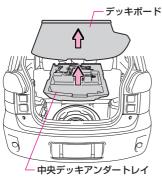
- 工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。室内などに放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車に搭載されているジャッキはお客様の車専用です。他の車に使用したり、他の車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意　ジャッキを使用するときは、次のことをお守りください。

車に搭載されているジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外に使用しないでください。

スペアタイヤ

取り出し方

1 FF車

マットとスペアタイヤカバーを取りはずします。

4WD車

デッキボード・中央デッキアンダートレイを取りはずします。

①デッキボードを持ち上げて取りはずして、
②中央デッキアンダートレイを取りはずします。

2 スペアタイヤを取り出します。

ハンドルを左にまわして取りはずし、スペアタイヤを取り出します。

格納するときは

ハンドルを右にまわして取り付けます。
●スペアタイヤが確実に固定されていることを確認します。

注意 **必ずスペアタイヤの点検を行ってください。**

異常があるスペアタイヤは装着しないでください。なお、指定空気圧は運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、または➡405ページで正しい空気圧を確認のうえ調整してください。

応急用タイヤについて

応急用タイヤは、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。
できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

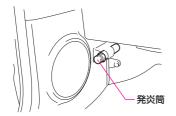
警告 **応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。**

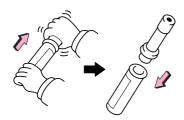
- 応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると、タイヤの径の違いがさらに大きくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  タイヤが冷えているときの空気圧（ゲージ圧）：420kPa｛4.2kg/cm²｝
- 車に搭載されている応急用タイヤはお客様の車専用です。他のタイヤやディスクホイールと組み合わせたり、他の車に使用したり、他の車の応急用タイヤをお客様の車に使用しないでください。走行に悪影響が出て、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急用タイヤは、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。標準タイヤに比べて直径が小さいので、次の事項に注意してください。

- 応急用タイヤを装着しているときは、約100km/h以上で走行しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。応急用タイヤは、標準タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。応急用タイヤは、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用タイヤを装着して突起物などを乗りこえるときは、標準タイヤを装着しているときと同じ感覚で運転しないでください。応急用タイヤ装着時は標準タイヤ装着時に対し車高が変化します。同じ感覚で運転すると車をぶつけるおそれがあります。
- 応急用タイヤにタイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体側にあたったり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。雪道、凍結路で前輪がパンクした場合は、応急用タイヤを前輪に使用せず、後輪に使用し、はずした後輪タイヤを前輪に装着してからタイヤチェーンを装着してください。
- 応急用タイヤを装着しているときは、正確な車両速度が検出できない場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
  ・ＡＢＳ
  ・ブレーキアシスト（ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車）
  ・ＶＳＣ
  ・ＴＲＣ
  また、フレックスフルタイムタイム4ＷＤは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

発炎筒の使い方

格納場所

助手席足元に備え付けてあります。

発炎筒の使い方

1 **発炎筒を組み立てます。**

本体をひねりながら取り出し、逆にして挿し込みます。

2 **着火します。**

キャップの頭部のすり薬でこすると着火します。

発炎筒は正しく取り扱ってください。

- 発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 発炎筒を使用中は顔や体に向けたり、近付けたりしないでください。やけどなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。引火して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

発炎筒をトンネル内などで使用しないでください。

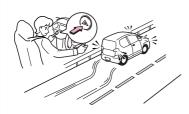
煙で視界を悪くするのでトンネル内などでは非常点滅灯を使用してください。
(➲262ページ参照)

知 識

発炎筒について

- 発炎時間は約5分間ですので非常点滅灯を併用してください。
- 発炎筒には有効期間があります。
  本体に表示してある有効期間の切れる前に **トヨタ販売店**でお求めください。

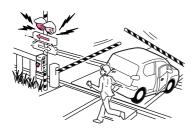
故障したときは

路上で故障したときは

非常点滅灯（➲262ページの「非常点滅灯の使い方」参照）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。（法的にも義務付けられています）

緊急を要するときは発炎筒で合図します。（➲414ページの「発炎筒の使い方」参照）

動けなくなったときは

踏切で動けなくなったときは

シフトレバーを**N**にして付近の人に安全な場所まで押してもらってください。
脱輪などで動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。
緊急を要するときは発炎筒を使用してください。

- エンジン スイッチを“ＳＴＡＲＴ”の位置で保持して緊急避難的に車を動かすことはできません。

道路で動けなくなったときは

シフトレバーを**N**にして付近の人に安全な場所まで押してもらってください。

- エンジン スイッチを“ＳＴＡＲＴ”の位置で保持して緊急避難的に車を動かすことはできません。

困ったときは、 **トヨタ販売店**へご連絡ください。
「メンテナンスノート」のサービス網／お客様相談テレホン網をお読みください。

パンクしたときは

タイヤの交換

タイヤの交換については、➡69ページの「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

タイヤ交換する前に

1 **平らな場所に移動します。**

交通のじゃまにならず、安全に作業できる地面が平らで固い場所に移動します。

2 **パーキングブレーキをしっかりかけます。**

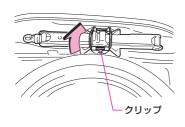
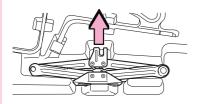
3 **エンジンを停止します。**

シフトレバーをⓅにし、エンジンを停止します。

4 **車の存在を知らせます。**

必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、人や荷物を降ろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

5 **ジャッキを取り出します。**

FF車

マットとスペアタイヤカバーを取りはずし（➡412ページ参照）、クリップをはずして、ジャッキを取り出します。
格納するときは、クリップをはめて確実に固定します。

4WD車

デッキボードを取りはずし（➡412ページ参照）、ジャッキを取り出します。
格納するときは、所定の位置にしっかりはめ込みます。

6 工具を用意します。

ジャッキハンドル、ホイールナットレンチを用意します。
(➡410ページの「ジャッキ、工具、スペアタイヤの格納場所」参照)

7 輪止めを用意します。

ジャッキアップする場合には輪止めが必要です。
輪止めについては、**トヨタ販売店**で購入できますので**トヨタ販売店**にご相談ください。
なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

8 スペアタイヤを用意します。

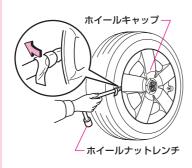
(➡412ページの「スペアタイヤ」参照)

タイヤ交換のしかた

1 ジャッキを置きます。

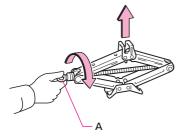
取りかえるタイヤに近いジャッキセット位置の下に置きます。
地面が平らで固く、ジャッキが安定することを確認します。

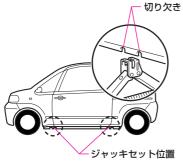
2 輪止めをします。

ジャッキアップする位置と対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。
前輪を持ち上げるときは後輪のうしろ側に、後輪を持ち上げるときは前輪の前側に輪止めをします。
（左図は右側後輪を持ち上げる場合を示しています）

3 ホイールキャップをはずします。

スチールホイール装着車は、ホイールキャップをはずします。
ホイールナットレンチの先をホイールとホイールキャップの間に挿し込み、タイヤ側にこじるとはずれます。
（2～3か所、場所をかえて繰り返すと楽にはずせます）
傷付き防止のため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いてください。

4 ナットをゆるめます。

ホイールナットレンチを使用して、左図の順序でナットを左にまわし、手で少しまわるくらいまでゆるめます。

5 ジャッキを上げます。

ジャッキのＡの部分を手で右にまわして車体のジャッキセット位置まで上げます。

6 ジャッキセット位置（切り欠きの間）にジャッキをかけます。

ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認します。

7 ジャッキハンドルを取り付けます。

ジャッキハンドルをジャッキの穴部に確実に挿し込みます。

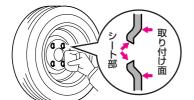
8 ジャッキアップします。

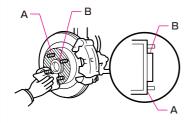
ジャッキハンドルを右にまわしてタイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。

9 ナットを取りはずします。

手でナットを左にまわして取りはずします。

10 タイヤを取りはずします。

アルミホイールを直接地面に置くときは、傷が付かないように意匠面を上にして置いてください。

11 交換するタイヤを取り付けます。

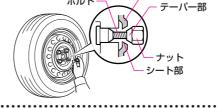
●タイヤを取り付けるときは、ディスクホイールのシート部やディスクホイール裏側の取り付け面の汚れを拭き取ってから取り付けてください。

●左図のA･B面の汚れを拭き取ります。

12 ナットを仮締めします。

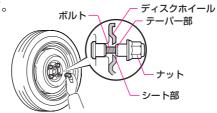
タイヤが、がたつかない程度まで、手でナットを右にまわして仮締めします。
ディスクホイール取り付けボルト、ナットのねじ部や、ナットのテーパー部（アルミホイールの場合、座金の裏側）の汚れ、異物を取り除いてください。

スチールホイール装着車

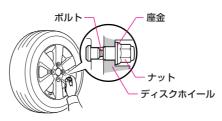
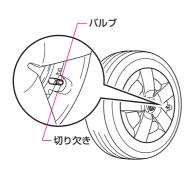
■タイヤを交換するとき（応急用タイヤを含む）

ナットのテーパー部がディスクホイール穴のシート部に軽くあたるまで仮締めします。

アルミホイール装着車

■応急用タイヤに交換するとき

ナットのテーパー部がディスクホイール穴のシート部に軽くあたるまで仮締めします。

■アルミホイールに交換するとき

ナットの座金がディスクホイールにあたるまで仮締めします。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

13 車体を降ろします。

ジャッキハンドルを左にまわして車体を降ろします。

14 ナットを締め付けます。

ホイールナットレンチを使用して左図の順序でナットを右にまわし、2～3度にわたり十分締め付けます。
締め付けトルク：約105N·m
{1050kgf·cm}

15 センターオーナメントを取り付けます。

アルミホイール装着車は、はずしたタイヤからセンターオーナメントを取りはずして、交換したタイヤに取り付けます。

●応急用タイヤにセンターオーナメントを取り付けることはできません。

16 ホイールキャップを取り付けます。

スチールホイール装着車は、タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。

●応急用タイヤにホイールキャップを取り付けることはできません。

17 工具、ジャッキ、タイヤを片付けます。

ジャッキの格納については、➲418ページを参照してください。

18 タイヤの空気圧を点検してください。

（➲405ページ参照）

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

警告　パンクしたまま走行しないでください。

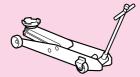
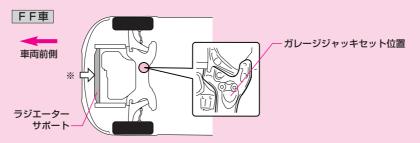
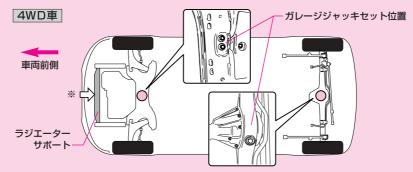
●パンクしたまま走行しないでください。パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤやディスクホイール、サスペンション、車体に損傷を与えるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。
●ジャッキアップしたら車の下には絶対にもぐらないでください。万一、ジャッキがはずれると、体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。エンジンの振動でジャッキがはずれたり、車が動き出すなど思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、車体が損傷したり、ジャッキがはずれたりして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
・ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。なお、輪止めの代わりに石などで代用する場合、タイヤを確実に固定できることを確認してください。また、パーキングブレーキをしっかりかけてください。
・人を乗せたままジャッキアップしないでください。
・ジャッキアップするときはジャッキの上や下にものを挟まないでください。
・ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認してください。
・車体はタイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
●ジャッキアップした車体を降ろすときは、作業者自身やまわりの人が手や足などを挟み、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。
●ディスクホイール取り付けナットが確実に締まっていることを確認してください。確実に締まっていないと、ホイール取り付けボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
タイヤ交換後は **トヨタ販売店**で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。
締め付けトルク：約105N･m ｛1050kgf･cm｝
●ディスクホイールを取り付けるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にタイヤがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●タイヤの取り付けには、ご使用のディスクホイール専用の取り付けナットを使用してください。
●ディスクホイール取り付けボルト、ナットのねじ部や、ディスクホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、 **トヨタ販売店**などで点検を受けてください。
つぶれや亀裂などの異常があると、ナットを締め付けても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告 車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、次のことをお守りください。

●車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になったり、取り扱いに特別な注意が必要になるため、誤って使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用する必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。また、ガレージジャッキを使用するときは、必ずしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。下図のガレージジャッキセット位置にあててください。ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキに付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。

ガレージジャッキ

ＦＦ車

4WD車

※ジャッキアップ不可

・ガレージジャッキで車両前側を持ち上げるときは、ラジエーターサポートにあてないようにしてください。
・ガレージジャッキは、受皿の形状がガレージジャッキセット位置に適したサイズの受皿タイプを使用してください。

警告

ディスクホイールを取り付けるときは、シート部や裏側の取り付け面が汚れていないか確認してください。

- ●ディスクホイールのシート部（スチールホイール装着車）やディスクホイール裏側の取り付け面がほこりなどで汚れていると、走行中にディスクホイール取り付けナットがゆるみ、タイヤがはずれ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●新品と交換するときは、4輪とも指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- ●タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアメインスイッチをＯＦＦにしてください。（➡126ページ参照）ＯＦＦにしないと、いたずらや誤ってスイッチにふれたときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

注意

ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。

- ●ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。ホイールナットレンチのかけ方が浅いと、締め付けるときにホイールナットレンチがはずれてけがをするおそれがあります。
- ●ホイールキャップは直接手をかけて取らないでください。また、取り扱いには十分注意してください。けがをするおそれがあります。
- ●ホイールキャップをはずすときは、ホイールナットレンチ以外は使わないでください。ディスクホイール、ホイールキャップが損傷するおそれがあります。（スチールホイール装着車）
- ●アルミホイール装着車のナットはトヨタ純正アルミホイール専用品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるみタイヤがはずれるおそれがあります。
- ●ホイールナットレンチを足で踏んでまわしたり、パイプなどを使用して必要以上に締め付けないでください。タイヤを取り付けるボルトが折れるおそれがあります。
- ●傷、変形があるナット、ディスクホイールなどは使用しないでください。
- ●タイヤ交換後、走行中にハンドルや車体に振動が出た場合は、**トヨタ販売店**でタイヤのバランスの点検を受けてください。

知 識

はずした標準タイヤの収納について

スペアタイヤの収納場所に、はずした標準タイヤを収納することはできません。はずした標準タイヤは、ラゲージルームに置いてください。

バッテリーがあがったときは

バッテリーあがりとは

次のような状態がバッテリーあがりです。

- ●スターターがまわらなかったり、まわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ●ヘッドランプがいつもより暗い。
- ●ホーン（警音器）の音が小さい、または鳴らない。

処置のしかた

押しがけによる始動はできません。
救援車を依頼しブースターケーブルを接続して、エンジンを始動してください。
なお、救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

1 ブースターケーブルをつなぎます。

バッテリーの⊕端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぎます。

①自車のバッテリーの⊕端子

②救援車のバッテリーの⊕端子

③救援車のバッテリーの⊖端子

④➡次ページの図で指示している箇所（アースをとる）

2 バッテリーを充電します。

救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転を保持し、応急的に自車（バッテリーあがり車）のバッテリーを充電します。

3 自車のエンジンをかけます。

4 ブースターケーブルをはずします。

ブースターケーブルをつないだときと逆の順にはずします。

アースポイント

自車（バッテリーあがり車）

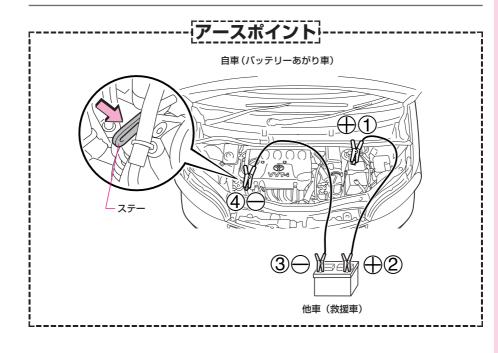
⊕①

ステー

④⊖

③⊖ ⊕②

他車（救援車）

目次
警告
基本操作 早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンを停止したままランプを点灯させたり、オーディオ、エアコンを使わないようにしてください。
●エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不必要な電装品の電源を切ってください。

警告　火気をバッテリーに近付けないでください。

●必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
・④の接続（➡前ページ参照）は自車バッテリーの⊖端子につながないでください。
バッテリーに直接つなぐと、火花が発生します。
・ブースターケーブルを接続するとき、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。
接触させると火花が発生します。
・火気をバッテリーに近付けないでください。
●充電中はバッテリーに近付かないでください。希硫酸の含まれるバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。
●ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、ファンやベルトなどにふれたり、近付いたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●バッテリーを交換したときは、クランプのナットを確実に締め付けてください。確実に締め付けないと、走行中にクランプがはずれてショートするなどして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

注意　救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

●他車（救援車）のバッテリーは12Vでなければなりません。12V用バッテリーか確認してから行ってください。
●バッテリーがあがりやすい場合は、**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

知 識

初期設定について

バッテリーあがりの処置や、ヒューズ交換などの作業を行った場合、作業後に初期設定操作が必要な機能があります。詳しくは、➡406ページの「初期設定が必要な機能」を参照してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートとは

次のような状態がオーバーヒートです。

●高水温警告灯（赤色）が点滅したり、エンジンの出力が低下する。
●ボンネットから蒸気が立ちのぼる。

処置のしかた

1 **車を止めます。**

車を安全な場所に止め、エアコンを使用している場合はＯＦＦにします。

2 **ボンネットの確認をします。**

ボンネットから蒸気が出ているか確認します。

〈ボンネットから蒸気が出ていない場合〉
ボンネットを開けてそのままエンジンをかけておきます。

〈ボンネットから蒸気が出ている場合〉
エンジンを停止し、蒸気が出なくなったら、風通しを良くするためにボンネットを開けエンジンをかけます。

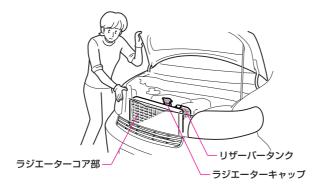
3 冷却用ファンを確認します。

ラジエーター冷却用ファンが作動していることを確認してください。ファンが作動していないときは、エンジンを停止して**トヨタ販売店**に連絡してください。

4 エンジンを停止します。

高水温警告灯（赤色）が消灯したら、エンジンを停止します。

5 冷却水量などを確認します。

エンジンが十分冷えてからラジエーターキャップをはずし、ラジエーターとリザーバータンクの冷却水量の確認、およびラジエーターコア部（放熱部）が著しく汚れていないか、ごみなどが付着していないかなどを確認します。

6 冷却水を補給します。

冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーバータンクに冷却水を補給します。

●冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

7 トヨタ販売店で点検を受けます。

早めに最寄りの**トヨタ販売店**で点検を受けてください。

●移動途中で再び高水温警告灯（赤色）が点滅したときは、空調の温度調整を最大暖房にし、ファンを最大風量にすることで、ヒーター配管内の冷却水により水温の上昇を抑えることができます。

オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量、地面に水もれがないか日頃から点検をしてください。
点検方法は「メンテナンスノート」をお読みください。

警告 **やけどなどしないように十分気を付けてください。**

●ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気がでなくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
また、蒸気が出ていない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分注意してください。

●ラジエーターや補助タンクが熱いときは、ラジエーターキャップを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出してやけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。

●エンジンがまわっているときは、ファンやベルトなどにふれたり、近付いたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

冷却水はエンジンが熱いときに入れないでください。

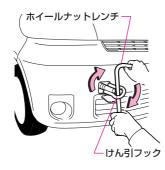
急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水はエンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

けん引について

けん引のしかた

他車にけん引してもらうときは

フロントに取り付けるけん引フックは、けん引されることを目的としており、他車をけん引するものではありません。
けん引してもらうときは、できるだけ トヨタ販売店またはＪＡＦなどに依頼してください。

とくに次の場合は駆動系の故障が考えられますので、けん引される前にまず トヨタ販売店へご連絡ください。
●エンジンがまわっているのに車が動かない
●異常な音がする

1 **けん引フック、ホイールナットレンチを取り出します。****（➡410ページ参照）**

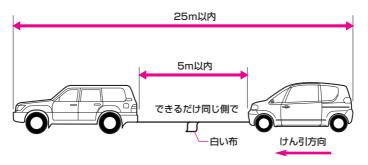
2 **フロントバンパーの運転席側にあるフタを取りはずします。**

薄刃のマイナスドライバーを、フタの切り欠きのすき間に挿し込んでフタをはずします。
バンパー傷付き防止のため、ドライバーの先端に薄手のテープなどを巻いて保護してください。

3 **けん引フックを取り付けます。**

ホイールナットレンチを使用して、けん引フックを確実に取り付けます。

4 けん引フックにロープをかけます。

ボディに傷を付けないようにしてロープをけん引フックにかけます。
必ずけん引フックにロープをかけて前進方向でけん引してください。
けん引ロープには、0.3メートル平方（0.3m×0.3m）以上の白い布をロープ中央に必ず付けてください。

5 エンジンをかけます。

エンジンをできるだけかけておいてください。エンジンがかからないときは、エンジン スイッチを"ACC"または"ON"にします。

6 発進します。

シフトレバーをⓃにして、パーキングブレーキを解除します。

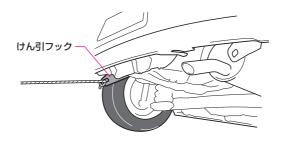
7 前の車に注意します。

けん引ロープをたるませないようにし、前の車の制動灯に注意してください。

けん引が終わったら

けん引フックをはずします。

- はずしたけん引フックは、所定の場所に格納してください。
（➲410ページ参照）
- バンパーのけん引フック取り付け部のフタを確実に取り付けます。

他車（故障車）をロープでけん引するときは

けん引のためのフックが、リヤバンパー下部（助手席側）にあります。

●けん引フックは、一般路上で故障した他車（故障車）をやむを得ずロープによりけん引するためのものです。

●自車より重い車のけん引はできません。自車より重い車をけん引しようとすると、駆動系に悪影響を与えたり、けん引フックや車体が破損するおそれがあります。

警告　けん引される車は慎重に運転してください。

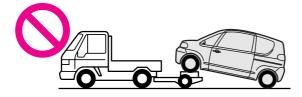
●けん引される車は慎重に運転してください。エンジンがかかっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるため、通常と同じ感覚で運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●キーを抜いたり、エンジン スイッチを“ＬＯＣＫ”にしないでください。キーが抜けているとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジン スイッチが“ＬＯＣＫ”だとキーが抜けるおそれがあります。

●けん引する車は急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。けん引フックやロープが破損するおそれがあります。
また、万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

⚠注意　長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。

●長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

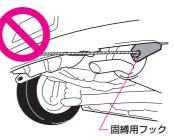
●4WD車の場合、4輪接地でけん引するか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。駆動装置が焼き付きを起こしたり、車がトレッカー（台車）から飛び出すおそれがあります。
また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず4輪を持ち上げて運搬してください。

●けん引速度約30km/h以下、けん引距離約80km以内で、前進方向でけん引してください。この速度、距離をこえてのけん引、または後進方向でのけん引をすると、トランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがありますので、これらの場合は車両積載車などにより4輪とも持ち上げて運搬してください。

●スタック※脱出のために、他車にけん引してもらうときは、サスペンションアームなどにロープをかけないでください。サスペンションアームなどを損傷するおそれがあります。

●ワイヤーロープは使用しないでください。バンパーに傷が付くおそれがあります。

●スタックしたときは、無理にけん引せず、**トヨタ販売店**やＪＡＦなどに依頼してください。けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。

●運転席側リヤのフックは固縛用フックです。固縛用フックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。けん引には絶対使用しないでください。けん引に使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

※ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。

イラストはＦＦ車で代表しています。

事故が起きたときは

あわてずに次の処置を行ってください

1 続発事故を防止します。

他の交通のさまたげにならないような安全な場所に車を移動し、エンジンを停止します。

2 負傷者がいる場合は、応急手当を行います。

医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。
この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。

3 警察への届け出をします。

4 相手方の確認とメモ（氏名、住所、電話番号）を取ります。

5 ご購入された販売店と保険会社へ連絡します。

車両を緊急停止するには

緊急停止のしかた

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

1 **ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続けます。**

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 **シフトレバーを**Ⓝ**に入れます。**

■シフトレバーがⓃに入った場合

3 **減速後、車を安全な道路脇に停めます。**

4 **エンジンを停止します。**

■シフトレバーがⓃに入らない場合

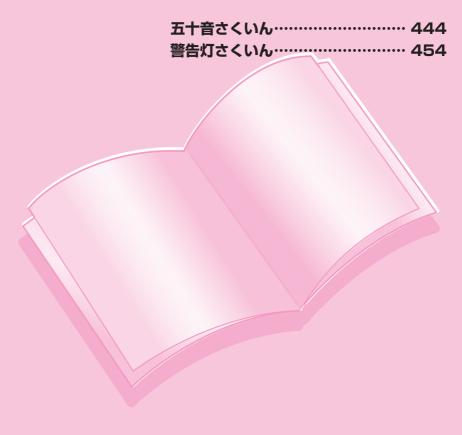
3 **ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。**

4 **エンジン スイッチを" ACC "にして、エンジンを停止します。**

5 **車を安全な道路脇に停めます。**

警告　走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、次のことをお守りください。

- 走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、キーは絶対に抜かないでください。キーを抜くとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

目次
警告
基本操作早わかり
運転をする前に
運転をするときに
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

さくいん

五十音さくいん

症状から調べたいときや、万一のときの処置については、色付き文字の項目をご覧ください。

お

か

き

す

と

な

に

ね

は

ひ

ふ

へ

警告灯さくいん

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール 0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450-0002　名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。

●印刷　C I -2010年 7 月26日　●発行 -2010年 8 月 2 日　初版

M 52B33
01999－52B33